



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 平成27年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造



## はじめに

---

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

これらの事業の一環として、平成 17 年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」を実施しております。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに 1 週間程度派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）と公演を実施するものです。

地域の公共ホールを対象に、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、実施された全国 9 か所の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

# 目次

---

## 事業概要

平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	5
公共ホール現代ダンス活性化事業の考え方	7
事業の流れ	8

## 実施内容紹介(実施日程順)・コーディネーターレポート

北九州芸術劇場（福岡県北九州市）	10
西条市総合文化会館（愛媛県西条市）	18
御殿場市民会館（静岡県御殿場市）	26
ながす未来館（熊本県玉名郡長洲町）	34
静岡市清水文化会館マリナート（静岡県静岡市）	42
飛騨市文化交流センター（岐阜県飛騨市）	50
なかまハーモニーホール（福岡県中間市）	58
（公財）仙台市市民文化事業団（宮城県仙台市）	66
浦安市民プラザ wave101（千葉県浦安市）	74
サブコーディネーターレポート	82

## 事業資料

公演パンフレット	86
平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	94
コーディネーター等プロフィール	99

# 事業概要

## 平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

### 1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、市町村等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

### 2 実施内容

#### (1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
宮城県仙台市	(公財)仙台市市民文化事業団	せんだい演劇工房 10-BOX
千葉県浦安市	(公財)浦安市施設利用振興公社	浦安市民プラザ wave101
岐阜県飛騨市	NPO 法人ひだ文化村	飛騨市文化交流センター
静岡県静岡市	清水文化事業サポート(株)	静岡市清水文化会館マリナート
静岡県御殿場市	御殿場総合サービスグループ	御殿場市民会館
愛媛県西条市	アクティオ(株)	西条市総合文化会館
福岡県北九州市	(公財)北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場
福岡県中間市	(公財)中間市文化振興財団	なかまハーモニーホール
熊本県長洲町	ながす未来館指定管理者共同事業体 代表企業 (株)サンアメニティ	ながす未来館

\*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

#### (2) 開催時期

平成 27 年 7 月～平成 28 年 2 月

#### (3) 事業内容

登録アーティストを約 1 週間の日程で地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下の事業を実施

##### ①地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募等によるホール内で実施するワークショップ（5～6回）

\*アウトリーチ（3回以上）

\*公募等のワークショップ（1回以上）

##### ②公演

有料のコンテンポラリーダンス公演（1回）

##### ③関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む）の学校等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ（1回）

#### (4) 研修会

##### ①全体研修会

日 時：平成 26 年 8 月 5 日(火)～7 日(木)

場 所：東京芸術劇場 \*地域創造フェスティバル 2014 と同時開催

内 容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

##### ②現地見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

#### (5) 費用負担

地域創造と開催地の地方公共団体等が負担する主な経費区分

##### 1) 地域創造が負担する経費

###### ①地域交流プログラム、公演及び関係者向けワークショップ

a) 登録アーティスト（ソロ又はデュオ。ソロの場合はアシスタント 1 名まで負担可能）の派遣に係る経費

公演出演料（1 回）、地域交流プログラム（5～6 回）及び関係者向けワークショップ（1 回）講師料、宿泊費及び日当（6 泊 7 日以内）、現地移動費を除く交通費（往復 1 回分）、出演者に係る損害保険料

\*関係者向けワークショップに係る交通費は、現地下見（個別研修）に係る経費に含む。

b) 公演に係る共演者の派遣に係る経費（1 名まで）

c) テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ 1 名まで）の派遣に係る経費

###### ②現地見（個別研修）

コーディネーター及び登録アーティスト（最大 2 回まで）、並びに必要と判断されたテクニカルスタッフ等（1 回まで）の派遣に係る経費

##### 2) 開催地の地方公共団体等が負担する主な経費

上記 1) 以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

#### (6) 事業実施に対する支援

##### ①全体研修会の開催

##### ②コーディネーターの派遣

#### (7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

### 3 平成 27 年度コーディネーター

佐東 範一（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 代表）

志賀 玲子（プロデューサー）

菊丸喜美子（プロデューサー）

花光 潤子（NPO 法人魁文舎代表）

平岡 久美（Dance in Deed !代表）

### 4 平成 27 年度サブコーディネーター

清水 幸代（LANDSCAPE 代表）

## 5 平成 27 年度登録アーティスト(五十音順)

登録アーティストは全国公募の選考会により選ばれた 6 組 6 名。

登録期間は 2 年間 (平成 27・28 年度)



©平野太呂

16 歳よりダンスを始め、ジャズダンス、クラシックバレエ、モダンダンスの基礎を学ぶ。加えてボディーワークを学び、身体の構造に対する知を深め、自身のメソッド、「コンタクト×バランス」「ポイントワーク」を開発。ダンサーとして日本のダンスをリードする振付家に多数起用されるほか、教師、振付家としての評価も高い。2004 年に設立された Noism の初代メンバーである。近年は、小学校へのワークショップの提供や、ホールと提携した子どものための作品創りなど活動の幅を広げている。

**青木尚哉**



©竹田岳

1987 年舞踏家・古川あんに師事。1995 年ダンスカンパニー「伊藤キム+輝く未来」を結成。1996 年フランス・パニョレ国際振付賞を受賞。2002 年第 1 回朝日舞台芸術賞・寺山修司賞を受賞。2005～2006 年バックパックを背負って半年間の世界一周の旅に出る。2011 年「輝く未来」を解散。小中高生へのワークショップや振付、おやじが踊って給仕する「おやじカフェ」のプロデュースを国内外で行う。京都造形芸術大学客員教授。青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム修了。2015 年新カンパニーGERO を結成して 10 年ぶりに創作活動を再開。

**伊藤キム**



©Masakazu Yoshikawa

クラシックバレエからストリートダンスまで幅広く経験。桜美林大学にて木佐貫邦子に師事。2009 年「Baobab」を立ち上げ、全作品の振付・構成・演出を担う。単独公演のほか、多数のフェスティバルに参加。圧倒的な群舞を持ち味とした集団作品を中心に作品創作を繰り返す。個人ではソロ作品の創作、近藤良平作品出演。俳優として中屋敷法仁等の演出作品に出演。演劇への振付も行う。WS やアウトリーチ活動、レッスン講師など活動は多岐にわたる。トヨタコレオグラフィアワード 2012「オーディエンス賞」、第 3 回エルスール財団新人賞コンテンポラリーダンス部門受賞。

**北尾 亘**



©松本和幸

3 歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トウシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を迫るため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等様々な表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007 年より振付家としての活動を始め、横浜ダンスコレクション R2009 にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マズダンザ賞」をダブル受賞。自身の主宰カンパニー「タバマ企画」を立ち上げ、国内外で精力的に活動中。

**田畑真希**



1998 年大駱駝艦に入艦。舞踏家・俳優である鷹赤児に師事。緻密な振付で構成する作品は、新たな舞踏の可能性を示し注目されている。2008 年、文化庁新進芸術家海外留学制度により、フランスのジョセフ・ナジのもとへ留学。舞踏の特性を生かしたワークショップは幅広く好評を博している。演劇作品などへの客演も多数。第 34 回舞踊批評家協会賞新人賞受賞。

**田村一行**



ANTIBODIES Collective 振付家・ダンサー。2000 年-2014 年「Dance Company BABY-Q」を主宰。国内外の劇場やフェスティバルにて舞台作品を数々発表。ミュージシャンと即興セッションも多数行う。トヨタコレオグラフィアワード、横浜ソロ×デュオ〈Competition〉+などで大賞を受賞。2015 年、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を結成。舞台作品制作やパフォーマンスを実践している。時に「HE?XION!」で洋服デザインや「HOLY-C 60」として音楽シーンでも活動中。www.antino.org

**東野祥子**

## 平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

### 1 期 日

平成 26 年 8 月 5 日(火)～7 日(木)

\*地域創造フェスティバル 2014 と同時開催

### 2 会 場

東京芸術劇場

### 3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップと作品に触れ、理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

### 4 プログラム内容

8 月 5 日(火)

時間	会場：ミーティングルーム 7、シアターイースト
13:45～14:00	開講式・オリエンテーション
14:00～15:00	セッション①「プレゼンテーションの前に」 講 師：コーディネーター/サブコーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美 ／清水幸代、小倉由佳子
移 動・休 憩	
15:30～16:40	セッション②「アーティストプレゼンテーション」＊ (登録アーティスト 2 組 2 名)
休 憩	
17:00～17:30	セッション②「アーティストプレゼンテーション」＊ (登録アーティスト 1 組 1 名)
移 動・休 憩	
18:00～19:00	セッション③「フィードバック～プレゼンを振り返って①」 講 師：コーディネーター/サブコーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美 ／清水幸代、小倉由佳子

\*のセッションは、地域創造フェスティバル 2014 のプログラムとして公開

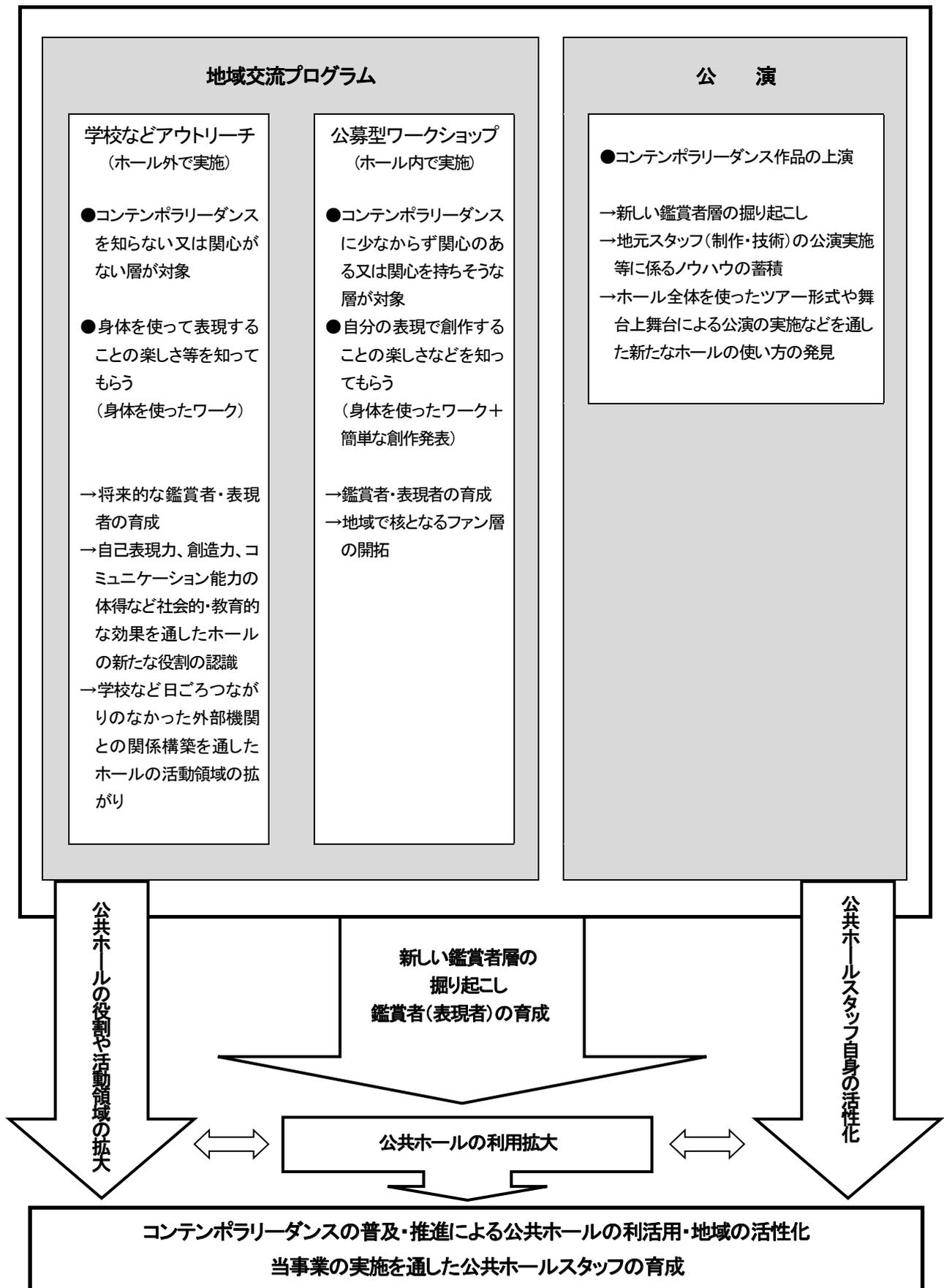
8月6日(水)

時間	会場：ミーティングルーム7、シアターイースト
10:30～12:00	セッション④「ダン活地域交流プログラムの可能性」 講 師：コーディネーター/サブコーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美 ／清水幸代、小倉由佳子
休 憩	
13:00～14:30	セッション⑤「ダン活のススメ」＊ 講 師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美 事例紹介ホール：山県市文化の里花咲きホール（伊藤直樹） 富山市民プラザ（長谷川万葉、永井慎）
休 憩	
15:30～16:40	セッション⑥「アーティストプレゼンテーション」＊ （登録アーティスト2組2名）
休 憩	
17:00～17:30	セッション⑥「アーティストプレゼンテーション」＊ （登録アーティスト1組1名）
移 動・休 憩	
18:00～19:30	交流会（情報交換会）

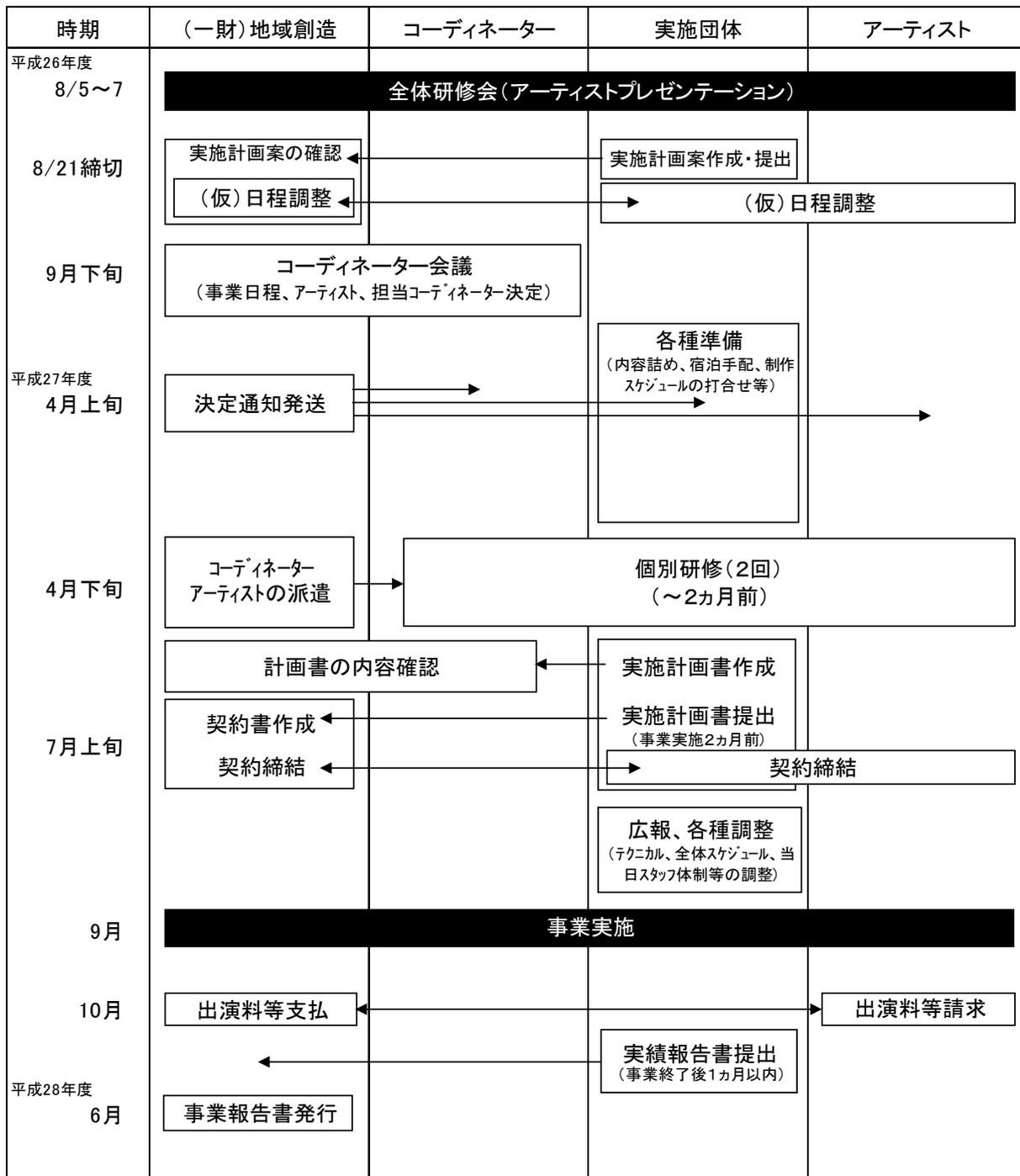
\*のセッションは、地域創造フェスティバル2014のプログラムとして公開

8月7日(木)

時間	会場：ミーティングルーム7
11:00～13:00	セッション⑦「フィードバック&ダンスの広報を考える～プレゼンを振り返って②」 講 師：コーディネーター/サブコーディネーター 佐東範一（全体進行）、志賀玲子（進行）、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美 ／清水幸代、小倉由佳子
休 憩	
14:00～15:40	セッション⑧「ダンス制作の留意事項&フィードバック」 講 師：コーディネーター/サブコーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美 ／清水幸代、小倉由佳子
15:40～16:00	事務連絡・閉講式



# 事業の流れ(9月実施のケース)



# 実施内容紹介

## (実施日程順)

北九州芸術劇場（福岡県北九州市）

西条市総合文化会館（愛媛県西条市）

御殿場市民会館（静岡県御殿場市）

ながす未来館（熊本県玉名郡長洲町）

静岡市清水文化会館マリナート（静岡県静岡市）

飛騨市文化交流センター（岐阜県飛騨市）

なかまハーモニーホール（福岡県中間市）

（公財）仙台市市民文化事業団（宮城県仙台市）

浦安市民プラザ wave101（千葉県浦安市）



# スケジュール

福岡県北九州市／北九州芸術劇場

	下見①	
	2/7(土)	2/8(日)
9:00		
10:00		会場下見
11:00		打ち合わせ
12:00		
13:00	北九州着	市内見学
14:00	沼津見学	(平尾台)
15:00		
16:00	打ち合わせ	
17:00		
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	6/23(火)	6/24(水)
		テクニカル 打ち合わせ
	北九州着	
	東筑紫下見	
	北九大下見	SPレコード
	コラボラ 打ち合わせ	見学
		インリーチ
	小劇場見学	
		out

	実施期間						
	7/7(火)	7/8(水)	7/9(木)	7/10(金)	7/11(土)	7/12(日)	7/13(月)
9:00							帰途
10:00		公演準備	公演準備	公演準備	公演準備 ダンサーリハ	クリエイション④ (ゲネプロ)	
11:00		コラボラ アウトリーチ					
12:00	北九州着						
13:00	東筑紫高校 アウトリーチ				クリエイション③	直し	
14:00						公演	
15:00							
16:00		戸畑工業高校 アウトリーチ					
17:00	打合せ					公募WSトーク編	
18:00					通し稽古		
19:00	公募WS 身体であそぶ編		クリエイション①	クリエイション②			
20:00					直し	打ち上げ	
21:00							
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

当劇場では、小中学校や福祉施設へのアウトリーチを別途実施しているため、このダン活ではこれまでやったことのない所にアウトリーチに行きたいという思いがあった。また同時に、アーティストが北九州の良さ・特徴を感じられるよう地域色を大切にアウトリーチ先の選定をおこなった。

【東筑紫学園高校】九州唯一の演劇コースを持つ高校。午前中は一般科目、午後はコースごとの専門的な授業に分かれている。今回は、演劇類型の1・3年生の生徒たちにWSを実施した。自分を解放することに慣れている3年生に比べ、1年生は何をするにも元気がないのが課題だったため、2人組になるときは学年の違う人とペアを作るように促したことで、終わる頃には学年わけ隔てなくダンスを楽しむようになっていた。

【コラボラキャンパスネットワーク】「乳幼児子育てネットワーク ひまわり」など市民活動団体が北九州市立大学を拠点に結ぶネットワーク。北九州市は政令市の中で子育てに対する満足度が高いと言われ、実際に子育てを楽しんでいる人が多いと感じられるため、この団体を選定した。子育て中の母親にかかる足腰の負担や日頃の運動不足を解消することが課題とのことだったので、乳幼児と一緒にできるストレッチをしたあと、音楽に合わせて動く東野さんのいろいろなポーズのマネをして遊び、最後は外に出て空の下で踊った。

【戸畑工業高校】北九州は製鉄・ものづくりの街として栄えてきたことから、市内に工業高校の数も多い。戸畑工業高校の先生は、ダンスも同じ“ものづくり”だよ、と理解を示してくれて、とてもスムーズに実施が決定した。先生からは、1つのものを創り上げるプロセスを体験させたいとの要望があったので、グループワークでダンスをつくり、最後に発表するプログラムをおこなった。男子が9割以上を占め、ダンスに興味を持ってくれるか不安だったが、純粋な生徒が多くみんな楽しそうに取り組み、講師もスタッフも驚くほどだった。ダンスを生み出すプロセスがものづくりの発想の一助になるという点は劇場としても発見だった。



東筑紫学園高校



東筑紫学園高校



コラボラキャンパスネットワーク



戸畑工業高校

## ●公募型ワークショップ

公募型としては、ダンス経験の有無に関わらず誰でも参加できるワークショップ「身体であそぶ編」と、最終日の公演に出演するクリエイションワークショップ「あなたもダンサー編」、そして、観るダンス・踊るダンスについて言葉にしてみるワークショップ「みんなでトーク編」の3つを実施した。

「身体であそぶ編」では、全くのダンス初心者や役者など幅広い人が集まった。自由に身体を動かすこと、イメージした通りに動くことが面白くも難しくもあり、戸惑いながらも楽しく参加しているようだった。

「みんなでトーク編」には、WS参加者と観客が参加した。出演者側が感じたことと観客側が持った感想を互いに共有することで、ダンスを“踊る”“観る”ことへの理解を深める機会となった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

参加者：財団職員、東筑紫高等学校の講師（バレエ）、沼楽保存会（見学）

普段、あまり身体を動かさない参加者が多いため、ストレッチを入念におこなった。1人で家でも実践できそうなストレッチに参加者の反応もよかった。その後2人ペアになり、1人が目を瞑りもう1人が身体を操って彫刻のようにいろんなポーズを作るワークをおこなった。自分の想定外なポーズになることが面白く、動く方も動かされる方も夢中になっているようだった。

財団職員、高校講師には驚くほど身体がほぐれたと好評だった一方で、沼楽保存会のメンバーには子どもが受講するイメージがわからないと難色を示された。



7月7日(火) 東筑紫学園高等学校 演劇類型

●東野さんによるデモンストレーション

まずは、東野さんとアシスタントの吉川さんによるダンスのデモンストレーションから始まった。スタイリッシュな音楽の中で、ダイナミックなダンスを次々と繰り返すと、生徒たちは釘付けになっていた。プログラムの中で実際におこなうワーク(2人組でポーズを作り合うもの等)も実演してみせたことで、生徒たちもイメージが掴みやすくなり、その後の進行もスムーズだった。

●2人組で身体の隅々までストレッチ

ペアになって手足や体側など入念にストレッチをおこなった。ペアでやるストレッチなので楽しくコミュニケーションを取りながら実践でき(箸が転んでも笑う年齢だからか、手を繋ぐだけでも楽しそうだった)、また相手の体重を使って普段伸ばせない筋肉までほぐすことができたようだった。

●東野さんのダンスをまねてみる

2グループに分かれて講師の動きをまねして動いた。講師は手加減なしでどんどん動くので、生徒たちも「恥ずかしがっている暇はないんだ!」と感じたようで必死に動き回っていた。また、その様子を観ている生徒たちから笑い声がこぼれ、踊ることに観られることにも抵抗が薄れていく様子が窺えた。

●2人組でいろんなワークに挑戦してみる

ペアになって座った状態から互いに体重を預けながら立ち上がってみる、目を瞑った相手にいろんなポーズをつけてみる等、ペアでいろんなワークをおこなった。1年生と3年生でペアを組むことで互いのことをよく知るきっかけになり、学年間の距離が縮まったようだった。3年生が上手く1年生をリードしたり、普段より活発に先輩に話しかけたりと微笑ましい光景だった。

●全員で1人のダンスをまねてみる

心身ともにほぐれたところで、最後に誰か1人リーダーを決めて、自由に動いてもらってみんなでまねをしてみた。序盤では決して1人で踊れなかったと思うが、ここまでのプログラムの中で自分の踊りに自信を持ったようで、リーダーも他の生徒も思いっきり踊っていた。最後には、5名の生徒から公募WSにも参加したいという申し出があり、公演にも出演することになった。



## 公演

## 東野祥子ダンス公演『世界は不在の中のひとつの小さな星ではないか？- “A World inside the Absence” -』



東野さんが2012年にフランスで上演した同タイトルの作品をベースに、公募ワークショップ参加者の出演シーンを織り交ぜ、北九州でしか観られない特別バージョンとして創作したものを上演した。出演者は東野さん、アシスタントの吉川さんの他にカンパニーのダンサー2名も駆けつけ、公募ワークショップの15名、舞台上でオペをおこなったテクニカルのカジワラトシオさんという合計20名の大所帯となった。5日間のワークショップでは、ダンス経験の有無も疎らな参加者に対して、1人1人がもっともイキイキする形で振り付けされていき、迫力のあるシーンが完成した。踊れる/踊れないにかかわらず、ありのままの身体の魅力を引き出すことに長けた東野さんならではの振付方法に、参加者も刺激を受けていた。

舞台に関しては、下見で小劇場を見学した際に、舞台を作り込まずそのまま使用したいという東野さんの強い希望があり、平土間にリノを張って囲みの客席を組むという劇場でも実施したことがない変形舞台となった。また、2階部分のキャットウォークや舞台後ろの廊下部分まで使用することになり、劇場のテクニカルスタッフにとっても挑戦が多く、各セクションがこれまで劇場で培ってきたノウハウがあってこそこの公演だったのではないかと思う。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・とても大掛かりな舞台美術、そして音響も凄かったです。ワークショップの方々は素人とは思えないくらいテクニックに見えました。作品もものすごく創り込まれていて、地方でみられて良かったです。こんな作品がもっと身近にみられるようになると嬉しい。
- ・4日間で大人数の個性を1人1人とらえ、舞台上に生かしているのがすごかったです！
- ・現代音楽を、ダンスで解説して頂いたような舞台だと感じました。一般のワークショップ参加者がまじっているとは思えないくらい、素晴らしかったです。
- ・人間の身体ってあんなに節々まで動くとびっくりしました。DJの人もすごく良かったです。
- ・劇場の企画のおかげで、どんどんダンスが好きになります。要素がいっぱいでずっと見入ってしまう公演でした。知っている俳優さんやダンサーさんがたくさん出演していて、自分も頑張ろうと思いました。
- ・東野さんの、壊れそうな動きはとても迫力がありました。人数が多いのも迫力がありよかったです。ハラハラしたり、和んだり、辛くなったり、色々な感情を引き起こしてくれました。

●この事業への応募動機

北九州芸術劇場では、これまでもダンス公演やアウトリーチは実施してきているが、政令指定都市もダンスに参加できるようになったことで、今まで劇場としても取り組んだことのない新たなプロセスによる公演・アウトリーチに挑戦する絶好の機会であると考えた。1週間という短期間に、1人のアーティストがアウトリーチとWSを複数回実施し、最終日には公演を行うという枠組の中で、地域とアーティストが密接に関わり合いながら、この地域ならではの作品クリエーションができるのではないかと期待を感じ、今回の応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

アーティストが地域にダンスを「届ける」だけではなく、地域とアーティストが「呼応する」相互関係を築くことを目標として企画した。アウトリーチと公募ワークショップを実施した際にアーティストが感じたこと・受け取ったことを、公演にも反映させることで、この地域でしかできない作品を上演したいと考え、アウトリーチ先には北九州らしさが感じられるような団体を選ぶよう心掛けた。また、一般公募で集まった方々が公演に出演するクリエーションWSを設けることで、アーティストと地域のダンサーとの出会いから、新たな科学反応が生まれ作品に表出することも期待した。音楽もこの地域のものを取り入れたく、「北九州SPレコードを聴く会」から「小倉節」のレコードと蓄音機を借り、公演で使用した。

●企画実施にあたり苦労した点

①アウトリーチ先とのやりとり：学校や施設とは異なり、活動場所を持たない団体や、定期的に活動しているわけではない団体（NPO法人や市民活動団体）の場合、団体主催者、活動拠点となる施設の担当者など複数の方との調整が必要となり、連絡に苦労した。

②民俗芸能とのコラボレーション：当初、アウトリーチ先として市内に伝わる民俗芸能の保存会を予定していたが、保存会の幹部の理解がなかなか得られなかったため、結果として実施見送りとなってしまった。具体的には、コンテンポラリーダンスを体験するメリットへの理解、アウトリーチのために参加者を拘束することの難しさ、民俗芸能を短時間でアーティストに伝えることの難しさなど、複数の障害が発生した。

●事業の成果

この事業で目指していた「地域とアーティストが呼応する相互関係を築く」という目標は、多くの場面で達成することが出来た。東筑紫学園高校の生徒が公演にも出演する運びとなったこと、公募ワークショップの参加者の持ち味を活かしたシーンが数多く生まれたこと、また、公演に地域の音楽を取り入れるという裏プログラム(?)においても、「北九州SPレコードを聴く会」の代表者にみんなでお話を聞きに行くという、普段の劇場事業ではあまりやったことのない交流が作品へと繋がり、この地域でしか出来ないダンス公演を創作することが出来たのではないかと感じる。

●反省点、今後の課題など

アウトリーチについては、民俗芸能のようにいろいろと条件が厳しく小回りの利きにくい団体の場合は、ダンスプログラムを必ず実施するという今回のアウトリーチの枠組みに上手く当てはめることが難しかった。この経験を活かし、今後はアウトリーチではなく、双方にとって有意義な地域交流の形（例えば作品創作や互いの作品を鑑賞しあう等）を探って実施したいと考えている。

公演の集客に関しては、今回はワークショップ参加者が公演に出演するため、知り合いがたくさん観に来るだろうと予想していた。しかし、ワークショップの締切日（＝公演出演者の発表）から公演までの日数が短く、知り合いをたくさん呼んでもらうことが難しかった。

**●この地域のダン活の特徴**

既にコンテンポラリーダンスやアウトリーチの事業実績を持つ北九州芸術劇場は、ダン活への応募動機、目標が大変明確であった。2 度の下見と 1 週間滞在というダン活の枠組みを使うことで、アーティストがダンスを「届ける」だけではなく、地域とアーティストが「呼応する」相互関係を生み出し、地域とアーティストが密接に関わり合う関係の中から、北九州ならではの作品をクリエーションすることを目指して、ダン活に応募され、企画を練り上げられた。

アウトリーチプログラムでは、今までのダンス事業でアプローチしてこなかった対象で、かつ、北九州らしさを感じられる対象として、2 つの高校と子育てサークルで実施し、好反応であった。しかし、そのこと以上に注目すべきは、結果的にアウトリーチプログラムの対象とはならなかった候補への、担当者の着眼点とアプローチである。まず「北九州SPレコードを聴く会」との出会いは、貴重な「小倉節」のレコードを公演に使わせていただいたということ以上に、2 度にわたってお話を伺うことで、北九州という街を理解する大きな助けとなった。また、民俗芸能を継承する保存会へのアプローチは、今回は形にならなかったけれど、まずはそれで良かったように思う。コンテンポラリーダンスと民俗芸能がどう関係するのか、という理解がなかなか得られなかったということもあるが、一方、外部の者にはなかなかわからない民俗芸能を継承していく地域の抱える複雑な事情もあるだろう。こちらを理解してもらおう、ということと同時に、先方を理解するというのも、呼応する相互関係の構築には必要なことであろうし、それは最初からオープンには進まないものだと思う。その一端に触れたことが、北九州出身ではない若い担当者にとっては貴重な体験になったと思う。他にも当初、とても興味深い対象が候補にあがっていた。ぜひ、今回のことに懲りずに、事業で形になるのは氷山の一角だと肝に銘じて、地域の多様な方々へとアプローチして行ってほしい。その蓄積がきっと企画者の財産になると信じている。

市民参加型公演は、東野祥子さんの手腕に加え、カンパニーメンバーと劇場テクニカルスタッフの経験と熱意によって大変充実したものとなった。参加者一人一人の個性が生かされるシーンが丁寧に創りこまれ、その一方で、全員で踊る決まった振りを必死に練習するシーンもあり、参加者はダンスの醍醐味を存分に味わえたのではないか。東野さんは丁寧に一人一人の話を聞き、そこからシーンを起こし、そしてテクニカルスタッフへもどんどんと要望を提案していくので、関わった人が皆、ここで私達が創り上げた作品という実感をもつことができたのではないか。

**●課題とこれからに向けて**

ただ 1 点、残念であったのは観客動員数であろう。アクティングエリアを広くとったために、それほど大きな客席ではなかったのに、どうしたことか。何年かダンスの公演事業とワークショップ事業を継続してくると、ワークショップや舞台に参加して「踊りたい人」は一定数いるのに、純粋に「観たい人」、観客数が伸びなくなるというのは、私も過去に経験したことがある。そのようなある段階に差し掛かっているのか。あるいは、市民参加型作品ということが裏面に出た、つまりプロの本格的な公演ではないという憶測が働いたか。東野さんの作風が知られていけば、この問題は解決していくことなのか。ダン活での経験を、通常のダンス事業とうまく接続させて、ダンス事業を継続実施してきた街だからこそその課題にじっくりと取り組んでいかれることを願っている。

# 西条市総合文化会館 実施データ

実施団体	アクティオ株式会社
実施ホール	西条市総合文化会館
実施期間	平成 27 年 8 月 18 日(火)～8 月 24 日(月)
アーティスト等	アーティスト:田畑真希 アシスタント:王下貴司 共演者:カサヤマリコ
コーディネーター	花光潤子

## ■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)

6 月 9 日 (火) 19:00～20:30 アウトリーチ関係者・会館職員、10 名、小ホール

## ■地域交流プログラム

アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)

- ① 8 月 18 日 (火) 17:00～18:30 愛媛県立西条高等学校ダンス部、22 名、小ホール
- ② 8 月 19 日 (水) 15:00～16:00 西条警察署署員、17 名、西条警察署
- ③ 8 月 20 日 (木) 20:00～21:30 西条市レクリエーションバレーチーム、9 名、ひうち体育館

公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 8 月 19 日 (水) 19:00～21:00 小学生以上、1,000 円、9 名、小ホール
- ② 8 月 20 日 (木) 14:00～16:00 高校ダンス部、1,000 円、21 名、小ホール

## 公演(演目、公演日・開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

### ■ 『西条ブルース』

『メルヘン』

■ 8 月 23 日 (日) 14:00 開演 (13:30 開場)

■ 田畑真希、王下貴司、カサヤマリコ、デジ (音楽)、ワークショップ参加者 6 名

■ 1,000 円 (当日 1,200 円)

■ 西条市総合文化会館 大ホール

■ 60 名



# スケジュール

	下見①	
	4/22 (水)	4/23 (木)
9:00		
10:00		地域資源視察
11:00		↓
12:00		
13:00	アーティスト着	↓
14:00	打ち合わせ ホール下見	アーティスト発
15:00	↓	
16:00		
17:00	↓	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	6/9 (火)	6/10 (水)
		アウトリーチ先 下見
		↓
	アーティスト着	打ち合わせ
	打ち合わせ	アーティスト発
	↓	
	インリーチ	
	↓	

	実施期間						
	8/18 (火)	8/19 (水)	8/20 (木)	8/21 (金)	8/22 (土)	8/23 (日)	8/24 (月)
9:00							
10:00				仕込み		リハーサル	
11:00						↓	アーティスト発
12:00							
13:00				クリエイション WS			
14:00			公募 WS②	↓	クリエイション WS	公演	
15:00	アーティスト着	西条警察署 アウトリーチ	↓	↓	↓	↓	
16:00	打ち合わせ			↓		WS参加者 打ち上げ	
17:00	西条高校 アウトリーチ			リハーサル	↓	バラシ	
18:00	↓				ゲネプロ		
19:00		公募 WS①		↓	↓		
20:00		↓	レクバレー アウトリーチ	↓	↓		
21:00							
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

【愛媛県立西条高等学校ダンス部】市内の高校、部活動の一環で実施。会場は、高校での部活動の練習場所が狭いため会館の小ホールを使用し、1年生から3年生までの22名が参加。このアウトリーチでは、普段から一緒に作品を作り上げ、練習や大会に参加している仲間ならではの一体感や雰囲気が出ていたように思った。最後の方に行った、ホワイトボードを使用して、みんなが思い思いに描いた線をひとつの作品として、それを例に“立つ・歩く・走る”普段行っている動作から絵を作っていく（動きで表現する）。田畑さんからの引き出しにより高校生達が思い思いに動き、そのひとつひとつが作品としての表現につながっていく面白さを感じた。受講後の生徒の感想には表現することの難しさなどがあったようだが、普段得ることのできない貴重な経験・時間となり、目に見えない壁をひとつ取っ払うことができたように感じた。今回の主旨に直結するアウトリーチになった。

【西条警察署職員】日頃から、私たち市民を守ってくださる警察職員の皆様。身近な存在ではあるものの、特別な存在のためか少し遠い存在にも感じる警察職員の皆様。その職員の皆様を対象にアウトリーチを行った。私自身、今回の企画の中でも、興味深いアウトリーチだったため、大変楽しみにしていた。老若男女、17名が参加した。注目すべきは、皆さんの動きとノリの良さでした。田畑さんの空気感にどんどん魅了されているように感じた。新聞社の取材もあり、数日後の新聞記事に取り上げていただくことができ、公演の告知にも繋がった。公演にも署長さんをはじめ職員の方々も親子で鑑賞にきてくれた。

【レクリエーションバレーチーム】西条市では、レクリエーションバレー（レクバレ）が盛んで、レクバレ人口も多い。そこで、地域の皆さん（大人層）への、創作ダンスアピールの場として企画。大人というのもあってか、はじめは動作がゆっくりだったり、反応が少なかったりという印象だったが、そのうちにだんだん活発になってきたのが印象深い。フィードバックでは、とてもいい汗をかき、創作ダンスへのイメージが変わった、身近なモノである、と言っていたことに、今回のアウトリーチは有意義な時間になったと思う。心残りは当初の予定より参加人数が少なかったことだったが、参加いただいた方のほとんどは公演にも来てくれた。創作ダンスへ興味をもってもらえたのではないかなと思う。



西条高等学校ダンス部



西条警察署



西条警察署



レクリエーションバレーチーム

## ●公募型ワークショップ

小学生以上を対象にしたワークショップと高校ダンス部を対象にしたワークショップを実施した。

【一般ワークショップ】様々な年代の方に参加いただけるように、対象者は小学生以上とした。西条市の広報にも募集を掲載しチラシ配布での告知を行ったが、参加人数は予定を下回った。小学生2名、高校生6名、一般1名の合計9名。せっかくの機会を活かせなかった事に私自身は悔やむ思いだった。ワークは2チームに分かれステージを使って身体の一部を触れて作品にしていく等。小学生の表現力の豊かさは印象的だった。このワークショップに参加した小学生は公演の一部に参加することとなった。

【高校ダンス部】ダン活応募のキッカケとなる、「未来を担う地域の若者を対象に…」をベースに市内外の高校ダンス部のスキルアップや今後の刺激や成長につながるようなキッカケになって欲しい思いで企画した。結果的には市内ダンス部と隣の市のダンス部の2校の参加となったが、交流ができたこと、お互いを意識し今後の部活動に刺激が加わったこと、プラスの要素ばかりだった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

創作ダンスのワークショップ……。参加・経験のないことで、我々にとって貴重な体験となりました。アウトリーチ先の参加者が、諸事情により急遽参加が困難になってしまい、ほとんど会館の職員での参加となってしまいました。会館職員数が少ないこともあり普段からコミュニケーションは取れていると思いますが、このように一緒になって関係性も取っ払って、身体を動かす！！といった機会はこれまでになく、創作ダンスのワークショップに参加と聞き、参加前は不安を口にしていた職員も、終始笑顔だったのがとても印象的でした。会館の責任者、事務担当の職員、舞台担当の職員、舞台技術の音響職員、照明職員、館内での役割は様々ですが、私以外の職員に企画内容だけではなく、体験ができるというのは、本番に向けてのプラス要素が大きかったと思います。チームワークの増強にも繋がり、貴重な時間となりました。



## 地域交流プログラム内容

### 8月20日(水) 公募型ワークショップ(高校ダンス部)

#### ●目的

ダンスの街への一歩として、高校で部活動として創作ダンスをしている若年層のスキルアップ。近隣市にも参加募集のご案内をさせていただいた。部活動では、普段体験し難いワークショップに参加することにより、今後に活かせる経験をしていただきたい。この夏休みに仲間と、より一層楽しい時間を過ごし、ダンスの魅力を再発見してほしい。他校との交流も目的のひとつ。

#### ●内容

はじめは、ウォーミングアップで、音楽に合わせてジャンプ！走りながらジャンプ！！動き回ってジャンプ！！早くも田畑さんは高校生のハートをつかんでいました。田畑さんや、王下さんの動きに合わせてたり、田畑さんの声に合わせて動いたり、自由に動いたり…ストレッチをしたりと、参加者の動きも緊張がほぐれてきたのか、だんだんと表情もイキイキとしていきました。

その後、順番に数分ずつステージに上がり、音楽に合わせて自由に表現をし、田畑さんからアドバイスをいただき、他の生徒のみなさんは、その表現を鑑賞する。表現する側、鑑賞する側、両方を体験しました。

次は、全員一同に参加、2組に分かれ、それぞれ一列に並び向かい合う。向かい側の列へ自分なりの表現をしながら前進。個々の表現のみならず、すれ違う際に人と人との絡みが生まれ、新しい表現が生まれる。またその表現に他者が加わり、更に新しい表現が生まれる。

まさに、正解も不正解もない、表現することの楽しさや自由、全てを詰め込んだ空間でした。そこにはひとつ作品が生まれていました。

最後は、クールダウンとともに、田畑さんからのお話をいただき、ワークショップを終了しました。

#### ●ダンス部顧問の感想

普段の部活動では今までしたことのない即興についていくことができ、これだけ表現ができることを発見した。今後の練習にも取り入れたい。貴重な経験ができた。

#### ●参加生徒の感想

はじめは恥ずかしかったけど、動いていると、楽しさでいっぱいになり、次に何が起きるかワクワクした。普段の練習、大会に向けての作品づくりに活かしたい。

#### ●まとめ

充実したあっという間の2時間でした。創作ダンスをしている高校生にとって、貴重な時間を過ごしていただけたと思います。また、顧問の先生にとっても生徒の新たな一面を発見することがあったようで今後の部活動の何かにつながるのではないかと思います。イキイキと堂々と表現をしている高校生の皆さんを目の当たりにし、これからの、西条市ダンスの街へ計画の期待が膨らみました。他校生との交流もあり、双方刺激を受けていただけたのではないかと思います。良きライバルとして、創作ダンスを盛り上げていただきたいと思います。ぜひお手伝いをしていきたい思いでいっぱいでした。いつしか創作ダンスが盛んな街になりますように……。



## 公演

## 田畑真希ダンス公演『メルヘン』



公演は2部構成。第1部は、ワークショップに参加いただいた西条高校の2年生4名と、市内小学生2名による『西条ブルース』の上演でした。数日間で、田畑真希さんにプロデュースいただき世界観ある作品を本公演のために作っていただきました。このメンバーでの上演は“この公演たった一度きり”。緊張感あふれる中、出演くださった6名の方々も短時間の練習で本番までに仕上げてください第1部の作品を完成させてくれました。

第2部は、田畑真希さんの作品を上演いただきました。作品のストーリー性、動作、またそこに欠かせない音と明かり……全てのタイミングが合わさり、あの空間が生み出される。その時間は日常を忘れ作品にひきこまれる…不思議な感覚に陥りました。

今回の公演では、大ホールのステージ上に仮設のステージ・客席を作りました。コーディネーター、アーティストの皆さまにご提案いただいた案をもとに、平台などを使用して四方に客席を作りました。作品を四方から観ることができる！いつもとは違った舞台スタイルに創作意欲が沸きました。舞台スタッフと相談を重ね、客席からの見え方や安全面（客席の段差など）を考慮し座席づくりをしました。既存のステージ上にステージを作ることで、客席とステージの距離を近く設置することができたので、客席からは出演者の僅かな動きや表情など細かな所作も感じることができ、お客様も作品の世界観に、より一層入り込むことができたのではないかと思います。

第1部に出演いただいたワークショップ参加者は高校生・小学生であり、未来を担う若年層の方々に貴重な体験をしてもらえたのではないかと思います。第1部では参加するキッカケ、第2部では鑑賞するキッカケ、どちらも創作ダンスに興味・関心を持っていただくキッカケになりました。ダン活応募動機である「ダンスの街」へも実現の1歩を踏み出せたように思います。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・呼吸、タイミング、音楽全てが近くて、今までとは違うダンス公演を観られて良かったです。
- ・斬新でとてもおもしろい舞台構成で振りと照明、音楽もとてもひとつという感じを受け、とてもステキでとても面白かったです。
- ・初めて観るダンスでした。良かったです。
- ・エネルギッシュで素晴らしいと思った。
- ・初めて観るジャンルのダンスでしたがストーリー性が感じられ、表現することの素晴らしさを感じました。
- ・おもちゃ箱をひっくり返したような感じです。
- ・ダンスを目の前で観たのは初めてだった。迫力があった。
- ・あっという間に、作品が終わりました。また観たいです。
- ・自分がいつも踊っているダンスとは違っていました。とても新鮮でした。
- ・視線の動きが心に残りました。身体の動きが不思議でした。
- ・目が離せなくて、あっという間でした。なんだか最後は涙が出そうでした。

### ●この事業への応募動機

『今からはじめよう！ゼロからはじめよう！』

私たちの街では、まだまだ現代ダンスが浸透していません。市民の皆様にも、身体を動かすこと、表現することの自由、正解も不正解もない、現代ダンスを身近で体験・体感・鑑賞をすることにより、ひとりでも多くの方に関心を持っていただき、西条市を“ダンスの街”として活性化していきたい！また、未来を担う地元学生にもワークショップ等に参加していただき、若年層のホール利用促進と主催事業の多様化をはかるためダンス事業を開催したいと考えました。

### ●事業のねらいと企画のポイント

アーティスト、コーディネーターを派遣いただくことにより、コンテンポラリーダンスをより地域の皆様知っていただくこと、この事業を通して未来を担う地元高校ダンス部の皆さんに、普段経験し難いワークショップに参加いただき“ダンスの街”となる第一歩を踏み出したい。

アウトリーチについては、警察署の皆様に参加いただくことによる話題性を重視し、取材などによる公演の告知にもつなげたいと考えました。

### ●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ、ワークショップの参加人数やスケジュール調整について困難なところがありました。

公演の集客については、事前告知は紙媒体での告知、友人・知人からの口コミによる告知、西条市 FM 番組での開催告知などを行いましたが、公演日が夏休み中の日曜日で各所にて様々なイベントが行われていたこともあり集客することに難しさを感じました。

### ●事業の成果

皆様のご協力・ご提案をくださったおかげで、アウトリーチ・公募型ワークショップ、公演を終了することができました。

事業の成果としては、まだまだ出来たこと、もっと出来たこと、終了した今、思うことがあります。当市ではコンテンポラリーダンスの興味や関心はこれからだと思います。今回の企画は、小さな一歩だったかもしれませんが、ダン活を実施させていただいたことにより、一歩踏み出すことが出来ました。今回のダン活事業で、キッカケやヒントを得て今後の一歩につながる経験となりました。

公演の第1部の出演は、ワークショップに参加してくださった市内高校生4名と小学生2名でした。ダン活事業への応募動機のひとつである、未来を担う若年層の皆さまに興味・関心を持っていただくことができたと思います。

アウトリーチ、ワークショップに参加してくださった方、公演を鑑賞してくださった方…、興味・関心を持っていただけたと思います。今後、ひとりでも多くの方に興味・関心を持っていただけるよう会館として努めたいと思います。

### ●反省点、今後の課題など

事前の準備や、公演の告知など、計画的に進められなかったことです。時間をもっと有効活用できていればと思うところがあります。また、集客の難しさはダイレクトに感じました。せっかくの貴重な機会を活かせなかったことに悔います。ただ、ご来場いただいた皆様には、大変喜んでいただけたので、今後につながると思います。全てに於いて、皆様のご協力あつての事業でした。感謝の気持ちをもって今後の課題に取り組みたいと思います。ありがとうございました。

### ●この地域のダン活の特徴

西条市は豊かな自然に囲まれ、街の随所に“うちぬき”と云われる地下の浸透水が湧き出る水の都である。会館のすぐ脇の川端にも水場があり、市街地を周遊する水めぐりのコースの一箇所となっている。人々が喉を潤すために立寄ったり、小型容器に水を溜めて持ち帰ったりするなど、暮しの癒しスポットとして市民に親しまれている様子が伺える。この恵まれた立地に建つ文化会館は指定管理のアクティオ株式会社が運営している。第1回目の下見時には館長が会議に同席し、ダン活への熱意溢れる期待と抱負を滔々と語り新鮮な驚きで私たちを迎えた。彼の出身校でもある地元の名門愛媛県立西条高校のダンス部にダンサー田畑真希を派遣して彼らのレベルアップを図りたいと云う。また、ダンスを通して地域の活性化に貢献する若者を育成したいと将来の展望を語った。イケ面で40代の館長は、聞けば公募で選ばれたようだ。地域の文化芸術の発展を担うビジョンを掲げ、やる気満々といった印象を受けた。愛媛県はダンスが盛んな土地柄で、高校生のダンスコンクールでも松山高校を始め競合校がしのぎを削っている。その中で西条高校も毎年がんばって作品を発表してきた。地域のダンス部高校生と作品を創る、その魅力的な案に田畑さんも即同意し、皆の構想は膨らんでいった。

#### 創作に必要な制作準備

ところがいざ蓋を開けてみると、高校生たちのスケジュール調整にかなり手間取った。ダンス部へのアウトリーチは総勢15名だったが、実際の公演に参加できた高校生は4名。プロで活躍するダンサー・振付家にみっちり指導してもらえど又とないチャンスであったのに、他の大会や試験などの学校行事と重なり、参加する機会を逃してしまったのは非常に残念であった。頭数が多ければ良いと言うわけではないが、人数のボリュームによって作品の構成や内容も変わってくる。いったい何人が参加できるのか間際までわからない状態が続いたのは、作品を創作するダンサーにとってかなりの負担となった。ダンサーは全ての労力をつぎ込んで作品を製作する。市民参加というプロではない人たちを舞台上げ、入場料金を徴収できるだけのレベルのものを創らなくてはならない。その責任を覚悟して引き受けている。それを依頼したプロデューサーである会館の担当者も、きちんと依頼した責任を自覚し、ダンサーの創作に必要な準備を整えなくてはならない。調整が困難な状況であったにしろ、今どのような進行状態なのか、何が問題となってその対応策をどう進めていこうとしているのか、気をもんでいるダンサーに逐一報告することが最低限の制作の誠意であると言えよう。

#### 舞台に立つ覚悟を学ぶ高校ダンス部

田畑真希は普段元気で明るいイメージだが、高校生へのワークショップと稽古はとても厳しいものだった。ダンサーの卵である彼らに、舞台に独りで自立する一歩を踏み出す覚悟を促すものだった。ダンスのテクニック以前に、舞台に立つ表現者としての意識に目覚めさせてくれた、貴重な体験となったに違いない。ダンサーたちはこうした意識で舞台を務め、ものを創っているのだということを、制作する側も深く心に刻んでおかななくてはならない。そうすれば必ずからどのタイミングで何をやらなければならないか、想像できると思う。

#### 警察署へのアウトリーチ

良かったこととして上げられるのは、警察にアウトリーチに行ったことである。いつもは恐そうな警察官の制服を脱いで、汗と笑いで楽しそうに身体を動かしているおまわりさんたちを見ているのはとても気持ち良かった。精悍な身体つきの彼らはさすが身体能力も抜群だった。剣道か柔道は警察官の必須科目だそうだが、身体でコミュニケーションを図るダンスも必須にしてくれたら、と思わずにはいられなかった。町を犯罪から守る警察官たち。重責を担う彼らにダンスで社会貢献できたことが嬉しい。アウトリーチの良い企画として他の地域にも広げていって欲しいと思った。

### ●課題とこれからに向けて

ダン活は手がかかる事業である。しかしその分やりがいのある事業でもある。毎日の業務に忙殺されダン活への熱意が空回りすることもあるだろうが、最低限作り手側との信頼関係を築けなくては何も生まれてこないのだ。どんな大きな事業も、それが最初の一歩である。また、この事業は会館とダンサーと地域創造が三位一体となり、コーディネーターがその間の調整を図って制作のアドバイスなどを行っている。一つのチームとして率直に問題点を相談してくれれば、もう少し支援できたのにと残念に思えた場面もあった。今後の課題として記載しておきたい。



# スケジュール

	下見①	
	4/10(金)	4/11(土)
9:00		
10:00		打ち合わせ
11:00		広報誌取材
12:00		↓
13:00		↓
14:00	打ち合わせ	市内案内
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00	↓	
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	6/24(水)	6/25(木)
		打ち合わせ
	打ち合わせ	↓
	↓	
		アウトリーチ先 下見③
	打ち合わせ	
	アウトリーチ先 下見①	
	アウトリーチ先 下見②	
	インリーチ	
	↓	

	実施期間						
	9/8(火)	9/9(水)	9/10(木)	9/11(金)	9/12(土)	9/13(日)	9/14(月)
9:00				仕込み 明かり合わせ			
10:00			神山幼稚園 アウトリーチ	↓		市民参加 ゲネプロ	
11:00				↓	アーティスト作品 ゲネプロ	↓	アーティスト 見送り
12:00			ラジオ出演		↓		
13:00		高根中郷館 アウトリーチ		アーティスト作品 リハ	↓	↓	
14:00		↓		↓		↓	
15:00				↓		公演	
16:00	打ち合わせ		御殿場中学校 アウトリーチ		クリエイション WS①	↓	
17:00	↓					出演者交流会	
18:00						バラシ	
19:00	公募WS①	公募WS②	テクニカル 打ち合わせ	クリエイション WS①		↓	
20:00	↓	↓		↓		打ち上げ	
21:00					↓		
22:00							

## 地域交流プログラム

### ●アウトリーチ

#### ①高根中郷館

高根中郷館は、郷土資料館と集会場の複合施設のため会場の設備が整っており、さまざまな高齢者の同好会が定期的に活動をしていることから、実施を依頼した。ほとんどが60～70代の女性であったが、北尾さんはすぐに皆さんの心をつかんでいた。北尾さんのストレッチは、無理なく体の可動域を広げ、呼吸を大切にした普段の体操とは違った体のほぐし方を中心とした内容であった。同館長にインリーチに参加していただいたことで、事前のアーティストへの関心も高く、参加者は楽しく取り組んでいた。「若い人に教えてもらうことで自分たちも若返ったような気分になれた」などの感想をいただいた。

#### ②神山幼稚園

市内の幼稚園園長会の際、事業提案をして実施が実現した。幼稚園でのアウトリーチはあまり実施例がないということもあったが、人懐っこい年長クラスの子供たちはすぐに北尾さんになついていった。最初はみんなでハイタッチや、行進をしたりなど同じ動きをしたりしていたが、後半は動物や植物になりきってみるなど、一人一人が違う動きをすることもあった。動きの意味よりも一連の流れを体で理解するという、子供たちの許容の広さを実感した。先生や保護者からは「子どもの個性がよく分かった」との声をいただいた。

#### ③御殿場中学校演劇部

市内中学校で唯一の演劇部があり、毎年当館で発表をしていることから実施を依頼した。部員は全員女子生徒で、最初は少し恥ずかしがる子もいたが、ほとんどの生徒が北尾さんの動きに注目し、最後は人に合わせるよりも自分の動きに自信を持って体を動かしていた。名前を体で表現したり、日常の動きをダンスに取り入れたりする場面では、日ごろからダンスを習っている生徒が多いせいか自然にリズムに乗っていた。生徒からは「日常のダンスっぽくない動きがダンスに変わって新発見だった」や、先生からは「生徒の表現の質（大きさ、なめらかさ、強弱）が変わった」との声をいただいた。



高根中郷館



神山幼稚園



神山幼稚園



御殿場中学校

## ●公募型ワークショップ

市民参加に出演する方を集めたい、そして北尾さんのダンスの振り付けが、身近な動作から生まれているという魅力を伝えたいという思いで、中学生以上を対象としたワークショップを開催した。まずはみんなでハイタッチ・体を使った自己紹介・体をほぐす入念なストレッチを行った。その後、朝起きてカーテン、窓を開ける・階段を下る・冷蔵庫を開けるなどの動作をモチーフとしたダンスを行い、参加者それぞれのオリジナルダンスが生まれていった。また、御殿場から連想させる「風」「木」「神社」「馬」などをモチーフに取り入れた際は、ダンス経験に関係なく皆が芸術的な動きになっていた。参加者からは、「自由に動ける楽しみを感じることができた」「まるで自分が映画のワンシーンになったような気分だった」などの感想をいただいた。2日間のワークショップは市民参加の内容を兼ねたものであったため、参加者は真剣に動きを覚えて下さり、その後の稽古がスムーズになった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

インリーチ実施時は、チラシが完成しチケット発売直前ということもあり、まずは北尾さんのダンスを間近で体験して欲しいと参加を促した。とにかく会館に関わる人たちに声をかけ、ホールスタッフ、市役所職員、アウトリーチ先の担当者、「カルチャー教室」のダンス講師、市内の体育施設・文化施設のスタッフに参加をしていただいた。最初はキャッチボールやポーズの伝達ゲームをして参加者の心をほぐしていき、その後念入りにストレッチを行った。日常の動作を取り入れたダンスでは、経験に関係なく自然に体を動かして楽しんでいるのが印象的だった。大部分が後に行う、アウトリーチ、ワークショップを集約した内容であった。インリーチに参加した方で、公募型ワークショップや市民参加公演に出演して下さった方もいた。



## 地域交流プログラム内容

9月10日（木） 神山幼稚園 年長クラス

### ●登場・自己紹介

「北尾さーん！」と園児たちが元気よく名前を呼んで登場、とおもいきや、なかなかステージから現れない。すると2人は別の入り口から四つん這いになったり、体をくねくねさせて登場。園児たちは予想外の登場に大はしゃぎ。「わたるん」「よねちゃん」と自己紹介した二人を見つめる姿は、「これから楽しいことが始まる」という期待感に溢れた様子だった。

### ●ストレッチ・行進・ハイタッチ

北尾さんのユニークな掛け声で、明るい音楽に合わせて列になって肩を叩いたり、体を目いっぱい伸ばしたり縮めたりするストレッチをした。どんどん変わっていく動きにも、笑顔でついていく子供たちの柔軟性を感じた。そのあとは行進をしながらみんなでハイタッチ。ペアを作ったり、大人数でしてみたりと、初めてハイタッチする子もいて、普段とは違ったコミュニケーションをとって楽しんでいた。

### ●動物のマネ

うさぎ・かえるなど、一般的な動物のマネはもちろん、次第に自分の好きな動物になって歩いてみよう、など子供たちの想像力を大切にしながら行った。みんなと同じでなくてもいいことがわかると、子どもたちは北尾さんに自分の動物が何かを教えながら、どんどん自由に体を動かしていた。

### ●植物になる

「土」「根っこ」「木」「石」など自然のものをテーマに、ゆっくりとした動きを始めると、最初はイメージが難しいからか少し戸惑っていた園児たちも、言葉そのものの意味ではなく、イメージを体で理解している様子だった。

### ●ダンス披露&ハイタッチでさようなら

保護者やほかの組の園児も見学に来てくださり、最後は北尾さんと米田さんのダンス披露、ハイタッチで皆さんとさよならをした。会場にいた会館スタッフやコーディネーターの方ともハイタッチをして、終始楽しい雰囲気であった。



## 公演

## ココカラ×good breed Gotemba



本公演は「カラダで遊べばココロが躍る」「御殿場に新たな発想の種をまく」をコンセプトに、市民参加型公演『ココカラ』と北尾亘作品『good breed Gotemba』の2部構成で上演した。

『ココカラ』では、公募型ワークショップに参加した10代から60代の10名の方に出演していただいた。広報面では、実施期間中に地元ラジオ局の生出演、各所のFacebookや地元新聞にも取り上げられ、北尾さん自ら声をかけることが何より1番効果的であった。舞台美術はテクニカル打ち合わせの際に決定し、会館から見える景色をテーマに、富士山や周辺の山々を再現した。ワークショップを除いて2日間の稽古で完成した作品であり、皆さんの意気込みと熱意、北尾さんへの信頼を強く感じた。本番では、個々のカラーを出すという意味も込めて、箱馬を使ったユニークな振り付けや日常の動作をモチーフにした盆踊り風の群舞で、出演者それぞれの表現で個性を出し会場を盛り上げていた。

一方『good breed Gotemba』では、生活の中に隠れた要素やダンスへの発想の可能性を感じる、北尾亘の完全オリジナル作品。ある時はゆっくりした美しい動き、ある時にはエネルギー溢れる激しい動きで、表情豊かに踊るBaobabの3人のダンスは、まるでお芝居を観ているようなストーリー性のある演出で、笑いあり・感動ありの内容となった。

終演後、担当者とアーティストのアフタートークを実施した。主に御殿場の印象や今回の作品の解説などをお聞きした。アンケートでは、アフタートークを聞いてより理解が深まったとの意見をいただき、満足していただけたと思う。

公演終了後の出演者とのレセプションでは、市民参加の方々の達成感溢れる晴れやかな笑顔が大変印象的だった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・コンテンポラリーダンスに初めて接して、指先までの神経のこまやかさ、逆に激しい動き、素晴らしかったと思います。
- ・見たことのない動きがいっぱいあって面白くて楽しかった。動きが難しそうでした。風が吹いているのが分かった。
- ・市民参加の演目があってステキな企画だった。
- ・自由に表現できる楽しさ、笑える振りがあり、とても素敵な時間を過ごせました。踊りが楽しい、表現することが楽しいというのがBaobabの方々から見て感じられてとても良いなと思います。ありがとうございました。
- ・今まで観たことのないダンスで刺激を受けました。ありがとうございました。
- ・トークをきいてわかった感じがしました。自己表現のダンスなのでみんなと同じじゃなくて良いですね。動きがすばらしかったです。
- ・アフタートークでダンスの説明、内容の解説があり、理解が深まりとても良かったです。

●この事業への応募動機

主な動機は3つある。1つ目は当社の強みである市内公共施設の指定管理業務を最大限に活用し、市民参加に焦点を当てた事業を作りたい。2つ目は、アウトリーチやワークショップのノウハウを蓄積し、今後の事業に生かしたい。最後に、会館スタッフの手によって地域の人々にアプローチすることで、今まで以上のつながりを持ちたいと考えたからである。

●事業のねらいと企画のポイント

当館で開催しているカルチャー教室は、年間で約180種類あり、趣味や交流の場としての役割を担っている。市民がそれぞれ何かを学びに来る場所へ全く新しいジャンルのダンスがやってきたら、何か新しい発見や刺激を受けてもらえるのではないかと考えた。北尾さんの魅力は、日常の体の可能性を大切にしているところであり、全体研修会の際、コンテンポラリーダンスについて無知だった自分にとっても、人柄やワークショップの内容に親しみを感じることができた。

そして、下見の際に北尾さんが提案した「御殿場に新しい発想の種をまく」というコンセプトは、会館側の「市民が新しいダンスに出会いきっかけを作りたい」という希望に合致した。そのコンセプトをもとに、市民参加作品と北尾さんのオリジナル作品を作ることになった。地域交流プログラムは、幅広い年代の方に参加していただきたいと思い、幼稚園から高齢者まで参加できる機会を作った。公募型ワークショップは、カルチャー教室講師や体育施設のスポーツクラブに協力を依頼し、ダンサーとステージで共演できることをPRした。

●企画実施にあたり苦労した点

チラシの文章やキャッチコピーは、アーティストの魅力を伝える大変重要な作業であった。特に公演情報・公募型ワークショップの両方を兼ねた情報を、わかりやすくまとめることに苦労した。

また、ワークショップは順調に参加者が集まっていたが、公演のチケット販売には最後まで苦労した。チラシを配って置いてもらうだけでは売り上げにつながらず、各所に直接案内ができて、普通のダンスとは違うところを具体的に伝えることが難しかった。最終的に、アウトリーチ参加者や、カルチャー教室・スポーツクラブの会員を中心とした方々が公演に来て下さった。

●事業の成果

今回ダン活を一つの手段として、地域とホールとの交流を持つことができたと思う。アウトリーチ・ワークショップは特に好評で、ぜひまたやってほしいとの声をいただいた。ダンスの人口が少ない地域であるが、枠にとらわれずに表現できる楽しさを知るとても良い機会であったと思う。まさに今、北尾さんに新しい発想の種をまかれ、私たちが育てていく段階に入ったと感じた。

アウトリーチ先や教育機関などは、今まで会館を利用する・されるだけの関係から、一緒に事業を創り上げるまでの関係へ変化したことにより、お互いに地域や市民会館に対する愛着が生まれたと感じた。これからの事業にも積極的に声をかけ、このつながりを大切にしていきたい。

●反省点、今後の課題など

今回は担当者もアーティストも同世代・ダン活初挑戦ということで親近感を感じ、アーティストやコーディネーターにも恵まれていたが、ワークショップやアウトリーチの司会や参加者対応、市民参加者のスケジュール管理など、担当者の能力・経験不足によって皆さんにご迷惑をおかけした。また、広報面では下見の際にイベントに出演してもらうなど、まだまだ検討の余地があったのではないと思う。当初は公共施設管理を生かした集客を展開したが、結局は担当者や会館の熱意が1番の影響があり、ほかの施設と協力できることは限られていた。

しかし、アーティストはもちろんコーディネーターや会館スタッフ、テクニカルスタッフの力を借り、全員で作上げた事業になったことは、会館の中のチームワークがさらに強まり、とても良い経験となった。半年前に主担当として関わることになったダン活事業だが、学ぶことが多く充実した1週間になった。

### ●この地域のダン活の特徴

東京からさほど遠くない御殿場市は、通勤可能圏内として東京からの移住者も増加の傾向にある。そうであれば、舞台公演愛好者は、東京で興味ある公演があれば出向くという過去の実績から、反対に、御殿場で興味のある公演が開催されれば、東京からの集客も見込めるのではないかと期待したいところではあるが、必ずしも逆は真ならずで、やはり現実にはそうはいかない。いつていないのが現状である。

このような状況の下で、御殿場においては何が望まれているのか？何を目指せばよいのだろうか？

地元をしっかりと見定め、基盤を固め、地元で育て、さらに発信することを目指す。この目的とニーズが、今回のダン活ではがっちりとし、ある種の成果が見られたのではないかと思います。

アーティストは、ダン活初参加であったが、御殿場の状況を深く理解しようと努力し、「御殿場にダンスの種をまく」というコンセプトを提案した結果の市民参加公演は成功に至ったと思う。

一方で、市民会館では、幸いにもカルチャー事業が充実、活性化していて、受講している市民は、ジャンルを超えて、参加・表現することに大いに積極的であった。ダンスの種類もジャズ、モダン、ストリート他、多様に展開されているが、たまたまコンテンポラリーはなかったため、新鮮であった。

数日間のワークショップを通して、アーティストの人柄にも触れ、親近感や信頼感、参加者同士の一体感が確実に培われていくのが実感できた。新しい学びの場ともなり、良い経験になったと思う。明るく楽しい雰囲気は公演にも反映されたし、終わってしまうことへの淋しさから再会の機会を望む声も大きかった。

アウトリーチは、幼稚園や高齢者団体などを対象に、幅広い層に参加していただく機会に恵まれ、その一つ一つを丁寧に実施できて、満足度は高かったと思う。

ダンスという既成概念に捉われることなく、ある時は健康体操的であったり、ある時はゲーム感覚の遊びであったり、柔軟な対応があってこそ、コンテンポラリー・ダンスの魅力が活かせることが実証できた。

広報は、インタビュー、ラジオ出演など広がりがあって、一般的な広域に情報を伝えることはできたと思うが、実際の券売にどこまで繋がったかは難しいと思う。コンテンポラリー・ダンス全般が抱える問題ではあるが、口コミでも伝えられるようなネットワークを築き、事業の魅力伝えて、1枚でも多く確実にチケットを売ることが実現できたら良かったと思う。

事業に対する会館の取り組み、体制として、館長はじめ、上司の方々の理解が得られているようで、とても暖かい環境が感じられた。

担当者は、事業の責任者として主担当となるのは初めてで緊張もされたようだが、周りのサポートがあって乗り切れたと思ったし、アーティストやダンスの魅力を実感して、そのことが事業への熱意に繋がったようだ。

「買い公演」とは異なり、事業を立ち上げていく細かな作業の過程を通して、事前の準備や結果、全体を把握する姿勢を学んでいただく事業となったように見受けられた。

### ●課題とこれからに向けて

初めての試みとして、まずは、多くの方々に観ていただくことを重視したが、今後は、自ら足を運んでいただく観客を育てていくこと、そのための魅力的な企画と販促に向けて励んでいただきたい。

また、近隣地区の公共ホール間の会合にも臨まれているので、他館との連携を図る、会館が指定管理をしている他の部署との関連事業を試みるなど、可能性を広げて展開すれば、さらなる飛躍、成果が期待できるのではないかと思います。

担当者は、若いながらも一生懸命頑張られたので、この経験で自信をつけ、今後もダンス事業に取り組んでいただきたいし、なにより、継続を望む市民のためにも、その種を大切に育てていただきたいと願う。



# スケジュール

	下見①	
	4/21 (火)	4/22 (水)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	集合・昼食	近隣施設訪問
14:00	町視察	↓
15:00	役場訪問	解散
16:00	打合せ	
17:00	↓	
18:00	準備	
19:00	インリーチ	
20:00		
21:00	交流会	
22:00		

	下見②	
	9/3 (木)	9/4 (金)
		打合せ
		↓
		解散
	集合・昼食	
	腹赤小学校 下見	
	長洲小学校 下見	
	六栄小学校 下見	
	清里小学校 下見	
	準備	
	公募WS	
	↓	
	交流会	

	実施期間						
	9/29 (火)	9/30 (水)	10/1 (木)	10/2 (金)	10/3 (土)	10/4 (日)	10/5 (月)
9:00	舞台準備					チェック	チェックアウト
10:00		長洲小学校 アウトリーチ	六栄小学校 アウトリーチ	照明仕込み	町内見学	通し稽古	近隣観光
11:00		↓	↓	↓	昼食	ダメ出し	↓
12:00	↓	給食交流	給食交流	音響チェック	場当たり	昼食	解散
13:00	集合・昼食	移動	移動	昼食	↓	公演準備	
14:00	打ち合わせ	腹赤小学校 アウトリーチ	清里小学校 アウトリーチ	共演者等 集合	↓	開場	
15:00	舞台仕込み	(テレビ中継)		位置決め 明かり作り	場当たり (市民)④	公演	
16:00	↓		美術仕込み	↓	↓	アフタートーク 見送り	
17:00	↓	小道具等 買い出し	↓	↓	テクニカル リハーサル	撤収作業	
18:00	チェックイン 夕食	夕食	夕食	夕食	ダメ出し	↓	
19:00	公募WS	舞台稽古 (市民)①	舞台稽古 (市民)②	明かり作り (市民)③	夕食	退館	
20:00	↓	↓	↓	↓	ゲネプロ	交流会	
21:00		美術仕込み	小道具作り等	楽屋・廊下 養生作業	ダメ出し		
22:00	退館	退館	退館	退館	退館		

## 地域交流プログラム

### ●アウトリーチ

子供達に、普段見る機会が少ない本物の芸術に触れてもらい、表現の楽しさを実感してもらう。また、他者と触れ合うことで、コミュニケーション能力を高める目的で実施した。

【長洲小学校】長洲小学校は、ホールが所在する地域でもあり、学習発表会やスクールコンサートの際に積極的にホールを利用されている。先生方には、ワークショップ（体験版）にも参加いただき、導入の時点で、田村さんについて、とても理解していただいている印象だった。人数が多かったため、中にはふざける児童も見受けられたものの、田村さんの説明やパフォーマンスに対する反応がよく、最後には、まとまった型を披露することができた。

【腹赤小学校】腹赤小学校のアウトリーチは、地元のテレビ番組で生中継することにしたため、田村さんには、それに合わせて授業を進めていただいた。いつもは表現運動の際に、ふざける児童もいるとの先生の話だったが、それを感じさせない落ち着いたまとまりが感じられた。普段、消極的な子が積極的になっていたとのことで、田村さんの「一人一人違っていい」というお話や、初めて体験する動きが児童に変化をもたらしたようだった。

【六栄小学校】4校のうち唯一の高学年。先生が事前におっしゃっていたように、恥ずかしがる児童もいるのではないかと心配された。授業が始まってすぐは照れがあったようだが、田村さんの説得力のあるお話に、どの児童も真剣に取り組んでいた。また、低学年よりも言葉が中心の授業だったが、体の使い方に興味を持ちながら、飽きることなく、終始、集中して取り組んでいたように思う。授業後の給食交流でも、自発的に田村さん達とコミュニケーションを図っており、有意義な時間となった。

【清里小学校】2学年合同の授業だったが、田村さんのテンションに引き上げられ、冒頭から笑い声の絶えない楽しい授業となった。授業終了後、児童からは「力を抜いたら色々な動きができると思った」「ダンスがいつもと違って面白かった」「変な踊りだったけど、すごかった」など率直な意見がたくさん挙げられた。先生方からも、普段はなかなか最後まで続けられない児童も休憩することなく参加でき、今後の授業で取り入れたいという前向きな意見をいただくことができた。



腹赤小学校



清里小学校



六栄小学校



六栄小学校（給食交流）

## ●公募型ワークショップ

ながす未来館では、舞踏ワークショップを実施するのが初めてだったため、1人でも多くの方に参加してもらいたいと考え、あえて対象を分けず、1回目を無料の【体験編】とした。

下見時に行った【体験編】では、小学生から70代まで幅広く参加いただき、力を抜く、周りのものに操られる、イメージを膨らませ発想を転換すると進んでいき、最後は“すり足”や“大駱駝艦の型”を体験した。【本編】では、体験編よりも1時間長い有料ワークショップとしたため、公演参加者を始め、県内の劇団員やダンス経験者などが参加され、より内容の濃い、本格的な舞踏を学ぶ時間となった。

参加者は、初めて体験する舞踏の動きに新鮮さを感じ、動きに対する多くの発見があったようで、また開催して欲しいとの要望もあった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

年度初めということもあり、思うように参加者を集めることができなかったが、ホール職員とワークショップに興味がありそうな町内の団体を中心に呼びかけをした。最初に、田村さんが大駱駝艦の映像を見せられた際には、舞踏を初めて見る参加者はあっけにとられている様子だったが、実際に身体を動かし始めると、楽しんでいる姿が見られた。

事後アンケートでは、舞踏のイメージが変わったという回答が多く、「力を抜くのは難しい」としながらも、「決まった型ではなく、力を抜いて（空っぽになって）動かされること、その日常の中に踊りがある」という田村さんのメッセージが参加者に伝わったようだった。



## 地域交流プログラム内容

9月30日(水) 長洲小学校 3年1組・2組

### ●導入

ジャンプしながら、アーティストや他の児童の動きの真似をする。地震が来た、体にツバメが入って来て頭から出ていくなどのイメージを身体で表現し、それを皆で合わせる。田村さんの軽快な動きに、児童達の興味が一気に引きつけられる。

### ●自分の体の癖を知る

目をつぶって100回足踏みし、元の位置からどれくらいずれているかを確認。手や足を組む時や、靴を持つ時には必ず決まった方向があり、逆にすると違和感を感じるという体験。体を柔らかくする体操で、体は使い次第で変わることを学ぶ。

### ●力を抜く

水袋になったつもりで、力を抜く。その後、2人組になって相手の体を揺らしてみる。しゃがむ時は脱力し、立つ時は力を入れる運動を繰り返す。スポーツ選手も、力が入っていると能力を発揮できないことを説明される。

### ●発想の転換

大駱駝艦の踊りの映像を見せ、これもダンスであると説明。美術館にトイレの模型があってもいいし、何も書いてない絵があってもいい。動物の絵は、横からではなく上から書いてもいい。美しいかどうかは周りではなく自分が感じることであり、芸術に“こうでなくてはならない”ということはないと伝える。児童達も初めて見るものに、驚きの声をあげていた。

### ●操られる

腕や指先、耳などを糸で吊られるイメージをする。2人組になり、自由に相手を操ってみる。その後、1人で動かされてみる。この時、馬鹿になることが大切と教えられる。

### ●大駱駝艦の型の実践

獣の型をとり、1列になって歩く。キリストの型から獣の型に変身する振付を2チームに分かれて披露する。最初はふざけていた児童も、最後は真剣な表情で発表することができた。



## 公演

## 大駱駝艦・田村一行 舞踏公演『赤色の花嫁』



今回の公演を通じて、ながす未来館にとって貴重な経験が多数あった。

- (1) 長洲町オリジナル作品の上演・・・今回、長洲町オリジナルの作品を田村さんが創ってくださるとのことで、まず、長洲町の宝探しから始めた。長洲町は金魚の養殖が盛んな町であるため、1 回目の下見時には、田村さんに金魚すくい体験と養魚場見学をしていただいた。また、長洲町に古くから伝わる民謡「長洲嫁入り唄」も紹介したところ、モチーフとして使用していただけることになり、演目の各所に、金魚の触れ売りや嫁入り道中の要素が取り入れられた、長洲町オリジナル作品が完成した。
- (2) 市民参加型公演・・・長洲町オリジナル作品に拘り、ワークショップ参加者の公演参加も決定した。最初は、公演参加者が集まるのかという不安もあったが、4 名の方に参加いただけることになった。1 週間という制約された時間の中で、田村さんには毎晩遅くまで稽古の時間をつくっていただき、ダン活では市民参加型公演をしたことがないという田村さんには、かなりの負担をおかけしたことと思う。その上、公演終了後には、アーティストトークの時間を設け、来場者との交流の時間もつくっていただいた。だが、そのおかげで市民とアーティストが繋がることができ、市民に喜んでもらえる長洲町独自の公演ができたと思う。
- (3) 新たな広報体制・・・この事業では、ながす未来館の取り組みを地元地域だけではなく、広域にも知ってもらうことを視野に入れた。今までは、町の広報紙や掲示板・近隣施設へのチラシの設置に留まっていた広報手段に、今回はメディアを取り入れた。ワークショップの様子をケーブルテレビに取材してもらい一定期間 CM として流したり、地元のテレビ番組で告知をしたりと、より多くの方の目に留まるような方法で PR した。また、アウトリーチの様子もテレビ中継してもらうことで、リアルタイムに活動の周知を試みた。その結果、町内外から予想を上回るお客様に会場いただくことができた。

ここでは3つ挙げたが、この他にも多くの経験ができ、公演を通じて、長洲町の資源や環境などを客観的に見るいい機会になったと思う。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・「舞踏」というものを初めて見ました。体にはこんなにたくさんの関節があるんだな、すごい動きだな、筋肉がたくさんついていないとこんな動きできないなあ、と思いながら見ました。
- ・異世界を見せていただきました。ポージング・動かし方・表情（アーティストトークの時はまた違った）に引き込まれました。舞台美術・音楽も魅力的でした。
- ・本当に動きがきれいというよりは、日常で見る動きが踊りになっている感じで、見ていて、あーなるほど！！と思えることが多かったです。
- ・市民参加者の方も、本当によかったです。短期間で、練習も大変だったと思いますが、息が合って本当に素晴らしかったです。また見たいです。
- ・初めて見る舞踏でとてもおもしろかったです。夢を見ているような内容で、不思議な感じでした。
- ・表現力の新たな魅力にひかれました。人を引きつける力はすごいと只々感じるばかりです。
- ・内容を知らずに来ましたが、アーティストトークでお話を聞いて、わかりました。
- ・田舎町でこんなに素晴らしい公演が見れると思ってなかったので、大満足です。町内の子供達に一流の舞台をもっと見てほしい。
- ・舞台がすごくシンプルなのに、いつも見るより広い感じがしました。
- ・役者さんのぶれない動きはカッコいいなあと思いました。色々な動きが、迫力があってすごかったです。

●この事業への応募動機

ながす未来館が指定管理となり、1年目に応募した事業。興味がある人だけがホールに足を運ぶ風土・習慣があった長洲町で、決まったジャンルの公演を提供するだけではなく、ホールから外へ足を運ぶアウトリーチや、未経験者でも広く気軽に参加できるワークショップを実施することで、より多くの人に文化に触れてもらうきっかけになればと思い、応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

今回、事業を実施するにあたって、様々な「出会い」を提供することをねらいとした。当館は、文化祭や発表会などで利用されることが多いが、そこに集まるのは、そのジャンルに携わっている人、その家族などに限定されてしまう。また、近隣市民の文化離れは著しく、当館より公演の情報を発信しても、ホールに足を運んでもらうのは難しい現状がある。そこで、ワークショップという日常生活にも結び付くオープンな手法を使うことで、枠にとらわれず、多くの方に舞踏と出会い、他者だけではなく、新たな自分と出会ってもらえると考えた。アウトリーチにおいては、特に校区制限などで一人では自由にホールに来ることができない子供達に、文化に触れて欲しいという思いから、小学校を選定した。この2つの地域交流プログラムを実施することで、市民に当館の取り組みを知ってもらい、関係先と協力体制を構築することで、今後の事業展開に活かしていきたいと考えた。

●企画実施にあたり苦労した点

今まで、参加型の取り組みが少なかったため、コミュニティとの繋がりに乏しく、アウトリーチ先を選定するのに苦労した。町の教育委員会を通じて、町内の小・中学校に打診するも、あまりよい返事がもらえず、直接、小学校の校長先生へ説明に行き、実施が決定した。後に話しを聞くと、学校は年度末に1年間の行事予定をすべて組むため、どんなによい事業であっても、一つ返事はできないとのことだった。子供達にとってよい取り組みであれば、町と連携して、しっかりと計画を立て、一過性のものにしなくて欲しいとの要望もあり、ホールとしての今後の役割も再認識できた。また、広報においては、「舞踏」というあまり馴染みがないジャンルにいかにも興味を持ってもらうか、どう説明するかに頭を悩ませた。ワークショップに興味を持ってもらうことができれば、そこから、自ずと公演にも足を運んでもらえるのではないかと考え、あえて「舞踏」ではなく「自己表現」という言葉を使い、身近なこととして説明することを心掛けた。さらに、今まであまり使用したことのないテレビ出演やアウトリーチの中継などを使つての広報も取り入れた結果、町外からも多くの来場をいただき、熊本県全体にながす未来館を知ってもらう機会となったのではないかなと思う。

●事業の成果

この事業の一番の成果は、市民と舞踏を良い形で出合わせることができたことだと思う。ワークショップでは、初めて見るものや体験するものに驚きと戸惑いのあった参加者が、最終的には表現を楽しみ・素晴らしいと感じたこと。公演では、舞踏を見たことがなかった来場者が、その独特の世界に圧倒され、心から感動で満たされたこと。特に、小学校のアウトリーチでは、昨日まで知らなかった芸術に子供達が自ら触れ、田村さんの人柄もあったのだろうが、たくさん的小学生が興味をもって公演に足を運んでくれたこと。その1つ1つの気持ちが、今回の成果の何ものでもないと感じる。この事業を通じて、良い事業とは単に集客数が多い事業ではないということを実感した。来場者が喜ぶ催しをすることは当然だが、その喜びを創出することもホールの役目なのだと心から思うことができた。

●反省点、今後の課題など

今回、初めて担当した事業でもあり、右も左もわからないところからのスタートであったが、研修・下見・本番と段階を踏んで進めることができ、学ぶところが多かった。一方で、事業を進めていくことに精一杯で、ダン活のメリットをフルに活用できなかったと思う。何のために事業をするのか、ホールで何ができるのか、誰に対して行っていくのかを考え、もっと田村さんの魅力をアピールする広報手段はなかったのか等、悔やまれる点多々ある。また、行政との連携という意味では、お互いに役割を明確にしていなかったことで、かなりの手間や行き違いが生じてしまった。今後は、町との協力体制を強固なものとし、教育関係はもちろん、福祉関係や各方面で可能性を掘り起こし、必要とされる場所に事業を提供できるよう、相乗効果を生み出してしていきたい。

**●この地域のダン活の特徴**

熊本県長洲町は4キロ四方の小さな町。ながす未来館は役所・図書館に隣接し、町内の多くの子ども達にとっては、幼稚園や小中学校の発表会でここの舞台に立ち、なじみのある場所だという。今回のダン活は町営から現在の指定管理者になって1年目に応募した事業とあるが、現場スタッフは町営時代から継続的に関わっている人がほとんどだ。「小さな町だから、ここを人々の集まる場所にしたい」という思いで、ロビーの大画面テレビで大相撲中継の鑑賞会をやったこともあるという。副館長自ら、広報のためにギターを持って町内各所でミニコンサートをやったり、公共交通手段が少ないことからチケット宅配をやったりと、熱意ある工夫にいとまがない。館長さんをはじめ、スタッフ全員が未来館というクリエイションを楽しんでいることが伝わってくる、アットホームな雰囲気のあるホールである。

今回のダン活事業の目的は「様々な出会いを提供する」こと。田村一行さんの舞踏という、長洲町にとって新しい表現を紹介することで、ホールのスタッフ、地域住民、小学校や小学生が田村さんと出会い、そのことによって新しい自分と出会い、ホールと住民・学校もまた新しい関係へと発展していくことができればとの思いである。そして、田村さんの舞踏は十分に強烈なインパクトを長洲町に与えたことだろう。

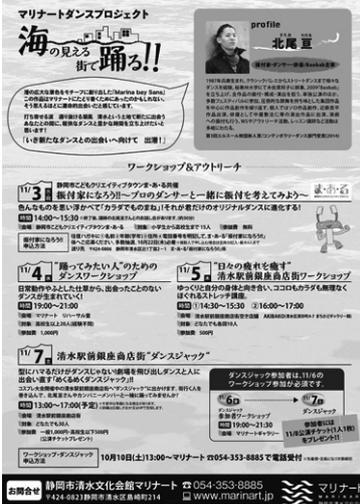
アウトリーチは、おんかつを町直営の平成18年に実施。しかし企画のとりまとめは役場職員であったため、アウトリーチを立ち上げから実施するのは初めての経験となった。最初、教育委員会への持ちかけであまりよい反応がなかったとのことであったが、結果的にきちんと校長先生にお話することで、町内すべての小学校での実施が可能となった。また、公募ワークショップにも大勢の方が参加された。単に体を楽しく動かすということではなく、自分の体の癖に気づいたり、力を抜くことや動かされる体を意識したりと、舞踏との出会いは新しい自分の体との出会いに満ちたものであった。最初は見慣れぬ動きや白塗りの舞踏に度肝を抜かれていた人たちも、田村さんの誠実な人柄と丁寧な説明に、少しずつ心も体もほぐれて、正解も間違いもない自由な表現の世界に導かれ、最後には、「獣」「キリスト」という舞踏の型を使った短い振付を踊るまでにいった。

市民参加型公演は、田村さんが長洲町の特産である金魚や金魚売り、嫁入り唄などを取り入れた新作で、4人の女性が参加。彼らだけのシーンや大駱駝艦ダンサーに混じって一緒に踊るシーンなど入り乱れ、一つの作品を演じた。本格的な白塗りを施され、大駱駝艦の衣装を身につけた彼女たちを、市民の参加だと思わなかった観客もいたようである。また舞台美術のたくさんの竹は館長さんみずから切り出しに行ってくださいました。参加人数こそ少なかったけれど、その分、濃密な本格的な舞踏体験となったことと思う。アウトリーチ先の子供達も大勢見に来てくれた。この見慣れぬ舞踏は、子供の目にどのように映ったのだろうか。そのことがわかるのは、ずっと先のことであろうが、新しい表現の種は確かに長洲町にまかれたと思う。

**●課題とこれらに向けて**

ぜひこれらかもダンス事業を続けてください。アウトリーチやワークショップだけではなく、ぜひ市民参加の作品づくりをやっていってください。皆で力を合わせて舞台をつくる楽しさを知っている方々だと思います。その楽しさに住民の方々を巻き込んでいってください。何も無いところから創ることこそ、最高のおもしろさだと知っていられる皆さんなら、きっと面白いことができると思います。

# 静岡市清水文化会館マリナート 実施データ

実施団体	清水文化事業サポート株式会社
実施ホール	静岡市清水文化会館マリナート
実施期間	平成 27 年 11 月 3 日(火・祝)～11 月 8 日(日)
アーティスト等	アーティスト:北尾亘 アシスタント:米田沙織 共演者:目澤芙裕子 テクニカルスタッフ等:水田歩美
コーディネーター	佐東範一
<p>■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)</p> <p>4 月 23 日(木) 18:00～20:00、ホール管理・運営・舞台スタッフ及び中心市街地情報交換会参加者、15 名、マリナートリハーサル室</p> <p>■地域交流プログラム</p> <p>アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 11 月 3 日(火・祝) 14:00～16:00、静岡市こども列エリブ/ゆま・あ・る、小学生から高校生、25 名、なんでもホール</p> <p>② 11 月 4 日(水) 9:05～10:35、静岡市立清水浜田小学校、4 年生、32 名、体育館</p> <p>③ 11 月 5 日(木) 10:30～12:00、静岡市立清水浜田小学校、5 年生、37 名、体育館</p> <p>公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 11 月 4 日(水) 19:00～21:00、高校生以上、1,000 円、20 名、マリナートリハーサル室</p> <p>② 11 月 5 日(木) ①14:30～15:30 ②16:00～17:00、どなたでも、500 円、①7 名 ②10 名、清水駅前銀座空き店舗 AKIBAKO</p> <p>③ 11 月 6 日(金) 19:00～21:30、どなたでも、一般 1,000 円 高校生以下 500 円(公演チケット付き)、17 名、マリナートリハーサル室</p>	
<p>公演(演目、公演日・開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)</p> <p>■ 『Marina bay Sans』</p> <p>■ 11 月 8 日(日) 15:00 開演 (14:30 開場)</p> <p>■ 北尾亘、米田沙織、目澤芙裕子、岡本優、村田茜、井草佑一、判治芳恵</p> <p>■ 一般前売 1,800 円(当日 2,000 円) 高校・大学生前売 1,000 円(当日 1,200 円) 中学生以下 500 円</p> <p>■ 静岡市清水文化会館マリナート 小ホール</p> <p>■ 181 名</p>	
 	

# スケジュール

	下見①	
	4/23 (木)	4/24 (金)
9:00		商店街・ 空き店舗下見
10:00		↓
11:00		こどもクリエイティブ ウマ・あ・る下見
12:00		
13:00	集合・打合せ	機関紙インタビュー
14:00	ホール他館内 下見	中心市街地情 報交換会挨拶
15:00	↓	打合せ
16:00	↓	↓
17:00		↓
18:00	インリーチ	終了
19:00	↓	
20:00	懇親会	
21:00		
22:00		

	下見②	
	9/29 (火)	9/30 (水)
		ホール下見 テクニカル打合せ
		↓
	集合・打合せ	
	ま・あ・る打合せ	静岡新聞 地元フリーバー取材
	商店街打合せ	打合せ
		↓
	浜田小学校 下見・打合せ	↓
	↓	終了
	懇親会	

	実施期間						
	11/3 (火・祝)	11/4 (水)	11/5 (木)	11/6 (金)	11/7 (土)	11/8 (日)	11/9 (月)
9:00		浜田小学校 アウトリーチ①					
10:00		↓	浜田小学校 アウトリーチ②	ダンサー入	ダンスジャック 現場確認		アーティスト等 移動
11:00		振り返り	↓	場当たり	ダンスジャック 練習	ダンサー入 準備	
12:00	集合・打合せ		振り返り		↓	↓	
13:00	準備	打合せ		北尾 SBS ラジオ出演	ダンスジャック①	↓	
14:00	ま・あ・る アウトリーチ	↓	商店街 WS			開場 オープニングダンス	
15:00	↓		↓		ダンスジャック②	公演	
16:00			↓		ジャック参加 者との懇親会	↓	
17:00				↓			
18:00	懇親会		照明チェック		場当たり	打ち上げ	
19:00		踊ってみたい人 のための WS		ダンスジャック WS	↓		
20:00		↓		↓	ゲネプロ		
21:00			↓	↓	↓		
22:00							

## 地域交流プログラム

### ●アウトリーチ

【静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る】子どもたちに“モノづくり体験・仕事体験”を提供している“静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る”で「アーティストという仕事」を紹介することを目的にアウトリーチを行った。“振付家”をクローズアップしたのは北尾さんからの提案であり、“ま・あ・る”からは“ま・あ・るのテーマ曲”に振付けてほしいと依頼があった。日常の動作からダンスが生まれること、振付をする材料として自分の身体で遊ぶことを提案し、子どもたちにそれぞれ、テーマ曲の一部に振付を考えてもらった。戸惑っている子もいたが、北尾さんとアシスタントが相談にのることで、振付を考え、一斉に踊ってみると、子どもたちの動きがどんどん増幅して、皆が楽しんでいる様子が伺えた。終了後の子どもたちのお話会では、「どんな時が楽しいか」など様々な質問が飛びたした。子どもたちは、北尾さんの提案を新しいダンスとして受け入れ、振付を考えることで、ダンサー・振付家という仕事に出会うことができたのではないかと思う。

【静岡市立清水浜田小学校】マリナートで初めての学校アウトリーチであり、清水区で学校アウトリーチが行われることも珍しい。学校との打合せでは、「どの子も楽しめる」「恥ずかしがらないで自己表現できる」という要望があった。両学年とも踊るのは大好きで、地元のオリジナルダンス“かっぼれ”は学校でも踊っているとのことだった。アウトリーチでは、日常の動きからダンスを作ることを提案し、型にはまらない自由度の高いダンスを子どもたちの提案も受けながら踊った。子どもたちは“いつもと違うダンス”を柔軟に受け入れ、その自由さを楽しむことができた。5年生は、少々自意識が芽生えるのか、羞恥心や周囲を伺う様子が見受けられたが、アンケートを読むと、自分のスピード、自分の感覚で踊るダンスを解釈し、より深く楽しんだ様子が伺える。また、5年生に対しては、互いのダンスを見る時間を設けたこと、エグザイル風に振付けられたダンスを日常の動きとしてとらえ直して踊ることなどの提案も行い、ダンスを深める上で効果的だったと感じる。両学年とも洗面台での動作をモチーフにした盆踊りではおおいに盛り上がり、終了後は合唱をプレゼントしてくれるサプライズがあった。



こどもクリエイティブタウンま・あ・る



こどもクリエイティブタウンま・あ・る



清水浜田小学校



清水浜田小学校

## ●公募型ワークショップ

【“踊ってみたい人”のためのワークショップ】踊ることを楽しみたい人のためのワークショップ。参加者は主にダンス事業のさかんな静岡市民文化会館の常連が多かったが、初めて受けるアーティストのダンスを新鮮に楽しんだ。

【“日々の疲れを癒す”清水駅前銀座商店街ワークショップ】商店街の空き店舗でのストレッチ講座。気軽な場所で、身体に目を向け、仕事の疲れを癒してもらおうと開催した。集客には苦勞したが、参加した人は久しぶりに身体と向かい合って、丁寧にストレッチすることで、身心ともにリフレッシュした様子だった。空き店舗でオープンに行ったので、街行く人が「いつもやっているの？」などと声をかけてくれ、そこに便乗してダンス公演などの宣伝を行うこともできた。

【清水駅前銀座商店街ダンスジャックワークショップ】商店街で行われる“富士山コスプレ世界大会”をダンスでジャックし、商店街やコスプレイヤーをダンスに巻き込むこと、公演の告知をすることを目的に行った。打合せで、アーティスト、コーディネーターと「何をジャックするのか?」「そのためにはどんな居方が必要か?」を議論し、コスプレイヤーにも人気のボーカロイドアイドル“初音ミク”の曲を使用、初音ミクゆかりのネギを皆で振るダンスをすることになった。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

ワークショップ 90分、振り返り 30分のインリーチ。マリナート関係者（運営・施設管理・テクニカルスタッフ）の他、マリナートで月1回行っている“中心市街地情報交換会”の参加者に声をかけ、まちづくり公社、市商工労政課、空き店舗を管理する街づくり会社のスタッフが参加した。

カウントのないダンスを新鮮に受け取ったもらえたこと、身体を動かすことの爽快感（翌日は筋肉痛だったらしい）は感じてもらえたようだ。アーティストとマリナートスタッフが、それぞれに人となりを理解し、打ち解けられたことが収穫だった。



## 地域交流プログラム内容

### 11月6日(金) 清水駅前商店街ダンスジャック

#### ■11月6日(金)参加者ワークショップ

##### ●自己紹介

清水入したBaobabメンバーと参加者がそれぞれ自己紹介した後、円になって順にハイタッチをして気分をあげる。

##### ●ウォーミングアップ

曲がかかり、空間を埋めるように歩く。「5.6.7.8」の掛け声で、いろいろな人とハイタッチ。立ったまま身体をたたく、2人組でたたき合う。ストレッチで身体中をほぐす。深い呼吸や足のマッサージなどを含め30分程行う。

##### ●振付開始

振付の前段として、自分の名前を手で書いてみる。次に手で書いた線を途中から頭やお尻、体のいろいろな部分で書くことを提案。Baobabメンバーも含め、ダンスのためのペアを作り、ハイタッチ。鏡を見ながら振付開始。覚えやすいように振りにストーリーがついている。「お腹がへった。へり過ぎて宙に浮く(ジャンプ)。左手を回して何か食べた。食べたくて、食べたくてモゾモゾモゾ。そんな私を抱きしめる。ポーズ…」と軽快な言葉にのせて、振付は進んでいく。振付けられた動きをカウントにはめる。音楽に乗せたダンスを北尾さんとアシスタントが披露。参加者も音楽にのせて踊る。

##### ●ダンス全体を構成

構成を記載したプリントを分ける。振付けたダンスをペアが交代で踊ったり、振付の合間に、各自の名前ダンス、スローモーション、ハイタッチ、フリーで動くなどが加わり、4分ちょっとのダンスが出来上がる。振付が不安な参加者のために北尾さんがお手本を踊り、参加者はスマホに録画して解散。

#### ■11月7日(土)ダンスジャック\*ダン活枠外

10時集合 会場の商店街を視察し、午前中はダンスの練習。13時30分“富士山コスプレ世界大会”のステージでダンスを披露。15時30分コスプレ大会の会場となった商店街全体を使い、ボーカロイドアイドル“初音ミク”にちなんだネギダンスを披露。ネギを振るというシンプルな動きがコスプレイヤーや商店街の人たちを巻き込み、中には厨房から生ネギを取り出す店主も現れる盛り上がりだった。16時懇親会、お茶とお菓子で歓談、ダンスジャックの映像を皆で見る。

ダンスジャック参加者の中で希望者は翌日のダンス公演のオープニングダンスを踊る。



## 公演

## マリナートダンスプロジェクト 海に見える街で踊る!! 北尾亘ダンス公演『Marina bay Sans』



北尾さんが主宰するダンスカンパニー“Baobab”が再演を繰り返した作品『Marina bay Sans』（マリーナベイサンズ）を“Baobab”メンバーも駆けつけ、7人で上演した。

プロのダンス作品をきちんと見せたいという思いから、公演には市民参加はしなかったが、前日行ったダンスジャック参加者有志15人が開演前にホールロビーで北尾さんとともにオープニングダンスを披露した。多くの観客がロビーに集まって、このダンスを鑑賞し、場が温まるのを感じた。

公演は、「圧倒的な群舞」を持ち味とする“Baobab”が75分淀みなくエネルギッシュなダンスを披露し、カーテンコールで拍手が鳴りやまなかったことは主催者にとってもうれしいことだった。

清水区でダンス公演やワークショップが行われることは珍しく、静岡市全体としては、市民参加ダンス作品は頻繁に作られるようになったが、ワークショップには参加してもダンス作品を観るという習慣は根付いていないようで、集客には苦労したが、何よりもまずダンス作品を観てもらおうと、アウトリーチ先への招待やラジオ等でのチケットプレゼント、高校・大学、公共ホール、ダンス関係者へのチケット優待を行い、ほぼ満席といえる状況にはなった。

アフタートークでは、北尾さんに「難しい」とよく言われるコンテンポラリーダンスをどう観るかを軸に作品について語っていただき、会場からも多くの質問を受けた。中には、ミュージカル「レ・ミゼラブル」に出演経験のある北尾さんに歌を歌ってほしいという要望もあったが、快く応じていただき、会場は、終始和やかで温かい雰囲気にも包まれていた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・“Baobab”を初めて観ました。静岡で観られてよかったです。波か海底をダンスで表現し、清水のまちとイメージが重なって面白かった。わかりやすい作品でした。（30代女性）
- ・パターンがわからないがよかった。型みたいなものが無いように見えて新鮮だった。エネルギーを感じた。ストーリー性はあまり感じず、動きを見た。どうやって作ったのか過程を知りたい。（30代男性）
- ・こんなダンス公演初めてです。ダンスの奥深さにしても驚きました。美しい!!アフタートークも最高でした。いい勉強になりました。お出迎えのダンスも楽しかった。（50代女性）
- ・長時間の若い人の全力のダンスすごかったです。よほど気合が入っているんでしょうね。びっくりしました。良かったです。音もよかったです。また観たいです。（60代女性）
- ・見慣れないダンスでも市民を巻き込んでいて素晴らしいと思います。（20代男性）
- ・ダンスに思いが込められていて感無量でした。（10代男性）
- ・清水でこんなダンスが見られるようになり、うれしいです。アウトリーチ、小学校訪問、ぜひ、いろいろな小学校でやっていただきたいです。もっと子供たちにも機会があったらいいなと思います（10代女性）

●この事業への応募動機

清水文化会館マリナートは、平成 24 年 8 月に開館したばかりのホールであることから、ダンスを通してアウトリーチや地域連携の手法を学び、その基盤を作ることを目的に応募した。また、静岡市全体としては、葵区に立地する静岡市民文化会館がダンス事業に力を入れ、ワークショップや市民参加作品の制作がさかんに行われるようになったが、プロのダンス作品の上演は少なく、作品鑑賞機会の提供も目的の一つであった。

※静岡市は葵区・駿河区・清水区から成り、マリナートは清水区に立地する。市町村合併により、旧清水市が現清水区となった。

●事業のねらいと企画のポイント

マリナートでは、JR 清水駅周辺を中心市街地活性のため、毎月中心市街地情報交換会を行っている。その中で、ダンスを通じて連携したら面白いであろうと思える場所・施設・イベントがいくつかあった。それらの場所・施設・イベントの特性にフィットし、ダンスの楽しさが参加者にも関係者にも伝わるよう企画を考えた。また、その中であらゆる世代が参加できるよう企画のバランスにも配慮した。

●企画実施にあたり苦労した点

やはり、集客には苦労した。原因の一つに、ダンスに関わってきた担当者と新しくダンス事業を受け入れる清水の人や街とでは、意識のギャップがあったと思う。1枚のチラシに公演からワークショップを盛り込むことは華やかで人目はひきやすいようだが、その内容は伝わっていないということが実情だったようだ。そもそも、どんなダンス公演で、どんな魅力があるのかはチラシではなかなか伝わらないし、果たしてチラシや広報が多少でも興味ある人たちに届いているかは不明だ。とにかく、最初はどんな動機でも参加していただき、ダンスを体感してもらうことが大事だということに気付くのに少々時間がかかったと思うが、意識を変えて、ワークショップなどは、改めて詳細を記した個別のチラシを配布したり、商店街に回覧を回してもらったり、公演チケットに関しては、優待やチケットプレゼント、あらゆる媒体への告知依頼など、最後はまさに“下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる”といった状況だった。

●事業の成果

何より、連携した場所・施設・イベントの関係者の皆さんと良好な関係が築け、ダンスが人と人を楽しんで繋いでいく良いツールであることを理解してもらえたことだと思う。また、連携したそれぞれ箇所に、今後のダンス事業展開の可能性を感じられたことも成果の一つだと考えている。

●反省点、今後の課題など

事業連携した関係者の方たちには、ダンスの魅力が伝わったと思うが、清水の一般の人たちに広く浸透したかといえば、そうではなかったと思う。今回は、静岡市民文化会館のダンス事業に関わった人たちが最終的に空席を埋めてくれた感があり、今後は清水区のダンス好きを開拓しつつ、まだダンスに触れたことのない人たちに参加していただくような仕掛けが必要だと考えている。1回のダンスで成し遂げられることではないが、清水の街をもう少し知ることが必要だと思う。そういう中で、清水にフィットした広報の仕方や伝え方が見つかっていくのではないかと感じている。また、今回の成果をどう次に活かしていくかも課題の一つだと考えている。

**●この地域のダン活の特徴**

静岡市清水でのダン活の特徴は、まさに多角的なアプローチだったと思う。ホール自体が駅に直結していることの利便性を活かして、どのように地域と繋がっていくのか、ダンスの可能性をいかに広げていくのかを様々な方法で挑んだダン活であった。

清水駅前に位置するアーケードの銀座商店街。ちょうどダン活公演の前の日に“富士山コスプレ世界大会”があることを知り、その中でダンスを披露できないかと一回目の下見の時から話が出た。そこで商店街の中心人物にコンタクトをとり、コスプレ大会の中で自分たちのダンスを踊ると、商店街全体を使って、フラッシュモブをやろうとなった。しかしどうせやるならば、どうやったらコスプレの人たちを巻き込むことが出来るか？偶然北尾さんが以前の公演で初音ミクの音楽を使ったことがあり、その曲のアニメでネギが出てくる。そうだとコスプレの人たちも初音ミクでネギならば、みんな一緒にネギを振ってくれるのではと、スタッフが紙で100本以上の“ネギ?!”を作った。一緒に踊ってくれる人たちも公募した。これまでのダン活ではなかった取り組みである。当日、商店街全体に初音ミクの音楽が流れ始めると、突然いろんなところでダンサーが踊り始める。コスプレの人たちも“ネギ”を振りながら一緒に踊ってくれる。曲の設定ミスで予定外に何回もこの曲が流れる中で、カオス状態になっていった。コスプレとダンス、近そうで遠いジャンルがこのような形で合体できることを初めて知った。また銀座商店街では、空き店舗を有効に使おうと、まちづくりのNPOが、空き店舗をレンタルスペースに変えている。そのひとつのスペースAKIBAKOを使って、北尾さんが商店街の人たち向けのヨガワークショップを行った。また、駅前にある静岡市の子供たちが仕事を体験する施設「こどもクリエイティブタウンま・あ・る」では、子供たちに振付家という仕事を紹介するためのワークショップを行ったり、と、たった1週間という間に、最後の公演を含め、これだけの活動が出来たのは驚異的なことであった。担当の野沢さんはじめスタッフの方々、そしてアーティストの北尾さんは本当に大変だったと思う。しかし、今後清水市にダンスを根付かせていくための最初の第一歩をこれだけ様々な形で踏めたのは、すごいことだと思った。

**●課題とこれからに向けて**

打上げでもみんなで話をしたのだが、初めの第一歩を踏めたので、次はどのように継続していきけるか、その方法を考え、実践あるのみだと思う。幸い清水は静岡から近く、静岡ではこれまで静岡市民文化会館を中心にコミュニティダンス事業を継続して行ってきたので、多くの市民ダンサーやファシリテーターが存在している。他の地からアーティストを招かなくても十分に今回のそれぞれの場所での活動を継続していけると思う。それは静岡のダンサーたちにとっても活動の場が広がることである。そして、静岡は、東京からも関西からも近い。静岡市民文化会館で始まった「ダンス王国 SHIZUOKA」を清水にまで広げて活動し、どんどん他の市や町に広げる方法を、今後の清水での活動で、実現できたらと願っている。



# スケジュール

	下見①	
	4/12(日)	4/13(月)
9:00		
10:00		テクニカル 打合せ
11:00		↓
12:00		
13:00	アーティスト来飛	確認打合せ
14:00	全体打合せ	
15:00	↓	帰途
16:00	↓	
17:00	ホール下見	
18:00	↓	
19:00	懇親会	
20:00	↓	
21:00		
22:00		

	下見②	
	11/2(月)	11/3(火)
		公募 WS①
		↓
アーティスト来飛		PV 撮影
神岡小学校 打合せ		テクニカル 打合せ
		↓
特別支援学校 打合せ		帰途
古川小学校 打合せ		
古川中学校 打合せ		
インリーチ		
↓		

	実施期間						
	12/8(火)	12/9(水)	12/10(木)	12/11(金)	12/12(土)	12/13(日)	12/14(月)
9:00							帰途
10:00			古川中学校 アウトリーチ	特別支援学校 アウトリーチ	音響・照明・ 映像調整	舞台最終調整 リハーサル	
11:00			照明仕込	↓	↓	↓	
12:00						最終ゲネ	
13:00	一行来飛		音響仕込	映像仕込	↓		
14:00		神岡小学校 アウトリーチ	古川小学校 アウトリーチ	アーティスト リハーサル	リハーサル		
15:00	全体打合せ	↓	↓	音響・照明 調整	↓	公演	
16:00	↓		ヒッツFM 生放送	↓	↓	WS 参加者 交流会	
17:00		アーティスト 稽古		↓	↓		
18:00		↓		↓	↓	打上げ	
19:00	公募 WS②	クリエイション①	アーティスト 稽古	クリエイション②	ゲネプロ		
20:00	↓	↓	↓	↓	直し		
21:00							
22:00							

## 地域交流プログラム

### ●アウトリーチ

飛騨市内は小中学校が 8 校と少なく各学年 1 回は音楽のアウトリーチで訪れているため、今回のダン活では今年既にアウトリーチを行った学校以外で選定。子どもたちの雰囲気の違う 2 校の小学校（同学年）と市内で一番規模の大きい中学校、そして普段あまり伺わない特別支援学校の皆さんにダンスを届けることとなった。どの学校とも打ち合わせはスムーズに進み、お話をした全ての先生方が協力的でインリーチにも積極的に参加して下さった。

【神岡小学校】市内中心部に比べこの土地の人々の文化意識は高く、子どもたちも活発でのびのびしているイメージがある。ダンスアウトリーチは初めてだったが、ストレッチの段階から笑顔と歓声が溢れる良い雰囲気の中で始まった。途中ペアになって身体を動かしかうのに飽きてしまう子も見られたが少数で、全体を通して反応が良く、56 人という人数を感じさせないくらいにまとまって皆が楽しんでた。ただ集中力が続かず周りと遊んでしまうので、やはり人数は少ない方が良い。ペアでの取り組みよりも、ひとりで動く、6・7 人のグループで踊るときの方がひとりひとりこの時間を楽しんでいるように感じられた。

【古川中学校】最初のデモンストレーションでがちり心をつかまれた生徒と先生、「なんだかよく分からないけれど楽しい！」という空気が体育館を包んでいた。男子に 3 人ほどノリの良い生徒がいて皆をうまくひっぱってってくれたおかげで、多少恥ずかしがる場面はありつつも皆が楽しくからだを動かしていた。女子はどうしてもかたまってしまったが、後半は身体もほぐれ笑いながら楽しんでた。校長先生は生徒よりもはりきって踊っていた。

【古川小学校】音楽のアウトリーチに訪れると毎回感じるの、大きな反応もなければ騒いだりもしないとかくおとなしいという印象。しかし今回のダンスアウトリーチは全く違ってた。アーティストの動きを真似たり音楽にのって動きまわったりする場面では、きらきらした笑顔で「次は？次は何をするの！？」と言いださんばかりの積極性を見せ、終始笑い声が絶えなかった。アーティストのお題を聞いてそのイメージをからだで表現する場面では、周りの子と同じ表現ではなく、ひとりひとりが考え、これだと思った動きをしているのが印象深かった。

【飛騨吉城特別支援学校】全校生徒にコンテンポラリーダンスを見せたいという学校側の要望に応え、最初 10 分間はアーティストによるデモンストレーションが行われた。プログラムは高等部の生徒 16 名を対象に行ったが、全員がアーティストの動きを真剣な目で追い、楽しみながら真似て踊っていた。言葉ではなくまさに身体でコミュニケーションをとっていて、その表現の豊かさに驚かされた。



神岡小学校



古川中学校



古川小学校



飛騨吉城特別支援学校

## ●公募型ワークショップ

対象を小学生以上とし広く募集したが、7才～50代までダンス教室の先生・生徒、ダンス経験のある方などが多く集まった。そのためストレッチからレベルが高く（多くの参加者がY字バランスをとれたりする）、また皆さんとても意欲的に取り組んでいた。普段のレッスンとは違う型のない身体表現について、「最初難しかったけど楽しかった」という子どもたち、またダンス教室の先生からは「普段使わない筋肉を使った感じ。面白い表現がたくさんあった」など感想を頂いた。WS後には会館屋外広場で本公演PRのための動画撮影を行った。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

学校の先生（12月9日～11日アウトリーチ先の教頭・教務主任・担任の先生）が17名、飛騨市文化交流センターの職員、理事各2人が参加。ダンスワークショップ未経験、授業でもダンスを教えたことが無いという方が多く、最初は少し戸惑っている様子がみられた。ストレッチが個人→ペアになったところから笑い声が増え、それぞれが楽しんで参加しているという雰囲気が感じられるようになった。内容としては決して難しくなく無理のないものだが、アーティストの一挙手一投足を見逃すまいと皆真剣そのもの。アウトリーチ内容を事前に細かく知りたいという要望が多かったので、このワークショップはそれぞれの先生に良い答えを持ち帰っていただけたと思う。「ダンスがこんなにも自由で楽しいものとは知らなかった。」「これなら時間が長くても子どもたちも楽しんで参加できると思う。」などの感想をいただいた。今回のこの先生を対象にしたインリーチはとても効果的だったと感じた。



## 地域交流プログラム内容

12月10日（木） 飛騨市立古川小学校 4年3組

### ●ウォーミングアップ

アーティストの自己紹介とデモンストレーション  
「コンテンポラリーダンスはこういうダンスのことです」  
運動の体系に広がってストレッチ、個人→2人組になって、  
少し難しいようなポーズにも挑戦。

### ●ダンスを踊る

ストレッチのペアのまま続いてダンスをしてみよう。  
「ここでボールを投げる！」など物語のようにひとつひとつの  
ポーズを説明しながら進む。  
では音楽を流しながら（合わせてではない）皆でやってみよう。  
最後はみんなの好きなポーズでOK！  
2グループに分かれて見せ合う。「どうだった？」→交代

### ●真似して踊る

アーティストが即興でダンスをしながら動き回る。1グループは  
その後に続きながらまねをする。そこに動きについての説明は  
なく、バックで流れる音楽だけ。もう1グループは見ている。  
動いている方も見ている方も笑いが起こる。「どうだった？」  
→交代

### ●相手を動かす

ペアの相手を人形にして自分の思うように体の各部分を動かして  
いく。  
「叩いたり乱暴にしないで、ゆっくり相手を動かしてみよう。腕を  
こんな位置に持っていてみよう、首を傾けてみよう、とか考え  
ながら」体の向きや顔の位置、関節を様々な方向に動かしながら、  
身体の可動域の広さと表現の広がりを経験する。→交代

### ●想像して動く

「手首の中にボールが入っている、それが肘へ移動するよ、  
肩まで来たよ、胸から次はお腹に落ちて…」と身体の中にボール  
を感じながら動く。そのボールが重くなったり軽くなったり、  
大きくなったり小さくなったりする。そのボールを使って  
ペアと身体の動きを使ってキャッチボールをする。膝のボール  
を投げると相手は頭でキャッチ、のように。

同じように三角形を感じる、定規を感じるなど、身体の中に  
いろいろなイメージを持ちそれを自分で動かす。

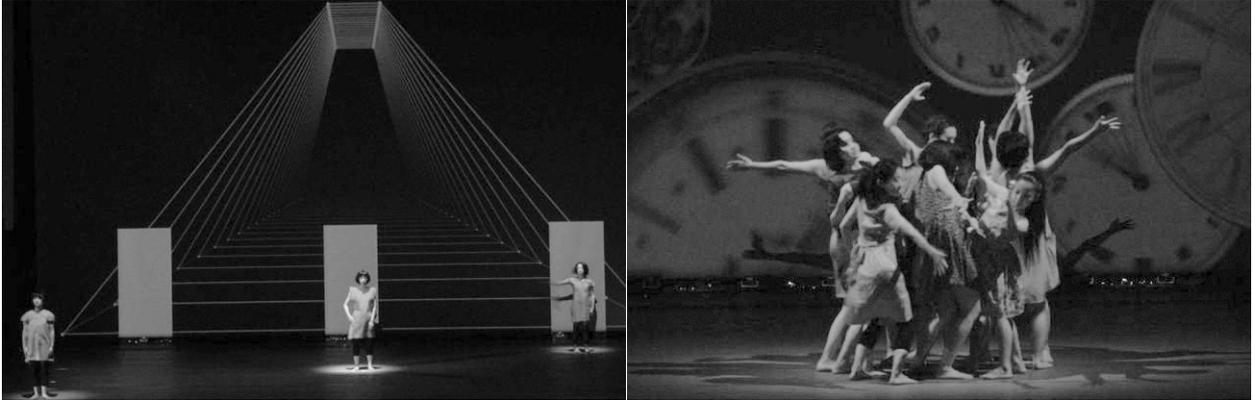
### ●お題を想像して創造

音楽が鳴っている間は動き、音楽が止まったら同じくス  
トップ。アーティストが出すお題（例えば「声の出ない政治家」  
「満員電車」「迷うねこ」など）にそれぞれが思う動きを  
する。「探す」という言葉一つでも、床を這って何かを探す子、  
逃げた飼い犬を呼ぶ子、箱や引き出しを調べる動きをする子  
などイメージするのは様々だった。



## 公演

## 東野祥子コンテンポラリーダンス公演『CHRONOPHOBIA』



飛騨では初となるダンス公演ということで、公演参加者を広く募集した。当初はダンス未経験や運動が苦手な40～50代の男性に参加していただき「おやじダンサーズ」を結成したいと考えていたが、結果的には公募型WSに参加していただいたクラシックバレエ教室の先生・生徒さんや、ヒップホップ、ジャズダンスの経験者など、ダンス歴あり／コンテンポラリー未経験の7才～50代の16名の女性が集まった。

舞台はクラシックコンサート開催時のように側面の反響板を閉じて三方を白い壁にし、各バトンを降ろした状態の演出から始まった。ダンサーの動きに合わせて映し出される様々な映像は刻々と変化し、「ここは本当にうちのホールなのか？」と思うほどいつもと全く違う空間。舞台からはみ出るほどに迫力のある映像と、歌詞のない歌や効果音の様な不思議な音楽、“ダンス”の一言では言い表せない程に複雑で美しく、エネルギーをそのままぶつけられるような表現。全てが合わさって化学反応を起こし、客席で観る人々には様々な感情を呼び起こさせた。きれい、こわい、不安、狂気、不気味、宇宙、人生、死ぬ、生まれる、希望、時間…。まさにダンスの枠を超えた“生”の芸術。ダンサーとして舞台に立った参加者の皆さんはしきりに「客席から見たい！」と言っていた。

東野さんは参加者を一般公募して集まった人々とは思っておらず、ダンサーとして指導。倒れ方、指先の動き、目線に至るまで細かい指示が飛び、クリエーションの段階からレベルの高さを感じた。

公演に参加した子供たちは「このダンスはどういうことなの？」「なぜここで倒れるの？」「何を表しているの？」と“どうして？”と疑問に思う部分が多かったようだ。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・とてもよく研究されていて、人間の表現の最高を思いました。
- ・面白かったです。もっと長い時間観てみたかったです。(体力的に大変なのかな)
- ・もっとたくさんの人に観てもらいたいです。
- ・独特のリズムの中で踊るダンスがとても良かったです。
- ・初めてコンテンポラリーダンスを観させてもらいました。不思議な空間、気持ちになりました。とても素晴らしかったです。また観たいと思いました。
- ・みんなで創り上げる舞台、ステキでした。みんなにもっと知ってほしい。
- ・大変まんどく！
- ・わけわからん、何なのこれ。なんとなくいい感じの時もある。目がまわる。

●この事業への応募動機

これまで地域の学校には主にクラシック音楽でのアウトリーチを行ってきました。演奏家が違えば楽器はもちろ内容も違ってくるのですが、「子どもたちは本当のところどう感じているのだろう」という疑問が常にありました。何度も訪れていると、〇〇小学校の子どもたちはおとなしくて集中できるけど反応が薄い、というように学校や学年でのイメージが出来てしまいます。本当はそうではない、内にはエネルギーが渦巻いていて、子どもだからこそその表現や感性は素晴らしいものを内包しているに違いない！それをダンスで表に出すことはできないだろうか…と考えました。また、飛騨ではこれまでダンス公演を行ったことが無く、このダン活をきっかけに様々なジャンルの芸術文化を自主事業に取り入れていきたいという狙いがありました。

●事業のねらいと企画のポイント

このダンス WS と公演を通して地域の人と人、地域とホールが繋がるきっかけになれば。また、今後幅広いジャンルの公演、音楽以外のアウトリーチやワークショップを行い、文化の裾野を広げるとともに小さくともいろんなパイプをつくりたかった（子供と大人、教育機関とホール、地域とダンス…）という狙いがありました。今回、特に公演のクリエイションを通して、人と時間を共有し何かを創り上げることの楽しさを知ってもらえたのではないかと思います。

●企画実施にあたり苦労した点

集客に大苦戦しました。チラシやポスターには“ダンス未経験者大歓迎”と謳っていましたが、ワークショップ・本公演はダンス教室関係からの参加がほとんど、本公演のお客様も出演者の親族・友人が大半でした。もっと多くの方に（欲を言えばダンスが苦手な方にこそ）ダンスの面白さを知ってほしいと思っていましたので残念な結果でした。コンテンポラリーダンスそのものについて、アーティストの伝えたい思い、どんなふう公演を創っていくのかなどを事前に深く聞き、人々の興味を惹きつけられるよう PR の方法を工夫するべきでした。

●事業の成果

今回、学校の先生方から多くの気付きがあったことを教えていただきました。アウトリーチ後「あんなにはじめて〇〇さん初めて見ました」「からだを使ってコミュニケーションをするのってこんなに楽しいのですね」「ぜひ授業でも取り入れたいです」「また来てください！」と先生が口々に話しかけてくださり、その効果の大きさを実感しました。

そしてもうひとつは、年代の違う多ジャンルのダンスをやっている人同士に交流が生まれたことです。東野さんが「舞台にあがればみんなダンサー」と言っていた通り、ひとりひとりが常に真剣に練習に臨んでいました。クリエイションは実質3日、それぞれ学校や仕事を終えてからの集合でしたが本当に一生懸命で、少し時間ができれば振りのチェックをし、舞台袖では「こうだったよね？」と確認し合う姿がいつも見られました。このダンス公演を通して各々表現の幅を広げられたのはもちろん、日常では出会うことのない人同士の絆を深めることができたのではないのでしょうか。

●反省点、今後の課題など

主催側の私たちの理解が十分でなかったことが一番の反省点です。こういった創造型事業の場合は特に、主催側スタッフの意識にブレが無いよう事前準備をする重要性をあらためて感じました。柔軟性が足りなかったために皆さまには大変なご迷惑をおかけしました。打ち合わせから皆で創り込み創り上げる作品＝公演という認識を持ち、全員が同じ方向を向いて本公演を迎える…言葉で言うのは簡単ですが実際にはなかなかうまくいきませんでした。

様々な場面でコーディネーターの花光さんに助けていただきました。本当にありがとうございました。

### ●この地域のダン活の特徴

飛騨古川は、世界遺産として有名な飛騨白川郷に隣接し、白壁の土蔵と鯉の泳ぐ用水が流れる風情ある町だ。駅から1分、飛騨市文化交流センターの「SPIRIT GARDEN HALL」という名称は、1994年にこの地で開催された飛騨国際音楽祭を記念して町が現代音楽の巨匠、武満徹に委嘱した曲「オーケストラのためのスピリットガーデン〈精霊の庭〉」に因んでつけられたという。今回のダン活担当は、50代事務局長の澤さんとうら若き女性職員の阪口さんという男女ペア。澤さんは自身でも雅楽の龍笛を演奏する音楽通だ。過去におんかつや市民ミュージカルも経験済みという大ベテランで、会館ではダンス事業は初めてとはいえ、私たちは終始大船に乗った心持ちだった。特に東野祥子さんは映像やライブの音楽、照明効果などを駆使する総合芸術の舞台を創ることを得意とするアーティストなので、そうした作風に刺激を感じ一緒に面白がってくれる担当者の存在は有難い。それに輪をかけ市民参加ともなれば、手間暇がかかってもそのクリエーションのために惜しめない協力をしてくれる制作と技術スタッフがいることが、先ず一番に重要なことなのだ。本番には音楽家のカジワラトシオさん、映像作家の斉藤洋平さん、照明の筆谷亮也さんといったいつものテクニカルクルーが乗り込み、それぞれ厳しいプロの仕事で脇を固めた。時に演出上の意見の食い違いで口論が始まることもある。作品を創る現場は妥協を許さない緊張感が支配していた。

#### ◎プロのクリエーションに学ぶ

作品創作の臨場感に叱咤激励され背中を後押されながら、市民参加で応募した出演者たちは舞台に立っていた。彼らにとってはまたとない貴重な体験だっただろう。今回の市民参加者17名の全員が女性。そのほとんどがバレエ教室で学んでいるダンサー志望の子やダンス経験者だった。澤氏の当初の希望はおやじを招集することだったが、氏の飲み仲間への勧誘が足りなかったせいか(?)それは叶わず、応募者は見事に女性オンリーだった。けれど年齢層は小学1年生から40代までと幅広く、それぞれの力量や個性に合わせたシーンが東野さんの手腕によって創作された。彼女は市民参加だからと言って決して作品の質を落とさない。念入りなストレッチに始まり稽古の最後まで、子どもたちにも大人と同じようにレベルの高さや集中力が要求された。出番のない時も舞台の袖で真剣に振り付けの練習をするちびっ子たちは、未来を目指すダンサーそのものだった。ちびっ子も大人も助け合いながら必死に舞台に向かう一途な真剣さが胸を打った。その成果は驚くほど水準の高い作品となって結晶した。残念ながら彼女たちは舞台に立っていたので、自分で作品を見られない。後日、記録の映像を見て初めて、自分たちがどんなに素晴らしいことを成し遂げたか、改めて気づくに違いない。

### ●課題とこれからに向けて

#### ◎全員一丸となって目的に向かうためのコミュニケーションの強化

公演までの過程で唯一残念だったのは、制作スタッフと技術スタッフ間の意思の疎通が時に難しかったことだろう。阪口さんも反省点として挙げているが、何をどういった目的で会館が目指しているか、そのためにはどういった協力が必要かなど、もっと事前のコミュニケーションが取れていれば、一丸となって事業を遂行できたに違いない。契約上管理業務以外は手を出せないなどの規定があるのかも知れないが、何を誰がやるかの責任分担を全員が理解し同じ目標に向かって協力しあえる体制(環境)をつくるのが、制作サイドの使命であり、義務でもあるだろうと思う。

#### ◎人と人を繋ぐ会館

一方、アウトリーチで向かった学校の教頭先生が澤氏の同級生だったり、訪問した別な学校が阪口さんの母校だったり、地縁の人脈は羨ましい限りだった。後輩の子どもたちが目を輝かせながら弾ける光景を目の当たりにした時、きっと阪口さんはこの素晴らしいプレゼントを運んだ自らの仕事を誇らしく思ったに違いない。人口27000人だからできる人と人の顔が見える繋がり。自分のコネクションを活かしながら、更に新しい人と人の出会いの場を会館が創造し提供する、小さな町だからこそできる特権だと思った。それを実践してきた澤氏はダン活終了後に市議会というセカンドステージを目指して、オープンから10年の古巣を後にした。会館としては惜しいが、彼は飛騨古川を文化・芸術の街にするべく、立場を変えて活躍してくれるに違いない。今回アシスタントとして澤氏を支えた阪口さんが独り立ちし、見事にその任を継いでくれることを願っている。彼女がまとめた報告書の客観的な分析を読むと、この事業を達成したことによって舞台の参加者だけでなく皆が成長したのだと実感させられた。阪口さんは立派に飛騨古川の二代目澤になって、またダンスで人を繋いでくれるだろう。

# なかまハーモニーホール 実施データ

実施団体	公益財団法人中間市文化振興財団
実施ホール	なかまハーモニーホール
実施期間	平成 27 年 12 月 8 日(火)～12 月 14 日(月)
アーティスト等	アーティスト:田畑真希 アシスタント:王下貴司 共演者:カスヤマリコ
コーディネーター	佐東範一
サブコーディネーター	清水幸代
<p>■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)</p> <p>11 月 13 日 (火) 14:00～15:00 アウトリーチ先関係者・財団職員、17 名、小ホール</p> <p>■地域交流プログラム</p> <p>アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 12 月 9 日 (水) 10:00～10:50 さくら保育園、年長組、26 名、遊戯室</p> <p>② 12 月 9 日 (水) 13:30～14:50 希望が丘高校、総合ビジネス科 3 年生、26 名、体育館</p> <p>③ 12 月 10 日 (木) 10:00～10:50 深坂保育園、年長組、20 名、遊戯室</p> <p>公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 12 月 8 日 (火) 15:00～16:30 母親向け、500 円、4 名、小ホール</p> <p>② 12 月 10 日 (木) 15:00～16:00 高齢者向け、500 円、20 名、小ホール</p>	
<p>公演(演目、公演日・開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)</p> <p>■『中間ブギウギ』</p> <p>『メルヘン』</p> <p>■ 12 月 13 日 (日) 15:00 開演 (14:30 開場)</p> <p>■ 田畑真希、王下貴司、カスヤマリコ、デジ (音楽)、ワークショップ参加者 7 名</p> <p>■ 一般 前売 500 円 (当日 1,000 円)</p> <p>■ なかまハーモニーホール 大ホール舞台上舞台</p> <p>■ 56 名</p>	
	

# スケジュール

	下見①	
	4/16(木)	4/17(金)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		昼食
13:00		打合せ
14:00	ホール着	↓
15:00	施設見学	中間市発
16:00	打合せ	
17:00	↓	
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	11/13(火)	11/14(水)
		深坂保育園下見
		さくら保育園下見
		昼食
	ホール着	歴史資料館見学
	インリーチ	世界遺産見学
	雑誌記者取材	打合せ
	希望が丘高下見	↓
	打合せ	
	↓	中間市発
	↓	
	交流会	

	実施期間						
	12/8(火)	12/9(水)	12/10(木)	12/11(金)	12/12(土)	12/13(日)	12/14(月)
9:00				仕込み			
10:00		さくら保育園 アウトリーチ	深坂保育園 アウトリーチ			メルヘン通し	中間市発
11:00						参加作品通し	帰途
12:00						直し	
13:00		希望が丘高 アウトリーチ			テクニカルリハ		
14:00	中間市着	↓		共演者到着	↓	開場	
15:00	公募 WS①		公募 WS②	↓	メルヘンゲネ	公演	
16:00	↓			音響・照明 作り	↓	バラシ	
17:00				メルヘン 場あたり	メルヘン 最終確認	参加ダンサー 打ち上げ	
18:00					参加作品ゲネ		
19:00	参加作品稽古①		参加作品稽古②	参加作品稽古③	↓	交流会	
20:00	↓		↓	↓	↓		
21:00				衣装確認	参加作品 最終確認		
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

アウトリーチは、さくら保育園（年長組）、深坂保育園（年長組）、私立希望が丘高等学校（3年生）を対象として行いました。さくら保育園には「足の不自由な子」深坂保育園には「入院していた子」がいて体力的に心配していましたが、始まってみると元気いっぱいでした。

【さくら保育園】最初は緊張していたのか表情の硬い子が数人いましたが、どんどん田畑さんと王下さんの動きや表情に引き込まれて行き、田畑さんの明るいキャラクターもプラスされ、あっという間に園児の心を掴み年長組対象だった会場に年中組、年少組、1歳児クラスの小さな子供達まで全員約120名が時間を忘れて参加していました。

【深坂保育園】下見時に子供達と対面していたこともあり、子供達の方から田畑さんの中に飛び込んで行くような感じでスタートしました。その中に王下さんも自然と加わり、リズムに合わせて園児たちと心をつなげていく姿を見て、中間市に来て頂いて本当に良かったと感じました。また、園児たちは、田畑さんと出会えた嬉しさを身体全体で表現していたように感じられましたし、園児たちの表現力や想像力が田畑さんによって無限に広がっていたことにビックリしました。

【希望が丘高校】思春期真っ最中の高校3年生は予想どおりのリアクションで、恥ずかしがって参加を拒む女子生徒がいたり、腹痛を理由に途中から休む生徒も数人おり、場の雰囲気が悪かったのですが、30分が経過した頃より徐々に田畑さんのペースへ変化していき、身体で様々な表現することの素晴らしさと楽しさを理解できるようになっていた。生徒達を観察していると男子の方が素直な子が多く、一見参加しそうでない子も最後まで田畑さんとコミュニケーションをとっていた。しかし、女子は最後まで参加しない子が数人いて、この年代の難しさが感じられました。



さくら保育園



さくら保育園



深坂保育園



希望が丘高校

## ●公募型ワークショップ

本事業のスケジュールの関係上、公募ワークショップは平日昼間の開催となったため、平日に行っているホール主催の文化講座受講生を主なターゲットとして、年代別に「母親向け」と「高齢者向け」に分けて開催しました。しかし、こちらの思惑どおりには行かないもので、結果的に文化講座の受講生参加者は0名で、とてもシビアな結果となりました。最終的には保健センターや老人会等へアプローチし、母親向けが4名、高齢者向けが20名の参加となりました。参加者からは、「自由に動けて楽しかった」「日頃の運動不足が解消された」「不思議なダンスだった」など様々な感想が聞かれました。また、田畑さんの笑顔や明るさに引っ張られて、時間が経つのも忘れて必死に表現していた参加者の姿が非常に印象的でした。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

参加者は、アウトリーチ先のさくら保育園から2名（園長先生と保育士1名）、深坂保育園から2名（園長先生と保育士1名）、希望が丘高校から6名（相撲部6名）、当ホール職員から7名の計17名で行いました。初めは緊張していた参加者もアーティストの指導によって徐々にコミュニケーションが取れるようになり、笑顔が見られ、最後は真剣な表情に変化していく様子を見て、ダン活に対する理解を深める良いキッカケ作りになったと思いますし、事業を進めていく中でインリーチの重要性は非常に大きかったです。また、地元情報誌の記者に見学をして頂き、終了後にインタビューを行うなど事業PRも円滑に行うことができました。



## 地域交流プログラム内容

### 12月9日（水）さくら保育園 年長組

#### ●自己紹介

子供たちは始まる前からダンサーに興味津々で、時間前から田畑さん、王下さんと会話をしていました。自己紹介の時に王下さんが変なポーズを決めていたことに子供達は大喜びだった。最初は表情が硬かった子供達も田畑さんの明るさに引っ張られていき、間もなく和らいでいきました。

#### ●みんなで何本足？

2人で3本、3人で5本と一人増えていき、皆で考えていく姿は自然と友達の輪が広がっていくように見えた。また、子供達の独特な表現力や柔軟な適応能力にビックリさせられました。

#### ●0%→100%

0%の表現から100%の表現を繰り返し行い、自分流の表現を探していく途中で、突然50%が入ってきた時の子供達の対応力が様々で、観ている方もホッコリさせられました。

#### ●ステージ上で自分のポーズ

慣れてきた子供たちに自分流のポーズをステージで発表させる。見学をしていた年中組の子供たちまで参加し、子供たちの無限の表現力に感心させられました。

#### ●いつの間にか全園児が一つの部屋に120名

年長組の26名を対象としていたのですが、年中、年少、1歳児クラスの子供たちも興味津々で見学にきていましたが、静かに出来る訳もなく、楽しそうに遊んでいる年長組に交じって徐々に遊戯室のあちら、こちらで表現大会が始まっていました。この状況を見た園長先生が1歳児の子供が興奮して昼寝ができないねと笑顔で話していた姿が印象的でした。予定していた時間を大幅にオーバーし、大盛況で惜しまれながら子供たちとのお別れとなりました。



## 公演

## 田畑真希ダンス公演『メルヘン』



公演は、一部：市民参加作品『中間ブギウギ』を約 20 分上演し、10 分間の休憩後に二部：田畑真希作品『メルヘン』を約 50 分上演する内容となりました。

市民参加作品は、告知直前まで実施するかどうかを迷っていましたが、特別参加の希望が丘高校相撲部の 3 人のキャラクターと一般参加の女子 4 人のキャラクターが非常にマッチしていて稽古初日の初顔合わせから和やかなムードで進めていきました。また、参加者 7 名がスポンジのような吸収力で、指導していた田畑さんも初日から素晴らしいと絶賛していました。本番日を含めて 5 日間という限られた時間のなかで田畑さんのスパルタ指導に喰らいつき、日を追うごとにどんどん成長していく姿や参加者たちの楽しそうな表情を目の当たりにして、参加作品を実施して良かったと思うと同時に田畑真希さんをお願いして本当に良かったなと思いました。

第二部のメルヘンは、ダンスに生演奏が加わった内容となっており、途中、王下さんによるメンバー紹介で和やかな雰囲気になるなど、激しいダンスに加え、笑いも取り入れられており、初めてコンテンポラリーダンスを鑑賞されたお客様も楽しめたことと思います。また、来場者は舞台上に客席があることに非常に驚いており、臨場感あるダンス公演を鑑賞できて非常に満足していました。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・舞台の上に客席があることに驚きました。こんな使い方があるんだなと思った。相撲部のダンスに迫力があつた。
- ・不思議な空間で不思議なダンスだった。
- ・相撲部の動きが素早くビックリした。ダンスも上手だった。女子のダンスも上手だった。
- ・ワークショップに参加させて頂き、今日の公演も楽しく観覧させて頂きました。ワークショップでのダンスがどのように出来あがるのか全く想像がつかなかったのですが、身体全体を使って表現している姿に感動しました。今度は体験だけではなくダンサーとして参加してみたいと思います。相撲部すごかった。
- ・こんなダンスがあるんだなと新しい発見だった。

●この事業への応募動機

当ホールは、開館から約20年を過ぎておりますが、ダンスの自主公演を一度も開催したことがないこと、音楽イベントのマンネリ化や指定管理料の減額に伴う事業費の減額により低予算でダンス事業が行えることに魅力を感じました。また、音楽を聴かせる事よりも身体を使って楽しむアウトリーチの方が伝わり易いのではないかという思いがあり応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

新しいジャンルへの挑戦をすることで、新たな地域人脈の構築が期待できることやコンテンポラリーダンスを市民の方々に知って頂く事、身体を動かして自由な表現を楽しんで頂く事をポイントとして考えました。また、音楽イベントでは幼稚園や保育園といった未就学児を対象とした公演を行うことが困難な場合が多々あり、未就学児を対象とした公演を行うことが非常に少なかった当ホールの事業としては、今後シリーズ企画として継続して行えるものとして考えていきたい。

●企画実施にあたり苦労した点

集客や広報活動に関して非常に苦慮しました。ワークショップ等を体験した方々には共感して頂き、またやってみたいという言葉が聞かれたのですが、ダンスと聞いただけで拒否反応を示す方々が多く、体験して頂かないと伝わらない難しさがあったように思います。音楽のようにジャズとかクラシックの名曲や演奏者名等で連想できるものとは違い、チラシを見ただけで伝えることの難しさを痛感しました。

●事業の成果

未就学児向けのアウトリーチでの子供たちの喜んだ姿や恥ずかしながらも最後は真剣に取り組んでいた高校生たちの姿を目の当たりにして、音楽だけではなく身体を動かす身体表現の素晴らしさを伝えられたことが一番の収穫と思えますが、ホール関係者に伝えることが出来たインリーチは非常に効果的で良かったのではないかと思います。音楽イベントに偏っていた自主事業も今後は変わっていくのではないかと思います。また、市民参加企画を行うことでダン活の良さがさらに際立ち参加ダンサーとの出会いで今後に繋がるキッカケが出来たように思います。本当に有難うございました。

●反省点、今後の課題など

反省点としては、1回目の下見を4月に設定したにも関わらず、2回目の11月の下見までに事業内容を固めることができず、チラシ等の作成が遅れ、広報活動を行う期間が極端に短くなったことで、集客にも影響が出たことと思われます。1週間という限られた時間のなかでアウトリーチ、ワークショップ、市民参加作品、本公演を行うことは非常に勉強になりましたが、下見を2回するのであれば、分散したやり方もあったのではないかと思います。例えば1回目の下見時にホール関係者や地元文化団体向けに行うインリーチを行い、沢山の賛同を得てからの事業内容固めを行い、2回目の下見時にアウトリーチと宣伝活動を同時に行うことで集客が見込め、そして市民参加企画とアーティストの本公演を行うような事業全体の流れを作ることが出来なかった。

**●この地域のダン活の特徴**

なんといっても今回の中間市ハーモニーホールでのダン活の目玉は、相撲少年たちのワークショップ参加+公演への出演であろう。長くダンスの事業に携わっているが初めての出来事である。1回目の下見の時に、担当の三浦さんから高校の相撲部の参加の可能性を伺ったときには、まさか、そんなことが実現するのか、と思った。そしてその相撲部がある希望ヶ丘高校に伺い、初めて相撲の稽古を見た時には、驚くと共に感動した。黙々と繰り返す、繰り返す続ける身体のぶつかり合い。すぐ直前のワークショップで出会ったかわいらしく、ひょうきんな少年たちが、全く別の表情でその場にいた。今回のダン活では、最後の公演をアーティスト田畑真希さんの作品と、地元の参加者による作品の2本立てで行おうということになっていた。参加者が集まるかがホール、そして担当の三浦さんの肩にかかっていた。結果、相撲部の高校生5人、転勤で旦那さんとこの地に引っ越してきたけれどダンスをする場がなく、待ち望んでいたという女性2名、そしてダンススタジオに通っているバリバリ踊る子供たち。この不思議な組み合わせの公演に向けた稽古は、偶然の組み合わせというよりも、その作品のために集められた、まったく新しいダンスカンパニーが生まれたような勢いだった。なぜ相撲部の高校生にダンスをという発想が生まれたのか、を三浦さんに聞いてみた。その高校の文化祭をハーモニーホールで行っていて、スタッフとして準備などをしてきた相撲部の子供たちを見て、この子供たちがダンスを踊ったら面白いと思ったのがきっかけとのこと。その後先生にお願いしたところ、ありがたいことに可能になったとのこと。三浦さんもすごいけれど学校もすごいなと思った。アウトリーチではふたつの保育園に伺った。子供のころにダンスを体験すれば、すぐには広がらなくても、その子供たちが大きくなってきたときに、ダンスを特別なものではなく、当たり前のもので触れることができるのではという三浦さんの熱い思いからである。一つの保育園では、初めはひとつのクラスだけだったのだが、ガラス越しに次々と他のクラスの子供たちが集まってきて、いつの間にか、保育園全員がダンスに参加していた。

いつもダンスをこれまで扱ったことがないホールや地域でダン活を行うたびに思うことだが、やはり新しい文化をその地に根付かせるには時間がかかる。しかし今回のような新しい視点や地域の今後にどのようにつなげていくかの視点があれば、新しい世界が開けてくるのだということを確信をもって思った。

**●課題とこれからに向けて**

観客のことでと劇場の制作スタッフの人数のことを考えると、なかなか単独でダンスの事業を行うのは大変だと思う。しかし周りには、北九州芸術劇場や福岡など、他の地域と連携してダンス事業を継続できないだろうかと思う。そして、ほかの分野とダンスを繋げて一緒に行う試みをどんどん行ってほしいと思った。それだけの下地がハーモニーホールには出来ている。今後は楽しみです。

(公財) 仙台市市民文化事業団 実施データ

実施団体	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
実施ホール	せんだい演劇工房 10-BOX	
実施期間	平成 28 年 1 月 18 日(月)～1 月 24 日(日)	
アーティスト等	アーティスト:青木尚哉 共演者:飯森沙百合	アシスタント:町田妙子 テクニカルスタッフ等:齊藤智仁
コーディネーター	菊丸喜美子	

■関係者向けワークショップ(インリーチ)(実施日時、対象、参加人数、会場)

4 月 27 日 (月) 18:30～19:30 アウトリーチ先関係者、協力関係者、12 名、日立システムズホール仙台練習室 1

■地域交流プログラム

アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)

- ① 1 月 19 日 (月) 10:00～12:00 若林 3B 体操サークル、教室参加者、24 名、若林区文化センターリハーサル室
- ② 1 月 20 日 (火) 15:30～17:30 仙台市立仙台商業高等学校、1～2 年生、19 名、研修会館
- ③ 1 月 21 日 (水) 8:50～10:20 仙台市立西多賀小学校、5 年 1・2 組、45 名、体育館
- ④ 1 月 21 日 (水) 10:50～12:20 仙台市立西多賀小学校、5 年 2・3 組、45 名、体育館

公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 1 月 18 日 (月) 19:00～21:00 舞台関係者 (高校生以上)、2,000 円、13 名、10-BOX box-1
- ② 1 月 19 日 (火) 19:00～20:30 一般 (高校生以上)、2,000 円、4 名、10-BOX box-1

公演(演目、公演日・開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『マッピング』

- 1 月 23 日 (土) 15:00 開演 (14:30 開場)
- 青木尚哉、飯森沙百合、町田妙子
- 3,000 円
- せんだい演劇工房 10-BOX box-1
- 56 名



2016.1.23(土) / 15:00 開演  
せんだい演劇工房10-BOX box-1



2016.1.23(土) / 15:00 開演  
せんだい演劇工房10-BOX box-1

# スケジュール

	下見①	
	4/27 (月)	4/28 (火)
9:00		会場下見
10:00		舞台打合せ
11:00		↓
12:00	仙台着	昼食
13:00	昼食	移動
14:00	蒲生周辺視察	打合せ
15:00	荒浜周辺視察	↓
16:00	瑞鳳殿見学	帰途
17:00	打合せ	
18:00	インリーチ	
19:00	↓	
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

	下見②	
	11/24 (火)	11/25 (水)
		3B 体操下見
		移動
		昼食
	仙台着	ラジオ出演
	舞台打合せ	打合せ
	移動	移動
	西多賀小下見	仙台商業下見
	移動	帰途
	雑誌取材	
	交流会	

	実施期間						
	1/18 (月)	1/19 (火)	1/20 (水)	1/21 (木)	1/22 (金)	1/23 (土)	1/24 (日)
9:00	舞台準備	移動	公演準備	西多賀小 アウトリーチ①	公演準備	公演準備	
10:00		3B 体操サークル アウトリーチ		↓		↓	帰途
11:00		↓		西多賀小 アウトリーチ②		通し	
12:00		移動		↓	↓		
13:00		公演・WS 準備		給食交流	休憩	折込作業	
14:00	↓		移動	移動		開場	
15:00	会場入り		仙台商業 アウトリーチ	公演準備	ゲネプロ	公演	
16:00						バラシ	
17:00	全体打合せ	↓	↓		直し・調整 作業	↓	
18:00	WS 準備	WS 準備	移動				
19:00	公募 WS①	公募 WS②	交流会		撤収	打ち上げ	
20:00	↓	↓	↓	↓			
21:00	撤収	撤収		撤収			
22:00							

## 地域交流プログラム

### ●アウトリーチ

アウトリーチ先は、身体を動かすことに興味関心を持っているが普段コンテンポラリーダンスに触れる機会の少ない層を対象とした。

【若林 3B 体操サークル】違うジャンルの、身体を動かす方々とコンテンポラリーダンスの出会い、交流を目的として若林区で活動している教室へ伺った。いつもどおりのウォームアップを 20 分程度体験させていただくと、手を使った頭の体操や音楽に合わせて身体を動かすメニューで充実した内容であった。60～70 代の女性を中心としたパワフルな方々で終始笑顔で取り組んでいたのが印象的だった。普段から身体を動かし慣れていることもあり、アーティストの言葉や動きに対する反応が早かった。教室で普段使う道具もワークに取り入れてみるなど、アーティストと参加者双方に新鮮な気付きが得られたように感じられた。

【仙台商業高校】身体ワークを通して表現の幅を広げ、部活動やクラス、学年の枠を越えて交流を図るという目的で演劇部を中心とした文化部生徒と希望者を対象とした。はじめは何をするのか戸惑っていたようだったが、男子生徒がどんどんワークにのめり込むようになるにつれて全体の雰囲気も熱を帯びていった。畳敷きの和室で気軽に寝転がったり座ったりできる空間だったため、より活動的、開放的にワークに没頭することができたのではないだろうか。

【西多賀小学校】身体を使った表現を体験すること、プロのダンサーとの交流を目的として行った。3 クラスを二つに分け、様子を見ながら少しずつメニューを変えていた。はじめに人体模型や骨のレプリカを使って身体について説明することで児童たちを惹きつけることができたように感じた。進めていくうちに「これってダンスなの？」という声も聞こえ、経験したことのない表現方法に戸惑いがあるようだったが「こんなダンスもあるんだ」「兄弟にも教えてあげたい」という感想を伝えてくれた児童もいた。



若林 3B 体操サークル



仙台市立仙台商業高等学校



仙台市立西多賀小学校



仙台市立西多賀小学校

## ●公募型ワークショップ

仙台では演劇やコンテンポラリーダンスなどですでに表現活動をしている人が多く、その層へのアプローチとして「舞台関係者向け」の枠を設け「一般向け」と違った内容で実施した。

舞台関係者向けでは、演劇、コンテンポラリーダンスのほかバレエやジャグリング、タップなど様々なジャンルで活動している方々が応募し、参加者同士での新たな交流も見られた。全員が積極的に取り組み、最後には即興でひとつの作品が出来上がったような形となった。

一般向けでは、歩き方など普段の動作から身体について考える内容で、感覚がどんどん鋭敏にされていくような様子だった。少人数での実施だったが、それがかえってアーティストとの深い対話につながり濃密な時間となった。

どちらも悪天候により参加者のやむを得ない当日キャンセルが相次いだことが悔やまれる。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

アウトリーチが決定していた先の担当者をはじめ、検討していた施設の職員とバレエ教室関係者、ダン活自体に興味を持ってくれた協力関係者、担当者が参加し、まずはコンテンポラリーダンスとはどんなものなのか、そしてアーティストがどんな人なのかを理解してもらうという目的のもとに実施した。二人一組になったり全員で協力したりしながら、身体を使ったワークを通してこれまで考えていたダンスとの違い、自分の身体と向き合うこと、初対面の人とも至近距離でコミュニケーションを取れることなどを感じ、理解を深めることができた。

主催側の参加が担当一人だけだったため、もっと内部の参加者を募るべきだったと考える。



## 地域交流プログラム内容

### 1月20日（火）仙台商業高等学校

#### ●ウォーミングアップ・息を合わせる

まずは座ったまま講師紹介と簡単な説明をした。緊張したような様子だったが部活動を聞いたりしながら徐々にほぐれていった。

横になり、自分のお腹に手をあて呼吸を感じる。次に二人一組になり、十字に重なるようにしてお腹同士を密着させて相手と息を合わせていく。その体勢のまま下の人の身体を転がしながら進み、戻ってくる。次はグループで一人が上、残りが下になり部屋の端から端まで身体を転がし上の人を送っていく。

#### ●目を合わせる

自分の目を手に取ったようにして前に出し、二人一組でお互いの拳を近づけて、リーダーを決め二人で同じ動きをする。次はリーダーだけが拳を前に出して、もう一人がそれから目を離さずに動きを追う。最後はお互いの目を合わせるだけで同じ動きをしていく。

#### ●マネキン

二人一組で片方がデザイナー、もう一人がマネキンとなって身体の関節を探って曲げていきながらポーズを作る。慣れてきたらそこへ更に「ひねり」を加えていく。次は三人一組でマネキンの身体を交互に二人で動かし、作ったポーズをずらしながら少しずつ前へ進ませる。

#### ●棒と葉っぱ

二人一組で片方の人差し指の上にもう一人の掌を乗せて流れるように動きを誘導する。徐々に人数を増やし人の間をくぐり抜けたりしながら絡まるように動く。最後は全員で大きな輪を作って動き、またもとの輪に戻るように誘導する。

#### ●まとめ

ワークがどうだったか感想を聞き、質問に答える時間とした。

#### ●デモンストレーション

即興でアーティストのダンスを披露。ワークの中で体験した動きをダンスの中で見ることができ、あらためて身体の使い方や表現方法について気付けたようだった。



## 公演

## 青木尚哉ダンス公演『マッピング』



会場である 10-BOX は通常のホールとは違い客席からすべて作らなければならない。逆に言えば、だからこそ何でもできる。自由に思い描くことができ、公演毎に違った表情を見せる特殊な会場だ。

アーティストはこの会場や仙台市内を見て新作の構想を練ってくださった。壁を周回する演出や空間を切り取るような照明、美術作品とのコラボレーションなどこれまでにあまり見たことのないアイデアが詰まった内容だった。そもそも青木尚哉さんというアーティストが公演を行うこと自体がすでにコンテンポラリーダンスの裾野が広がりつつある今の仙台にとってたいへんな刺激になるだろうと考えていたが、演出や表現のひとつひとつを取ってみても斬新なものでありこのような作品が仙台で産み落とされたことは喜ばしい限りである。

その一方で、チケット販売は苦戦していた。市内外施設・ダンス関係団体へのチラシ配布や公演パンフ等への折込、開通したばかりの地下鉄東西線各駅へのポスター掲示、メール配信、雑誌・市政だよりや事業団発行冊子への記事掲載、ラジオ出演、Facebook 発信などを行ったが最後まで伸び悩んだ。もう一步踏み込んだ、魅力を伝えられるインパクトのある広報宣伝が必要ではなかったかと考える。

終了後には舞台上の美術作品を間近で見られる時間を設け、美術家に許可を取り写真撮影も可としたところ、ほとんどの観客が見学し終了直後の舞台の熱を肌で感じることができる貴重な時間となった。このように舞台との距離が近くに感じられ、アーティストの息吹すら聞こえるようなこの会場で、多くの可能性を示唆することができたのではないだろうか。続いて新たな作品が生まれていくよう繋げていきたい。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・最初は早く踊ってほしくてやきもきしたが、最後になるにつれてスッキリした。真剣にダンスに取り組んでいる方々の舞台は素晴らしいです。
- ・日常的な動作（自分が一度はやったことのある動き）が記憶をたどって連続して再現されるとおもしろい。
- ・よく訓練されたからだがよく動くのはとても面白く、そして、ここに点を打って次に行くのだと思いました。
- ・美術作品との親和性が良い。
- ・答えを求めずに動きを楽しむ（見入る）ことができた時間でした。
- ・めまいがするような美しい流れでした。
- ・身体の使い方、動かし方だけで多くの事を表現されていて、単調にならず飽きさせない舞台でした。
- ・時間差のような振付が面白かったです。
- ・もう少し終了後か始まる前に初心者のために解説がほしかった。
- ・ただ立っただけでこわいときもあり、引きこまれました。

### ●この事業への応募動機

10-BOX を拠点とした現代ダンスによるアウトリーチやワークショップ等を通して震災後の新たなコミュニティづくりにアプローチし、地元で表現活動をしている人々との交流、そして彼らの活動のさらなるブラッシュアップに繋がりたいという思いがあった。

また、事業団では現代ダンス分野に直接踏み込んだ事業を長い間行っていなかったが、多くのダンサーが市内で盛んに活動している状況を鑑みると、優れたダンサーの公演やワークショップを実施することには一定のニーズがあり、今後仙台市の文化シーンを多角的に活性化させるために重要だと考え、応募に至った。

### ●事業のねらいと企画のポイント

応募動機では「震災」を挙げていたが下見や打合せを進めるうちにその観点から少し離れようと考え、純粹に地域や地元人材との交流と現代ダンスの裾野を広げ新たな観客層を掘り起こすことをねらいとした。会場である10-BOX は実施の前月に地下鉄東西線が開通し最寄りの駅ができたことでこれまでよりもアクセスが良くなったこともあり、これを機に施設自体のさらなる PR をしたり新たな観客層、活用方法などを発見できるよう事業を展開した。

アウトリーチでは小学校、高校、60～70代を中心とした地域の体操教室の3ヶ所に行くことで地域だけではなく年齢的な広がりをもたせた。ワークショップでは前述したように舞台関係者向けと一般向けに分けることで、より専門的な表現に触れて自らの活動に繋がったり、ダンス未経験者でも気軽に参加し身体について深く知る機会を創出できた。

### ●企画実施にあたり苦労した点

まずはアウトリーチ先の決定に手間取った。一つはすでに決まっていたものの、施設や教育委員会に情報を聞きながら受入先を探したが日程の都合で断られることもあり、また一般にはまだ馴染みの薄い「コンテンポラリーダンス」という言葉をいかに分かりやすく魅力的に伝えるかが非常に難しかった。ただその探す過程でも様々な方との繋がりができたことは良かったと言えるだろう。

あとは何と言っても集客である。前述のとおり苦戦した。広報はできる限りのことをしたが、考えてみれば他の事業と何ら変わりのない方法・宛先だったため、この事業をより独立した形で PR できる宣伝方法をもっと早くから考え実践すべきだった。

### ●事業の成果

地域や地元人材との交流に関しては、様々な年代の方々が現代ダンスとそのアーティストに触れて体験することができたと考える。舞台関係者からも好評であり、アンケートからは「これからもダンス公演やワークショップをやしてほしい」という声が見られた。公演会場の壁に美術家がチョークで作品を描くなどこれまでにない試みに取り組めたことも今後の可能性を広げることができたと考える。

また新たに各施設や団体の担当や地元人材との繋がりを持てたこと、ダンス事業へのニーズの把握、事業の流れを知ったことは、今後の事業展開にとっても有益である。

### ●反省点、今後の課題など

すべてにおいて主催者としての意識が足りなかったように思う。やり取りする中で何度もそれを考えながら進めるよう助言をいただいていたのにも関わらずだ。「こんなダン活をしたい」という確固たる意志が必要であった。それさえしっかりしていればアウトリーチ先の決定にしろ集客にしろ、おのずと道筋が見えてくることもあっただろう。目の前のことをやるだけで精一杯で、少し先すら見えていない状況だった。アーティスト側にも主催者としての意見を提示することができず、色々とやりにくかったに違いない。

今後の課題は細かく数えればきりが無い。ひとつだけ挙げるとすれば、今回の事業で得たものをどう次に活かしていくか。アウトリーチやワークショップで地域交流ができたと言っても、それはまだ「点」でしかない。何も始まっていない。そこから「線」を伸ばし「面」としていくために、我々がどう動くべきなのか。しっかりと今後に繋がっていききたい。

**●この地域のダン活の特徴**

実施年の4月に担当者が異動した。直前の担当者の交代であったため、前担当者が自らの意向、想いを踏まえアーティストと綿密に進めていた計画が白紙に戻り、仕切り直しとなった。もちろん、事業を前倒しして開始している以上、こういったケースは想定し得るわけで、このようなことは実際に過去にもあった。

主催者はあくまでホールを担っている組織であり、担当者の変更があったとしても大枠の意図は組織を経由して引き継ぐべきである。同時に、新しい担当者の考えも入れていくことが必要で、このような形での新たなスタート自体は特別な問題ではないと思う。ただ、新担当者は前年度の研修に参加されていないし、事業の経験も浅かったので、ご苦労は多かったのではないかと思う。こちらとしては、ダン活事業全体の趣旨を説明し、細かい事項に対してもできる限りアドバイスして手を差し伸べたが、もう少し相談をしていただける相互関係が築けたら良かったのではないかと思う。なぜなら、ダン活は、主催者とアーティストだけではなく、地域創造やコーディネーターという役割も介在し、チーム全体として目標に向かっていく事業であり、公共ホールの職員のための研修も重要な目的の一つであるからである。

また、アーティストもダン活は初めてで、戸惑う点もあったかと思う。

今年度より政令指定都市としての実施が開始され、仙台市もそのうちの一箇所である。仙台市はコンテンポラリー・ダンス公演の経験が豊富で、ダンス人口（ダンサー&観客）も多いと捉えていたが、ワークショップ、公演の集客に関して、予想した結果に至らなかったのは残念であった。

今回は、ダンサーの他に美術家も加わり、舞台スタッフとの細かな意見交換と日々の作業によって、新たな魅力的な空間・作品が生まれたので、その成果を一人でも多くの観客に立ち会ってほしいと思った。

やはり、商業的な「買い公演」とは異なり、ダン活のような手作りの事業では、集客に地道な努力が必須であることをしみじみ実感した。それには、恒常的に行っている市報などの一般的な広報以外に、いかに地元のキーパーソンや団体などに情報や熱意を伝え、協力を得られるかが重要である。

仙台は常に直前までチケットが伸びない、と言われたが、前売りの売れ行き状況から、当日券の伸びは予想できるわけで、危機感、緊張感をもって、できるだけ事前に確定枚数を確保し、販促にもっと力を注ぐことができたらと思った。

アウトリーチに関しては、小学校、高校演劇部、地域の高齢者向け体操教室といった多岐に渡って実施できて良かった。なかでも、高校演劇部では、男子生徒も多く参加し、初めてのダンスワークショップを楽しそうに受けていたので、良き体験となったのではないかと思った。

また、雪で新幹線が大幅に遅れた初日は、夜のワークショップの参加者や開催自体が心配になったが、欠席者はほとんど見られず、熱心に受けられていたので感動した。

**●課題とこれからに向けて**

実施期間の一週間、担当者の楽しい姿勢が感じられ安心した。今回の経験を生かし、さらに成長され、次に繋げていかれることを期待したい。

ただし、事業は担当者一人で負うものではないので、事業団全体としての取り組み方、運営体制など、今後の課題と方向性を整理され、どんな企画を立て、継続していくのか、

政令指定都市における公共ホールの担う役割として、広く多くの方々に伝えるのと同時に、地元の人々に賛同してもらおう努力、その方策を編み出して実行、継続して行っていただきたい。



# スケジュール

	下見①	
	6/12(木)	6/13(金)
9:00		市内下見
10:00		↓
11:00	ホール集合	↓
12:00	顔合わせ	↓
13:00		打ち合わせ
14:00	ホール下見	↓
15:00	打ち合わせ	振り返り
16:00	↓	↓
17:00	↓	↓
18:00	夕食交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	下見②	
	11/11(水)	11/12(木)
		打ち合わせ
		↓
		昼食
	打ち合わせ	見明川小下見
	↓	インリーチ
	↓	↓
	美浜南小下見	着替・休憩
	軽食	振り返り・打合
	音楽家と打合	↓
	公募WS	
	↓	
	交流会	

	実施期間						
	2/15(月)	2/16(火)	2/17(水)	2/18(木)	2/19(金)	2/20(土)	2/21(日)
9:00							
10:00		見明川小学校 アウトリーチ	美浜南小学校 アウトリーチ①		アーティストリハ	リハーサル	
11:00	制作打合せ	↓	美浜南小学校 アウトリーチ②			↓	リハーサル
12:00	↓						手直し
13:00	↓					場当たり	開場
14:00	セッティング立会	アーティストリハ	アーティストリハ	アーティストリハ		↓	公演
15:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓	アフタートーク
16:00	アーティストリハ	クリエイションWS②		クリエイションWS③	クリエイションWS④	手直し	バラシ
17:00			↓				
18:00	クリエイションWS①						打ち上げ
19:00	↓		音楽家WS			ゲネプロ	
20:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
21:00				交流会			
22:00							

### 地域交流プログラム

#### ●アウトリーチ

【見明川小学校】2回目の下見の際、偶然対象の子どもたちが、学年で活動している場に遭遇し、人数が多いため二つに分けるべきかと迷ったが、主任の先生や学年の雰囲気から、キムさんの決断により、1時間に時間を延長し、学年全体で実施することとなった。体育館に90名近くの高学年の子どもたちはスペースとしては最大人数であろうか。キムさんとアシスタントの夏海さんだけだと、目が届きにくく、もちろん先生達、我々スタッフもフォローに回った。突然のダンス登場シーンのオープニング、あそび（しじみゲーム、アルプス一万尺）の中の動きからの導入で、からだをほぐし、ペアダンスから自分のうごきを見つげるところまでのプログラムはさすがキムさんだと、感動した。最後に特によかった女兒（写真）をステージに上げ、踊ってもらった後、「彼女のよかったところは、誰よりも自分の動きに集中していたこと」と話され、「オリジナリティーを出し、それを追求し、自分の道を切り開いて行ってください」という言葉があった。それはその場にいた、先生・子どもたち・我々スタッフにとっても、真摯な言葉であり、とても短い時間だったにもかかわらず、皆に勇気を与えた印象的な場面であった。あとから頂いた子どもたちからお手紙、先生からのアンケートからもその様子がわかった。

【美浜南小学校】前日のアウトリーチの人数の三分の一程度、少人数の児童対象のアウトリーチ。子どもたちが最初に目にするのは、体育館の真ん中に動かないキムさんポツリ。子どもたち、最初は面喰っていたものの、キムさんにあわせて、自然と動き出した。この間10分ほどだったが、キムさんは一言も言葉を発しないのに、子どもたちを動かし、コミュニケーションしているさまが圧巻だった。対象人数が少ない分、キムさんのパワーが浸透するのが凄まじく、2回とも同様だった。45分のプログラムでは時間が足りないと感じるほど楽しかったらしく、なかなか教室に帰ろうとしないくらいだった。



見明川小学校



見明川小学校



美浜南小学校



美浜南小学校

## ●公募型ワークショップ

2月の本公演に向けて、誰でも参加でき、公演出演者を募るワークショップ「カラダは遊び道具ダ」と「音楽家のためのワークショップ」を実施した。

「カラダは遊び道具ダ」は、20代から50代後半まで幅広い年齢層の参加者が集まった。それぞれの意識が高く、動きもよく驚かされた。キムさんの長年のファンの方、中学生の頃にキムさんのワークショップに参加し、現在テーマパークダンサーの方など、現代ダンスやキムさんだからこそ、このようなメンバーが集結したともいえる。この中から9名が本公演に参加した。

「音楽家のためのワークショップ」は、これまでの文化施設として取り組んできた数々の主催事業で一緒に活動してきた音楽家対象に声掛けをし、8名が集まった。企画意図としては、クラシックの演奏家に対して、出す音のみならず、ステージングについて考えるきっかけ、また各々の課題を楽器やジャンルは違えども、参加者として共有し、新しい気づきにつなげられないかとキムさんに相談し、企画した。面白い手法だと思ったのが、即興演奏の導入だ。ダンサーの人の動きにあわせて音を出していくというものだが、何もないところから演奏するよりずっとやりやすかったはずだ。今後も音楽家の意見を聞きつつ、修正しながら発展させていきたいと思った。



## 関係者向けワークショップ（インリーチ）

文化施設の所長・副所長・係長・技術&事業担当者の参加の他、当社は、体育施設・青少年施設等の市内施設を管理していることから、体育施設の担当者・インストラクターに参加してもらった。また、市内近隣で活動しているダンサーさんにも参加していただいた。最初はカラダもキモチもぎこちなさがあったが、キムさんのオクラホマミキサーやアルプス一万尺（ジンギスカンバージョン）の導入で、ほぐされて会場は笑いに溢れた。そこからペアでのダンスに移行していくのだが、相手との駆け引きや、感じ取ったことを動きに変換していくことに戸惑いながらも、新しい感覚を楽しんでいたようだった。いつもいるメンバー（同僚）で新しい体験をすることは、各々の感覚だけでなく、職場での関係にも新たな気づきをもたらすのではないかと感じた瞬間だった。



## 地域交流プログラム内容

2月17日（木） 美浜南小学校 4年生

### ●出会い

体育館に入場した子どもたちが目にするのは空間にポツリな伊藤キムさん。じっと見つめると少しずつ動き出し、その動きに呼応して今度は子供たちが動かされていく。徐々にそして加速度的に距離が縮まって、最後は混じり合い、交流ははじまり、子どもたちからのアクションが次々生まれていく様子は圧巻であった。

### ●アルプス一万尺(ジンギスカンバージョン)

より速いうごきと、相手との動きをあわせ、体をほぐしていくエクササイズ。知っている手遊びと軽快でノリのいい音楽で会場は一気に熱気に包まれる。

\*インリーチでも大いに盛り上がった。(大人のほうがムキになってやる傾向がある、しかし、うまくできなくて笑いを誘う)

### ●あやつり人形

ペアになって動いてみる。動かされるほうは、自分の考えてみなかった動きをやらされる。動かすほうは指一本一本から関節の動きをひとつひとつ確認、ペアとしていかに面白い、新しいポーズを作れるか考える。

子どもたちは積極的に楽しみながら、取り組んでおり、それぞれのペアで工夫しながらポーズを考えていた。先生方から、子どもの予想外の表現と取り組みがみられたと教えていただいた。

### ●自分でうごいてみよう

今度は一人になってみて、自分の体の動きを再確認してみる。そして、自分はどんな動きがしたいか考えたり、相手がいたとしたら、どう動かされるか考えたりしながら、独自のうごきを探る。

最後にキムさんからオリジナリティーの追求と、自分のすることに集中する大切さなどの話があり、それらは生きていくうえでとても重要なことで、子どものみならず、その場にいた大人でさえも勇気づけられる場面であった。



## 公演

## 伊藤キムダンス公演『砂の上にポツリ』



11月の公募ワークショップ後、公演参加者を募り、13名中9名の方が参加を表明。キムさんが会場入りした2月15日から21日まで（18日は休み）公募ワークショップダンサー全員、本当に長時間リハーサルを重ねた。年齢が高い方がいるにも関わらず、激しいごきで、一般の方にも、キムさんは手加減なく真摯に指導されていたし、参加者もそれによく応えておられた。音楽担当は、数名候補がいたが、若干18歳の小山大凱（浦安市出身・浦安育ち）を推薦、キムさんの同意をえて、小山君は11月のワークショップからリハーサル・本番と通して参加してもらった。今回、参加者との創作作品のほか、キムさんのソロ作品があったのだが、小山くんと作品を練り上げる中、リハでやっていた即興対決はスリリングで観ていても面白かった。若い小山君にとっては貴重な体験の連続だったように思う。技術スタッフ（音響・照明・舞台）にとっても今回のダン活は試行錯誤の連続だった。舞台を360度囲むステージ、天井からのスピーカーと大量の打楽器のマイクの立て方や照明の作り方等。通常とは違う、少しずつ練り上げて作品をつくるやり方に戸惑い、またキムさんにとっても、やりづらい場面があっただろう。本番はそれぞれの力が出され、エネルギーに満ちた素晴らしい空間となり、これまで浦安で観られてきたダンスとは違う新しい形が提示できたのではないかと感じた。公演後は、担当者でキムさんが進行しながら、出演者全員参加のアフタートークを行った。お客様のほとんどが残られ、活発な意見交換ができた。今回のダン活の趣旨と下見からワークショップ・リハーサル公演に至るまでの経緯、キムさんが浦安を視察し、「砂の上にポツリ」を着想したこと、踊ることの意味など、出演者とお客様、皆で共有できたことは、良かった。アンケートにアフタートークも公演同様良かったとのご意見もあり、開催を迷ったが、安堵した。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・エネルギーで楽しい公演だった。伊藤さんの3年ぶりという20分間のソロは、豊かで印象的なムーブメントに溢れ、小山くんの打楽器と語り合い、もつれあい、自然への畏敬や自然と共に生きる自分を謳う。即興も交えながらということだったが見事だ。群舞は11月の講習会の参加者から9名、伊藤さんのカンパニーからプロダンサー2名が参加。こまごまと分かれたセグメントを利用して30分の大作にする伊藤さんの手腕とこれまた小山くんによるパーカッションのリードが圧巻だった。
- ・アフタートークで伊藤キムさんが語った芸術の意義は、「ルーティンになりがちな日常に刺激を与え、覆し、再生させること」。なるほど、と思った。「なぜ踊るのか」という問いには何通りもの答えが想像できるが、「なぜ観るのか」という問いは聞かれたことがない。コンテンポラリーダンスを頻繁に観ていると、よくオタク？と訊かれるけれど、実はそうではなくて、ややもすると平凡で退屈な日常に埋もれてしまう危険が大きい私にとって、日常を活性化させる原動力になっているに他ならない。そう言った意味では今回のテーマそのもののなのだな。今後の方向性についても色々と考えさせていただいた。こんな事もあるので、コンテは面白い。

●この事業への応募動機

浦安という土地は、ディズニーリゾートの影響を受けているせいか、子どもから大人までダンスをたしなむ人たちが非常に多く、市内に点在する7つの公民館・文化会館・市民プラザを中心に、活動を展開している。もちろんプロのダンサーも多くいる街である。

当社は、おんかつを3年、その後、地元のアーティストを研修し、学校へ派遣する、独自のアウトリーチプログラムを展開し、地域におけるアウトリーチプログラムの価値とその重要性を熟知している。

音楽プログラムが軌道に乗り始めたこと、ダンスを題材にアウトリーチ活動をするというのはどういうことか体験したい。数年後は、おんかつから、独自プログラムのミュージックデリバリーを展開したように、浦安にいるダンサーたちとアウトリーチ活動ができるような足がかりとしたい。

●事業のねらいと企画のポイント

キムさんと担当者の共通の認識として、若手の育成や地元の隠れた人材の発掘があった。このことから、公演自体もキムさんがすでに創作した何かを作品として持ってきて上演するスタイルではなく、ダンサーは公募ワークショップ参加者、音楽も地元若手演奏家の登用、チラシデザインや衣装助手も浦安市民と、新たな人を巻き込むよう努力した。

アウトリーチに関しては、音楽アウトリーチ（ミュージック・デリバリー）だけでなく、ダンスのプログラムにも着手したことを学校関係者にアピールしていく。

●企画実施にあたり苦労した点

応募した時点（平成26年度）では、ダン活準備から本番は文化会館改修工事の期間中の予定だった。ところがその工事予定が変更となり、通常の事業本数を抱えたまま、準備本番を迎えることとなったことが大変な番狂わせだった。アーティスト・アシスタント・コーディネーターとホール関係者、参加者と関わる人が多く、各々も多忙で、コミュニケーションの手段がメール中心なので物事を決定していくプロセスに時間がかかり苦労した。キムさんも担当者も、このダン活プログラムを体験するのが初めてだったので、戸惑うことが多かった。

アウトリーチ先を募集する際、ダンスを説明するときに、自分なりの言語を持ち、理解を得るために時間がかかった。

●事業の成果

このダン活という新しい事業に着手したことで、今まで当方にアクセスして来なかった人々とつながることができた。アウトリーチも音楽アウトリーチには無反応だった見明川小学校が興味を持ってくれたり、実現はしなかったものの、興味をもってくれたりした学校があったことが意外だった。

特筆すべきことは、若手の演奏家、小山大凱（パーカッション）を発掘できたこと、公募ワークショップダンサーの方々がこのプロジェクトに参加したことで、各々の生活や、ともすれば人生をも奮起させるきっかけになったことを垣間見られたことである。参加者同士でも継続的な関係ができたようで嬉しい。また、これまでやってみたかった専門家むけの「音楽家のためのワークショップ」が実現できたことも成果である。

●反省点、今後の課題など

アウトリーチも若手発掘も公募ワークショップ参加者を交えての本公演もそれぞれ、目一杯やったために、時間を要しすぎた。当社の実力、人員を鑑みてもう少し目標を絞ってもよかったかもしれない。しかしながら、今回のチャレンジで、当社の身の丈、方向性を確認することができた。小学校のアウトリーチで、日頃大人がなんとなく感じている、世間の息苦しさのようなもの（自分の欲求よりも他人の目や評判を気にしなければならぬなど）が子どもたちにも広がっているのではないかと心配になった。このような活動が各々にとってのきっかけやささやかな救いや助けになるのかもしれない。ダン活はこれまでの仕事の見直し・振り返りのターニングポイントになったように思う。

**●この地域のダン活の特徴**

東西約 4km・南北約 4km の浦安は、ディズニーリゾートで知られるが、古くからの市街地をはじめ海面埋立地など幾つかの地域がそれぞれの歴史を持ちつつ共存している。今回の浦安市ダン活の主体となる浦安市施設利用公社は指定管理者として、市の体育施設の他、文化施設（浦安市文化会館・市民プラザ wave101）などを運営し、地域創造公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）を 3 年実施した後、その蓄積したノウハウを生かし、地元のアーティストを育成して、教育委員会との連携で子ども達に音楽を届ける「ミュージック・デリバリー」を開始。また、地元の隠れた人材を見出し紹介する「Uスタイル」（U=浦安）というプログラムにおいては、2015 年で 50 回を越えるライブを行い、育成したアーティストは演奏力の他、トーク力も伸ばしてきているという。人と人とを繋ぐこれらのプログラムは、今回、ダン活を通して、ダンスというフィールドに視野を広げ、伊藤キム氏をパートナーに指名して、浦安市ダン活が始動。当初は、事業ご担当とアーティストとのやりとりに、地域創造、コーディネーターが加わるメールでのやりとりに、その主体がどこにあるのか、また経過・状況の共有が不足したこと等により、多少の混乱が生じた。

**公募ワークショップ：**2 回目の下見時に実施。2 月公演への参加者を募り、約 10 名の有志が作品に参加することとなった。また、音楽家のためのワークショップ～『オトとカラダを結びつける？』は、身体の側面から音楽・楽器をとらえ直してみようという試み。主にクラシック音楽の演奏家が参加したワークショップ後半、ダンサーとのセッションでは、譜面から離れること（＝暗譜することにもつながる）で、空間を再認識し、演奏する身体の意識を広げることになった等のフィードバックがあった。

**アウトリーチ：**校長会を通じてアウトリーチ先を募集し、見明川小学校 5 年生 3 クラス合同 90 人 60 分、美浜南小学校 4 年生 2 クラス各 45 分の授業を実施。（学校の地域性により、児童数・クラス編成は異なるが、対象学年全クラスの児童を参加させたいという学校側の意向があり。）見明川小学校 3 クラス合同での授業については、アーティストの目が行き届くのかという懸念はあったが、キム氏のそれまでの経験、同校が学年合同で行事を行っていることや人の話を聞くことができる高学年の児童たちであったこと等から、それぞれが自分との対話に集中し、中だるみのない授業が成立した。

**伊藤キムダンス公演『砂の上にポツリ』：**アクティングエリアを四方から観客が取り囲む設営をし、数多くの打楽器演奏で公演をサポートした大学生音楽家とアーティストのセッションに続き、ワークショップ参加者たちと 1 週間かけて創り上げた作品を上演。ご来場は 100 名を越え、終演後のトークはキム氏の提案により、まずは来場者からの感想・質問を受けることからスタートし、多くの方のお話を伺うことができた。また、浦安市ダン活はアーティスト、地域創造ご担当、コーディネーター共、移動に長時間を要しなかったことから、事業期間最終日に公演を開催した。

**●課題とこれからに向けて**

今回行った音楽家向けワークショップは、浦安市が有する人的財産の更なる育成につながると信じ、是非、継続的に実施できる環境作りを仕掛けていただきたいと思います。

また、東京と浦安市をつなぐ新しい音楽専用ホールの開設もあると聞く。今後は、音楽からのアプローチと共に、身体を動かし、感性に触れるダンスの活動を両輪として、新しい層へのアプローチとして話題に挙げられた 30 代・40 代の男性をターゲットとした企画や、街を支えてきたシニア向けにもアクティビティ活動を開発していただきたい。ターゲットもアプローチも増えて、さらに自主事業数が増えることになるであろうけれど。

### ●地域交流プログラムの内容について

アウトリーチは、高根中郷館、神山幼稚園、御殿場中学校（演劇部）で実施。公募型ワークショップは、劇場内の小ホールを利用して実施し、その中から10名の方が作品に出演し、創作発表型の公演事業を開催。

【高根中郷館】 御殿場の農村地域で住民自らが計画し作り上げた施設ということで、日頃からこの施設を利用している地域住民の方を中心に参加者が集まる。平均60歳～70歳の体操教室に通う女性たちを対象に、緩やかにストレッチを行い、呼吸を意識するプログラムを実施。体からじわっと汗をかきながら、柔らかくなった体で可動域を広げていく。アーティストの声かけや動きを模倣することでいつもより深く体と向き合う時間が作れたのではないだろうか。

【神山幼稚園】 幼稚園の年長組一クラスを対象に実施。普段から十分に動かしているだろう体をしっかり使って、動きを模倣してみたり、体でゲームをしてみたりする。その後、アーティストから与えられたイメージを体で表現してみたり、一人一人オリジナルの動きを発見してみたりとテンポよくワークショップが進んだ。途中で下級生や、お母さんたちが見学にいらしたりして、自分たちで考えたダンスや表現を発表する機会を得た。アーティストが教育現場に介入し一つのプログラムを担う事で、先生方や保護者たちはいつもと違う視点で子ども達をみつめる事ができる。これも非常に良い効果をもたらしたと思う。

【御殿場中学校（演劇部）】 演劇部を対象に、放課後の部活の時間を使ってワークショップを実施。アーティストの誘導によりストレッチや日常的な動作の中からダンスを発見するプログラムを実施。体が解放され少しずつ大きく・滑らかに動けるようになる。単独の動きの習得ではなく、動きと動きの間をどう埋めればダンスになるのか、その為には、どのように体を運んだり、呼吸をしたりする事が重要ななどを指導する。普段から演劇作品でもダンスシーンが登場したりするらしいので、今後、このダンス経験をうまく応用し、演劇作品の創作・上演につなげていってほしい。

【公募型ワークショップ】 一般公募で集まった中学生以上の参加者と共に2日間のワークショップを実施。ストレッチやゲームで体を温めた後、日常的な動作や物語の中で発見する体の自然な動きをみつける作業を行う。このワークショップの参加者から、御殿場で創作・上演する市民参加作品『ココ×カラ』の出演者を公募し10名の出演者が決定した。アーティストが念頭より抱いていた、「この場所でしか生まれないダンスを創りたい」という思いを実現すべく、様々なリサーチを行い、ダンス作品の上演へと繋げていった。ワークショップ参加者達も様々なアイデアを提供し、体を動かしながらそれぞれのパートでオリジナルダンスを生み出した。ダンス経験者の割合も比較的多かったので、全体での取り組みと、個々の取り組みをバランスよく組み合わせワークショップを実施し、それが上演作品につながる運びとなった。

### ●公演の内容について

今回の公演は、第一部構成で、市民参加作品『ココ×カラ』から北尾亘作品『good breed Gotemba』へと緩やかに繋がる構成となった。

市民参加作品では、御殿場の風景から想起されるモチーフから舞台美術が配置され、そこにダンスが立ち上がる事で、景色が浮かんで消える空間となった。公募ワークショップ2日間と、他2日間のクリエーションの計4日間で作品を創り上げたとは思えないほど、個々の体から発せられるダンスはオリジナリティに溢れ、作品のクオリティを高めていたと思う。その後、地続きに繋がる北尾亘作品『good breed Gotemba』では、日常生活や御殿場のイメージから想起されるダンスの発展系で構成され、物語る体を目にする事ができた。なにより、内から見た御殿場と外から見た御殿場が同時に舞台に浮かび上がる様子が興味深かった。

今回の試みは、御殿場市民会館としても挑戦的な取り組みだったと思う。自らが企画しアーティストとの対話を通して形作られる公演を企画&制作・創作・上演できた事は実り多かつたのではないかと思う。これまで実施してこなかった新たな領域のジャンルを主催事業としてもたらした事、また、今回の活動を通して関係を持った多くの方々とのネットワークを大切にしながら今後の事業運営につなげていってほしい。

### ●地域交流プログラムの内容について

アウトリーチは、さくら保育園、深阪保育園、希望ヶ丘高等学校で実施。公募型ワークショップは、劇場内の小ホールを利用し、「お母さんのためのワークショップ」「高齢者のためのワークショップ」を実施。この他に、作品のクリエイションを重ねて出演する創作発表型の公演事業を開催した。

【さくら保育園】普段は学芸会などの表現活動は取り組んでいるが、アーティストを招いてのワークショップが初めてで、年長のークラスを担当。当初は26名参加を予定していたが、途中で下級生クラスも見学として参加、アーティストに誘導され、最終的には、全クラスでダンスを踊る形となった。

【深阪保育園】普段より体操教室など体を動かす事に慣れている園児で、年長のークラスを担当。自由奔放に体を動かし、動きを模倣したり、遊びに発展させたりしていった。グループワークでは、それぞれが自分の表現を相手に伝え、ともに一つのテーマでダンスを創作・発表を行う。一見簡単なようだが非常に高度なコミュニケーション能力を要する活動に繋がられた。

【希望ヶ丘高等学校】思春期真っ盛りの高校生男女だった為、開始時に空気を作るのに苦戦していた。普段、総合ビジネス科でパソコンやビジネス学を学んでいる学生の為、体を動かす事自体が億劫で、みんなの前でダンスを踊るなんて恥ずかしいという雰囲気充滿していた。女子生徒の中には体調が悪かったり、最後まで動けなかったりと見学を希望する参加者も多かった。その点、男子はある程度奔放に体からエネルギーを発散し、動きを模倣して自由に踊るところまで自分の体や心を解放することが出来ていた。もう少しクラスとしてのまとまりがあれば、表現活動につなげていただろうが、その点は残念だった。

#### ◎公募型ワークショップ

【お母さんのためのワークショップ】対象を限定し、緩やかでしなやかなダンスワークショップを実施。子育て中のお母さんや、子育ては卒業したけどリフレッシュしたいお母さんなどが受講。互いに体を温めあったり、重力を感じあったりと身体感覚を大切にしたワークショップが行われた。自分の体を知るという事、また、労わるという事を、ダンスを通して感じていただけたのではないだろうか。

【高齢者のためのワークショップ】普段、施設を利用している高齢者の体操教室のメンバーが参加。椅子に座った状態で、ストレッチを行い、可動域を開いていくワークショップが行われた。また、体験中に受け取った動きのモチーフを利用して、二人組になって創作を行う。その後、様々な楽曲に合わせてオリジナルのダンスを発表。普段より一歩踏み込んだ形で体を動かし参加者にも笑顔があふれていた。

### ●公演の内容について

今回の公演は、第一部が市民参加作品『中間ブギウギ』、第二部が田畑真希作品『メルヘン』を上演。

第一部は、中間在住の市民7名が5日間のワークショップを経て作品を創作・発表するというもので、地元の小学生2名、高校生3名、主婦2名の参加があった。年齢も個性もまったく違う7名だったが、ダンス公演にかける情熱はすごく高いものだった。中でも、ホールの事業担当者が事前に交渉をし、特別出演がなかった希望ヶ丘高校相撲部の3名に関しては、まわし姿で、鍛え上げられた体や声をつかったパフォーマンスで気迫がこもっていた。一見、共通点がないメンバー構成だったが、一つの公演を目指すエネルギーと何にも臆さずまず体を使って表現してみるという度胸を感じた。

その後、第二部の田畑真希作品『メルヘン』を上演。一部に出演していたメンバーたちも作品を鑑賞。プロのアーティストのダンスパフォーマンスを目の当たりにして感じ取ったものは大きいだろう。

中間市では、普段はなかなか目にする機会が少ないダンス公演だが、貴重な出会いと、ダンス事業のはじめの第一歩を踏み切ったように思う。ダンスがこのようなメンバーを繋ぎ、観客に向けオリジナルダンスを創作・発表できた事はホールにとっても貴重な体験となったのではないだろうか。これからも継続して事業を計画・実現して行って欲しいと思う。



# 事業資料

北九州芸術劇場

A4 二つ折り

今後の出演情報

- 東野祥子 出演
- ANTIBODIES Collective new creation  
日程 2015年10月24日(土)～26日(月)  
会場 京都 元・立誠小学校全域
- 地域創造公共ホール現代ダンス活性化事業 飛騨古川公演  
日程 2015年12月12日(土)  
会場 飛騨古川 スピリットガーデンホール
- 踊りに行くぜ!!  
日程 2016年1月16日(土)  
会場 札幌コンカリーニョ

北九州芸術劇場 今後のダンスプログラム

- ◀ダンスダイブウィーク 2015年9月5日(土)～20日(日)開催!▶
- 「DANCE20min」  
日時:9月5日(土)、6日(日)両日とも14:00  
会場:北九州まなびとESDステーション
- 「大植真太郎ワークショップ」  
日時:9月9日(水)～13日(日)  
会場:北九州芸術劇場 小劇場
- 夕暮れダンス「野外角打ち。ちよいとごめんよ、じゃまするよ。」  
日時:9月18日(金)～20日(日)16:00～20:00(開演18:00)  
会場:勝山橋ひろば
- 「ショーケース」  
日時:9月19日(土)、20日(日)両日とも14:00  
会場:北九州芸術劇場 小劇場

主催:「公財」北九州芸術文化振興財団 共催:北九州府、(一財)地域創造 企画・制作:北九州芸術劇場

**Dance Dive!** 東野祥子ダンス公演

世界は不在の中の  
ひとつの小さな星

ではないか?

—“A World inside the Absence”—

日時:2015年7月12日(日)14:00  
会場:北九州芸術劇場 小劇場

**Dance Dive!**

東野祥子ダンス公演

世界は不在の中のひとつの小さな星ではないか?

—“A World inside the Absence”—

世界は不在の中のひとつの小さな星ではないか?  
世界は所在なげにたずんでいる。まるで自らを恥じているとでもいうように  
各々の境界線を踏み越えて行く。 いままで知らなかった境地に足を踏み入れて行く。  
そこには自分がある。あなたもいる。 確実にいる。

本日はご来場ありがとうございます。  
この作品は、以前異なるキャストで上演したものを主軸に用い、  
北九州での滞在制作を経て、再び演出/構成し創り上げた作品です。

北九州では、大勢の豊かな個性に出会いました。WS参加者に関しては  
たった4日間のクリエーションで舞台に上がることになりました。  
また、モジュラーシンセサイザーやテープ、SPプレーヤー等を駆使した  
即興演奏、廃材を活用した舞台美術、デジタルとアナログの機材を活用  
した照明デザインなど、私たちのグループと素晴らしい劇場スタッフの  
方々との共同作業によって可能になった様々なチャレンジが盛り込まれ  
ており、小ホールの可能性を大幅に拡張した作品となったと思っています。  
実現に向けて協力下さった全ての皆様へ心から感謝致します。

それではどうぞ「不在の中の小さな星」の様々な出来事をお楽しみください。

東野祥子

演出・振付・出演 東野祥子

出演 山本泰輔、ケンジル・ビエン、吉川千恵  
(以上、カンパニーメンバー)  
荒巻百合、磯崎桜、江原千花、河合史葉、  
小村真理子、近藤澤、坂田久枝、佐々木真奈実、  
正蔵寺高美、高山力造、武石夢香、田島初美、  
西村仁美、橋本朝香、林麻耶、古澤友里絵、  
溝口佳彦、吉元良太、吉森雄作  
(以上、「あなたもダンサー編」参加メンバー)

音楽・演出 カジワラトシオ  
美術 OLEO  
照明 筆谷亮也  
振付アシスタント 吉川千恵

協力「北九州SPレコードを聴く会」安部嘉郎  
使用楽曲「小倉節」作詞:野口南情 作曲:藤井清水(1950年録音)  
ボーナスポール式マイコン機 Columbia MODEL-No.214  
※やわらかい音の出る竹の針を使用して再生しています。

本日開催!!「みんなでトーク編」

本日17:00より、東野祥子ダンスワークショップ「みんなでトーク編」を開催します!  
踊るダンス・みるダンスをアーティストと一緒に考え、言葉にしてみましょう。

ご参加いただける方は、下記の時間に直接会場までお越しください。(申込不要です)  
日時:7月12日(日)17:00～18:00  
会場:北九州芸術劇場6階 演習工房内 稽古場  
対象:この公演をご覧になった方、および東野祥子ダンスワークショップに参加した方。



## 御殿場市民会館

### A4 二つ折り

#### ◎北尾 亘 プロフィール

振付家・ダンサー・俳優/Baobab 主宰  
 1987年兵庫県生まれ。幼少より舞台芸術に興わり、クラシックバレエからストリートダンスまで様々なダンスを経験。  
 2006年桜美林大学入学以降、木佐貫栞子に師事。  
 2009年「Baobab」を立ち上げ、全作品の振付・構成・演出を担う。  
 圧倒的な舞踏を持ち味に、過去9回の単独公演上演。「KYOTO EXPERIMENT2013 公式プログラム」等、地方を含め多数フェスティバルに参加。個人としてソロ作品創作。俳優として〔多田洋之介・中屋敷法仁・杉原邦生・山本卓〕演出作品に出演。〔緑境うさぎ・船山遊泳・コロコロ〕等、演劇作品への振付も行う。  
 また、WSやレッスン講師としての活動にも積極的に取り組み、ダンスの居場所を模索している。

平成27・28年度 地域創造ダンス活性化事業 登録アーティスト  
 トヨタコレオグラフィアワード2012 『Vacuum』にてオーディエンス賞 受賞(2012)  
 第3回エルスール財団新人賞 コンテンポラリーダンス部門 受賞(2014)

#### ◎次回公演情報

◎多摩1キロフェス2015参加  
 Baobab 『Marina bay Sans』  
 〈日時〉9月20日(日)14:00~14:30  
 〈会場〉多摩センター駅~多摩中央公園 1キロのエリア 大階段ステージ  
 〈料金〉無料  
 QP) [1kmfss.com](http://1kmfss.com)

◎北尾亘ダンス WS  
 「体流る重心と可動域をみつめたダンス」  
 〈日時〉9月27日(日)15:00~16:45  
 〈会場〉studio RADA (スタジオ ラダ)  
 東京都中央区日本橋蛸町 1-1-5 日本橋ビル4F  
 〈料金〉2000円(ピシター2300円)  
 QP) <http://www.studiorada.com>

◎平成27年度公共ホール現代ダンス活性化事業  
 マリナードダンスプログラム  
 北尾亘ダンス公演 『Marina bay sans』  
 〈日時〉11月8日(日)15:00開演 14:30  
 〈会場〉清水文化会館マリナード 小ホール  
 〈料金〉全自由席 前 1800円(当日2000円)/高校生・大学生 1000円(当日1200円)/中学生以下 500円  
 〈問合せ〉清水文化会館マリナード t.353-8885  
 QP) <http://www.marinaart.jp>  
 Baobab 活動情報  
 QP) <http://dd-baobab-bb.blog.jp>  
 (BLOG) <http://ameblo.jp/baobab-k08>  
 (Twitter) @dd\_baobab\_bb

#### 北尾 亘 ダンス公演

「カラダで遊べば ココロが躍る！」

## ココカラ × good breed Gotemba



#### 御殿場市民会館 大ホール

2015 / 9 / 13 (Sun) 15:00 start

平成27年度公共ホール現代ダンス活性化事業  
 主催 御殿場市民会館 共催：(一財)地域創造 後援：御殿場市教育委員会・御殿場市文化協会

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。  
 はじめまして、北尾亘です。

この度ご縁がありまして、ココ御殿場の地に新たなダンスの種を蒔きにやって参りました！  
 以前からプライベートで家族やカンパニーの仲間と何度も訪れていた御殿場の地。この機会は少しだけ運命的なようにも思えます。  
 東京からも気軽に外出することが出来る安心感。吹き抜ける風は心地よく、迎えてくださった方々はみんな温かく感じられました。  
 そして御殿場市民会館の魅力的な造形に心奪われ、「この場所ですしか出来ないダンスを創りたい」そんな思いがすぐに芽生えました。  
 市民の方々との出会いにココロが躍り、様々な発想が頭を駆け抜けます！ご質問いただく皆さんにとっても、刺激的な観劇体験になれば幸いです。

優々のカラダが鮮やかに舞台上を躍動し、今日ここから御殿場に新たなダンスが芽吹いていくことを願って！カンパニー一同も大切に請らせていただきます。

朝目覚めたその瞬間からダンスが始まり、皆さんのココロとカラダに爽やかな風が吹き抜ける。  
 感じ方は人それぞれ！ちょっとハンテコでなんだか楽しいダンスの始まりです。

#### Program

市民参加作品 「ココ×カラ」

北尾 亘 作品 「good breed Gotemba」

<出演>北尾 亘 (きたお・わたる)・米田 沙織 (よねだ・さおり)

傳川 光留 (つたがわ・ひかる) 以上、ダンスカンパニー-Baobab

ワークショップ「ココカラ」参加者のみなさま

<振付・構成・演出>北尾 亘

★終演後 15分程度のアフタートークあり

#### アウトリーチ活動

御殿場市民会館では、公共ホール現代ダンス活性化事業、通称「ダン活」のアウトリーチ活動として、市民の方がアーティストと触れ合う機会を作りました。

#### 高根中郷館 フラダンス・ストレッチ同好会



#### 神山幼稚園 年長クラス



#### 御殿場中学校演劇部



# 静岡市清水文化会館マリナート

A3 二つ折り

平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業  
マリナートダンスプロジェクト

## 海の見える街で踊る!!

北尾亘ダンス公演  
**Marina bay Sans**  
マリナ バイ サンズ

2015.11.8 sun 15:00~  
静岡市清水文化会館マリナート 小ホール



**北尾亘プロフィール**  
振付家・ダンサー・俳優/Baobab 主宰  
1987年兵庫県生まれ。幼少より舞台芸術に関わり、クラシックバレエからストリートダンスまで幅広く経験。2006年桜美林大学入学時より木佐貫邦子に師事。2009年「Baobab」を立ち上げ、全作品の振付・構成・演出を行う。  
個人ではソロ作品の創作、若手良平作品等出演。[和歌う客・ロロ]など演劇への振付や、俳優として一人芝居に出演するなど活動は多岐にわたる。  
近年ではWS・アクトリーナ活動・レッスン講師も積極的に、多角的にダンスの居場所を構築している。  
第3回ニルズール財団新人賞 コンテンポラリーダンス部門(2014)受賞  
トヨタコレオグラフィアワード2012 オーディエンス賞

---

**Baobab プロフィール**  
2009年秋創設。現在5人のメンバーを有し、5年間で9回の単独公演を実施。小作品を合わせると20を越え、ハイペースな創作活動を展開している。  
作品毎にダンサーや役者の垣根を越えた人材を募り、土着的でリズムカルな振付を用いた圧倒的な群舞が特徴。「時に囁き歌い 涙山笑ってたまに泣く」強いパフォーマンス性と、身体への深い考察の双方を持ち合わせた底力のある作品を創作。[人間を横きながらダンスと演劇の狭間を浮遊する創作手法が]注目を集める。  
KYOTO EXPERIMENT 2013(京都国際舞芸芸術祭)公式プログラムのほか、多摩1キロフェスタ光まちなか芸術祭/金沢21世紀芸術祭・インパクト芸術祭vol.2等、様々な地域でのフェスティバルにも積極的に参加。観客を盛り上げるパフォーマンスで観客とのボーデナスな関係を生み出している。  
[HP] <http://dd-baobab-bb.bo.jp>  
[BLOG] <http://ameblo.jp/baobab-k08/>  
[twitter] @dd\_baobab\_bb

---

**今後の予定**  
Baobab ディレクション企画  
『Dance+Scrum!』  
日程:2016年3月19日(土)~21日(月・休)  
北尾亘がディレクターを務める大規模なダンスフェスティバル。  
Baobabの他、10組以上の若手ダンスクリエイターが集い、コンテンポラリーダンス界に新たな波が誕生する!  
会場:あうるすぽっと(東京)

---

主催:静岡市清水文化会館マリナート  
共催:一般財団法人地域創造  
後援:静岡市教育委員会  
企画・制作:公益財団法人静岡市文化振興財団

### ごあいさつ

本日は、北尾亘ダンス公演『Marina bay Sans』へお越しいただき、誠にありがとうございます。  
この公演は、(一財)地域創造の支援により行われる「公共ホール現代ダンス活性化事業(通称ダンス活)」の一環として行われるものです。マリナートでは、このダンス活事業を「マリナートダンスプロジェクト『海の見える街で踊る!!』」と名付け、今年4月から来清水アーティストの北尾亘さん、コーディネーター、地域創造スタッフと街の下見を始め、プログラムを練り、11月3日から6日間、清水の街の各所、地元小学校、高商店、文化施設を回り、ダンスを通じて街の皆さんと出会い、心も身体も踊る。豊かな時間を過ごさせていただきました。  
マリナートとしては、初の試みでしたが、プロジェクトにかかわってくださった皆さんの心に、少しでもダンスの楽しさや身体と付き合うことの面白さなど、何か心癒い感じが残ると良いな...と願っています。次回には、この1週間の記憶を掲載しますので、ごんね1週間があったことを知っていただけたらうれしいです。  
そして、本日は、このプロジェクトの最後を飾るダンス公演です。北尾さん主宰のダンスカンパニー「Baobab」メンバーも駆けつけ、圧倒的な舞台を披露します。どうぞ、最後までお楽しみください。  
静岡市清水文化会館マリナート

皆さま、こんにちは!  
初めましての方は、はじめまして。ダンスカンパニーBaobab主宰の北尾亘です。  
本日は送々この美しい「清水文化会館マリナート」にお運びいただき誠にありがとうございます。  
ダンス活が決まってから1年。いよいよ最後を飾る公演の時。  
この頃のマリナートさんとの出会いは運命的なものだと感じています!(後に触れます)  
清水の街には人を元気にする力が溢れています。清水駅に降り立つと不思議と力がみなぎってカラダがうすく感があるのです。  
緑豊かな木々、富士山、壮麗な工場(工業地帯フェチです)、キラキラ光る港。期待高まるマリナートへの道。一瞬で心奪われました!  
駅前銀座商店街には訪れた人を包むような包容力と温かさがあり、それは高店の方々の人柄とそこに集う人々の空気だとその後わかりました。  
振付家・ダンサーとして出逢った方々(若者男女)は、音カラダの面白さ・ダンスの楽しさを心から欲していて、目一杯味わい全身で楽しんでくれました。「これが清水の街に集まるエネルギーの原動力なのか!」と、目まぐるしい一週間の中、丸山の方に出会いダンスを通じて触れられたことに感謝します。そしてダンスの力にも、本日上演致します作品『Marina bay Sans』は、連明をモチーフに創作したBaobab最新長編作品です。  
4月に初めて実現した際、大切に創作していたこの作品、「海の見える街」清水にてお披露目できることが本館に幸せです。  
ある日の出来事から、まっさらになった建物、宮み、記憶。  
もしかしたら自分の目で見てきたかもしれない事実を少しだけ整理して。  
ふたたび舞われていくまで誰の目に希望の光を照らすことを願って大切に踊ります。  
さあ、出逢ってしまった方には是非おまねば!  
新たなダンスとの出会いは、運命なる航海への船出。どうぞお付き合い下さいませ。  
北尾 亘

### 海の見える街「清水」で踊った1週間

ワークショップ・アクトリーナ  
講師:北尾亘 参加:米田沙織

2015年11月3日(水・祝) こだもクリエイティブタウンまある  
振付家にならう!プロのダンサーと一緒に振付を考えてみよう~

授業終了後、子どもたちが、素敵な歌をプレゼントしてくれました。

11月4日(水)・5日(木)  
静岡市清水区清水小学校4.5年生  
学校ダンス出前授業

11月4日(水) マリナート リハーサル室  
「踊ってみたい人」のための  
ダンスワークショップ

11月5日(木)  
清水駅前銀座商店街空き店舗 KIBAKO  
「日々の疲れを癒す」清水駅前銀座商店街  
ワークショップ

11月7日(土) 清水駅前銀座商店街「ダンスジャグ」 一般公募者とBaobabメンバーが専載。  
富士山コスプレ世界大会開催中の清水駅前銀座で、初音ミクの音楽に合わせてネギを踊る。



《ワークショップ・アウトリーチの様子》



11/3 プレワークショップ



12/9 神岡小学校 4年生



12/10 古川中学校 2年E組



12/10 古川小学校 4年3組

12/11 飛騨古城特別支援学校高等部

飛騨市文化交流センター今後のイベント予定

- 12月20日(日) テリー・ボジオ ジャパンツアー2016 《完売》
- 1月8日(金) ランチタイムコンサート vol.25 ピアノトリオ
- 2月20日(土) 高橋ジョージ&THE 虎舞竜コンサート 12/20 発売

平成27年度 公共ホール現代ダンス活性化事業

飛騨市文化交流センター



東野祥子コンテンポラリーダンス公演  
**CHRONOPHOBIA**

2015年12月13日(日)14:30 開場/15:00 開演  
飛騨市文化交流センター スピリットガーデンホール

**CHRONOPHOBIA**

歪んだ時間に痙攣する軸とその関係  
無垢な時間と無情な時間

時間軸とその関係

無情

時間の崩壊

時間のおり

赤い時間

記憶

警告

ワルツ

本日はご来場ありがとうございます。  
今日の作品は、5日間の短い期間でしたが、飛騨のみなさんと私たちで共に全力で、こゝスピリットガーデンホールで初めてのダンス作品を創作しました。  
様々なジャンルのダンスを学んでいる人、始めてダンスに触れる人、勇気を出してチャレンジしてみた人、それぞれ違う環境で生活するメンバーで1から、ダンスにまつわる振付や間、相手とのコミュニケーション、劇場の使い方などたくさんを学びました。また、プロのシーンで活躍するカンパニーメンバーの音楽家や映像作家、照明デザイナーと共にこの作品を演出していき、雄大な世界に仕上げていきました。  
今回関わって下さった関係者のみなさまに心より感謝いたします。  
みんながのびのび踊る姿をどうぞご覧ください。

ANTIBODIES Collective 東野祥子

出演 東野祥子、吉川千恵

(ワークショップ参加者)  
尾上実梨、坂本恵美

藤白萌歌、藤白桃歌、岡田智咲、大中爽嘉、西垣佳純、飼場夏姫  
高野玲亜、森口朋香、高野莉優

神代瑠那、大中美奈、宮下芳江、尾上智華、鳥塚英玲奈、河兒美紗

演出・振付 東野祥子  
音楽・演出 カジワラトシオ  
映像 斉藤洋平  
照明 筆谷亮也

後援:飛騨市、飛騨市教育委員会、岐阜新聞・ぎふチャン  
共催:一般財団法人地域創造  
主催:飛騨市文化交流センター指定管理者 NPO 法人ひだ文化村

東野祥子 Yoko Higashino 演出・振付・出演

2000-2014 まで「Dance Company BABY-Q」を主宰し、数々の舞台芸術作品を国内外の劇場やフェスティバルにて発表。ソロ活動としても数多くのミュージシャンと即興セッションを多方面で展開する。また自身のダンスワークショップでの人材育成や学校教育プログラムなども精力的に実施している。トヨタコロオグラフィアワード、横浜ソロメデュオ<Competition>など受賞歴多数。最近「HE?XION!」名義にて洋服デザイン、衣装製作なども行っている。全日本 DanceTruck 協会会長。2015 年京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を立ち上げ、多ジャンルのアーティストとともに作品制作やパフォーマンスアクションを実施する。  
www.antibo.org

地域交流プログラム  
2015年12月8日～10日



さくら保育園



私立希望が丘高等学校



深坂保育園



お母さんのためのワークショップ



高齢者のためのワークショップ

【ダンスとは?】

公共ホールダンス活性化事業(ダンス)は全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストと専門家のコーディネーターを市町村の公共ホールに派遣し、アーティストとホールが共同で企画した地域交流プログラムと公共ホールでの公演を実施するものです。  
アーティスト: 田畑真希 コーディネーター: 佐東麗 サブコーディネーター: 清水幸代



平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業



2015.12.13(SUN) 14:30 open 15:00 start

一部: 市民参加作品『中間?ギウギ』/ 二部: 田畑真希作品『メルヘン』

主催: 公益財団法人 中岡市文化振興財団 共催: 一般財団法人 地域創造 後援: 中岡市 中岡市教育委員会



本日はご来場いただきましてありがとうございます。1週間、中岡市に滞在し、ダンスを通じて沢山の素敵な出会いがありました。可愛い保育園児たち、思春期まっさかりの高校生、子育て中のお母様方、とても元気な大先輩たち。そして、共に身体を動かし、一緒に作品を創った7名の市民ダンサーズ! 0歳から91歳まで、パワー溢れる人懐っこい中岡市の人達との出会いは、私にとってとても贅沢で実りの多い時間でした。この素晴らしい出会いを噛みしめながら、私達のダンスを捧げます。最後まで楽しんでいただけたら幸いです。

田畑真希

第一部: 市民参加作品『中間?ギウギ』

本番日を含めて5日間という限られた時間で練習を重ねた7名。田畑さんのスパルタ指導に食らいつき、日を追うごとに成長していく姿は素晴らしく、非常に完成度の高いものに仕上がっています。みどころは、特別出演の希望ヶ丘高校相撲部3人の…。小学生2人の…。主軸2人の…。うーん観てのお楽しみです。

担当者より

演出・振付: 田畑真希

出演: 有瀬丈人、栗林紀子、権藤栄作、杉田祐平、中田彩陽、星野倫子、見田剛多海 (5才10歳)



第二部: 田畑真希作品『メルヘン』

演出・振付・出演

田畑真希



『タバマ企画』主宰。3歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トウシューズを履いて踊ることにキモンを感じ、更なる表現を追求するため、桐朋学園短期大学演劇科に入学。群余曲折を経てダンスの世界へ。以降、ダンサーとして様々な振付家の作品に参加し、国内外の舞台に出演するが、2007年より作品を留り始め、横浜ダンスコレクションR2009にて「未来に預けたく横濱賞」、「マスタング賞」をW受賞し、2009年ダンスフェスティバル「MASDANZA」、オランダ、韓国、2010年シンガポール、「esplanade」にて自身の作品を上演する。2010年ヨトレオグラフィアワードファイナリスト。

出演

山下貴司(ダンサー)

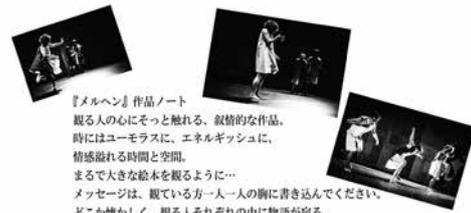
広島県生まれ。高校時代に演劇と出会い、「天辺塔」に入団。役者の道を突き進む中、ダンスと出会う。上京後、ダンスを中心に活動。タバマ企画には2009年「ドラマチック、の国」ヨーロッパツアーより参加。

カスママリコ(ダンサー)

7歳よりクラシックバレエを始める。ヨーロッパや北アメリカに渡り、コンテンポラリーダンスを主とし様々なダンスを学ぶ。2002年 School of Toronto Dance Theatre 卒業。2007年文化庁海外研修員としてドイツへ留学。2008年よりタバマ企画に参加。

デジ(ミュージシャン)

GENTLE FOREST JAZZ BAND 等、スウィングジャズ系のバンドで活躍する傍ら、作曲家として方々に楽曲提供も行っている。見た目に似合わず、メランコリック&ノスタルジックな作風が特徴。自称、日本一自転車に詳しいベテラン・日本一ベースが弾ける自転車ライダー。



『メルヘン』作品ノート

観る人の心にそっと触れる、叙情的な作品。時にはユーモラスに、エネルギーに、情感溢れる時間と空間。

まるで大きな絵本を観るように…

メッセージは、観ている方一人一人の胸に書き込んでください。

どこか懐かし、観る人それぞれの中に物語が宿る

男女3人のトリオ作品です。

～過ぎ去ったモノ達と、これから始まる未来への懸念～





## 平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱

---

### 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業及び地域交流プログラム等を実施する。

### 2 対象団体

原則として、当該事業を実施したことの無い以下の団体を対象とする。

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

### 3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

### 4 事業内容

当該事業の実施団体は、次の事業を実施する。なお、(1)と(2)は、原則として、合わせて 6 泊 7 日以内の事業日程で行うものとする。ただし、企画の内容等により、当該日程の範囲内で事業を実施することが難しい場合は、関係者間で協議し地域創造が認めた場合において、現地見（個別研修）を含めた日数の範囲内で行うことができるものとする。

派遣するアーティストは、別紙 1 の登録アーティスト（ソロ、またはデュオ）の中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

#### (1) 公演（ダンス公演）

公共ホール等で開催する有料のコンテンポラリーダンス公演（以下「公演」という。）を 1 回実施する。

なお、入場料収入は実施市町村等に帰属するものとする。

#### (2) 地域交流プログラム

学校や福祉施設等でのアウトリーチ<sup>(※1)</sup>及び公募等によるホール内で実施するワークショップ<sup>(※2)</sup>（対象には学校の教職員等を含む。）を 5～6 回実施する。なお、アウトリーチは最低 3 回、ワークショップは最低 1 回実施する。

※1 1 回 90 分を目安とする。

※2 1 回 120 分を目安とする。

### (3) 関係者向けワークショップ

現地下見（個別研修）時において、アウトリーチ先（候補を含む。）の学校や福祉施設等の職員及びホールスタッフを対象としたワークショップ<sup>(※)</sup>を1回実施する。

※ 60分を目安とする。

## 5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、別紙2に定める額を上限として地域創造が負担する。ただし、下記以外の現地移動費、舞台制作費、広報宣伝費、会場要員費その他の諸経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、実施団体の負担とする。

### (1) 公演、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

#### ① アーティスト等（登録アーティスト、アシスタント<sup>(※1)</sup>、共演者及びテクニカルスタッフ等<sup>(※2)</sup>）派遣経費

出演料又は謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

※1 地域交流プログラムのアシスタント及び公演の共演者である者をいう。

※2 公演準備（地域交流プログラムを除く。）のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手及び制作者等をいう。

### (2) 現地下見（個別研修）に係る経費

登録アーティスト及びテクニカルスタッフ等の交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料を地域創造が負担する。

## 6 事業実施に対する支援

### (1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、現地下見（最大2回まで）及び実施時に行う。

## 7 提出書類等

### (1) 事業申込書 …別記様式 1-1、1-2、1-3

平成27年度に本事業の実施を希望する対象団体は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成26年6月10日（火）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2（2）及び（3）に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。（別記様式 1-4）

- 
- (2) **事業実施計画案** …別記様式 2-1、2-2  
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。
- (3) **事業実施計画書** …別記様式 3-1、3-2、3-3  
事業実施2ヶ月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (4) **事業実績報告書** …別記様式 4-1、4-2、4-3  
事業終了後30日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ・パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。  
ただし、平成28年3月16日（水）以降に事業が終了する場合には、平成28年4月15日（金）までに提出すること。
- (5) **公演負担金請求書** …別記様式 4-4  
該当する経費がある場合は、事業終了後30日以内に、別途指定する関係書類を添えて提出すること。  
ただし、平成28年3月16日（水）以降に事業が終了する場合には、平成28年4月15日（金）までに提出すること。
- (6) **変更承認申請書** …別記様式 5-1、5-2  
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。  
なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 8 その他

- (1) **共催に関する表示**  
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。  
(表示例) 共催：一般財団法人地域創造、共催：(一財) 地域創造
- (2) **損害賠償の免責**  
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) **関係書類の提出**  
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) **情報提供**  
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) **その他**  
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。  
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施市町村等が協議して決定する。

## 登録アーティスト

- ・平成 27・28 年度 登録アーティスト（計 6 組）  
青木尚哉、伊藤キム、北尾亘、田畑真希、田村一行、東野祥子

## 参考

## 事業の流れ・手続き等

## ●平成 26 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
5 月～6 月上旬	申込み受付（6 月 10 日（火）締切）	事業申込書 （別記様式 1-1、1-2、1-3*） （*要綱 2(2)及び(3)に該当する団体は、地方公共団体の長の副申書（別記様式 1-4）を添付）
7 月上旬	事業内定通知	
8 月 5 日～7 日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 （開催場所：東京芸術劇場）	
8 月中旬	事業実施計画書の提出	事業実施計画案 （別記様式 2-1、2-2）
9 月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

## ●平成 27 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4 月上旬	事業決定通知	
4 月～	現地下見（個別研修）の実施 （関係者向けワークショップの実施）	
事業実施 2 ヶ月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書 （別記様式 3-1、3-2、3-3）
事業終了後 30 日以内	実績報告、負担金の請求	事業実績報告書 （別記様式 4-1、4-2、4-3） 公演経費負担金請求書 （別記様式 4-4）

## 地域創造が負担する経費

## 1 公演事業、地域交流プログラム及び関係者向けワークショップに係る経費

## ①登録アーティスト（ソロまたはデュオ）

- ・ 1回の公演及び5～6回の地域交流プログラム並びに1回の関係者向けワークショップに係る出演料
- ・ 6泊7日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※出演料に含まれる経費

ワークショップ講師・公演出演料、振付・演出料、衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費、照明・音響プラン料、制作費、稽古場代、公演に使用する映像ソフト代、写真使用料、広報・宣伝及びプレ・アフタートーク等関連企画への協力、個別研修、経常経費、飲食費

※関係者向けワークショップに係る宿泊費及び日当、交通費、損害保険料は、現地下見（個別研修）に係る経費で支給する。

## ②アシスタント（登録アーティストがソロの場合に限り1名まで対象とする。）

- ・ 1回の公演及び5～6回の地域交流プログラムにかかる出演料
- ・ 6泊7日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※「4 事業内容」のただし書きにより事業を行う場合には、上記に加え、必要に応じて現地移動費を除く1往復分の交通費、宿泊費及び日当を負担する。

## ③公演の共演者（1名）

- ・ 1回の公演出演料
- ・ 3泊4日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

## ④テクニカルスタッフ等（1名）

- ・ 公演準備にかかる謝金
- ・ 3泊4日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

※テクニカルスタッフ等が派遣されない場合に限っては、公演負担金（交通費を除く）として10万円（税込）を限度として負担する。

## 2 現地下見（個別研修）に係る経費

## ①登録アーティスト

- ・ 1泊2日以内で2回分までの宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く2往復分までの交通費
- ・ 損害保険料

## ②テクニカルスタッフ等（1名）

- ・ 1泊2日以内の宿泊費及び日当
- ・ 現地移動費を除く1往復分の交通費
- ・ 損害保険料

### コーディネーター

#### ●佐東 範一(プロデューサー、NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)代表)

1980年舞踏グループ「白虎社」の創立に参加。以後1994年の解散までの国内公演、海外ツアーにて舞踏手兼制作者として活動。1996年アメリカ・ニューヨーク、ダンス・シアター・ワークショップにて1年間のアートマネジメント研修。1998年から3年間の準備期間を経て、2001年NPO法人JCDNを京都にて設立。ネットワーク型NPOとして、「踊りに行くぜ!!!」開催、「コミュニティダンス」の普及、「三陸国際芸術祭」の開催、「ダンス・イン・レジデンス」の推進、日本全国にて社会とダンスをつなぐ様々な活動を行っている。

#### ●志賀 玲子(プロデューサー)

2005～2009年度大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。1990～2008年兵庫県伊丹市立演劇ホール(アイホール)プロデューサー。2000～2007年びわ湖ホール夏のフェスティバルプログラムディレクター。2003～2006年京都造形芸術大学舞台芸術研究センタープロデューサー。他、一般財団法人地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネーター、岩下徹制作、等。2005年6月より、神経難病ALS発病の友人の支援を開始。現在、京都/西陣で織屋建の町家を改造しダンスの稽古場を併設した空間で、24時間他人介護による独居生活<ALS-Dプロジェクト>をコーディネート。介護福祉士。

#### ●菊丸喜美子(プロデューサー)

アートマネジメント、文化政策全般に関する講座の企画・運営のほか、国内外のコンテンポラリーダンスの企画制作に早期から携わる。フォーサイスカンパニーを初めとする海外アーティストの招聘、国内アーティストのプロデュースを手がける一方、地域の公共ホールとアーティストを結ぶ活動にも積極的に取り組み、地域滞在型(アーティスト・イン・レジデンス)のワークショップと公演、市民参加型の事業にも多数の実績を持つ。また、演劇、音楽、美術をはじめとするジャンルを超えた芸術・文化活動全般にも意欲的に取り組んでいる。CAN代表。独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(舞踊)。

#### ●花光 潤子(パフォーミングアーツプロデューサー、NPO 法人魁文舎代表)

演劇・ダンス・ビデオアート・現代音楽などの現代芸術から伝統芸能まで、ジャンルを越えた実験的な舞台芸術作品を多数企画プロデュースする。海外との芸術交流も多く、1984年エジンバラ演劇祭招待参加を皮切りに日本人アーティストの外国公演のオーガナイズや外国のカンパニーの招聘公演、国際共同製作などを手がける。アジア女性演劇会議、日韓友好記念舞踏フェスティバル等の事務局長を歴任。1990～1992年オルタナティブスペース「246CLUB」の海外部門ディレクター、1992～1997年まで藤沢市湘南台市民シアターで芸術監督太田省吾氏の下、自主事業の企画制作に従事。その経験を活かし、地方都市の文化行政や施設運営に関する芸術環境整備の提言、調査研究などの仕事にも携わる。1996年から10年間大阪のIMI大学院スクールにてアートマネジメントの人材育成に務め、現在多くの卒業生が全国各地の文化施設で活躍している。

#### ●平岡久美(Dance in Deed! 代表)

主にコンテンポラリーダンスの制作として、黒沢美香、川村美紀子をはじめ多くのアーティストの公演やワークショップの開催に携わるほか、トヨタコレオグラフィアワード、青山劇場・青山円形劇場(こどもの城)等の制作に参加。2003年「フランスダンス2003」事務局次長、2009・2012年「ダンストリエンナーレトーキョー」プロデューサー、2014年～「Dance New Air-ダンスの明日」プロデューサーを務め、ダンスフェスティバルの企画・運営も行う。近年は、篠原聖一、下村由理恵、キミホ・ハルバートなどバレエ公演の制作も手がけている。

### サブコーディネーター

#### ●清水幸代(LANDSCAPE 代表)

京都出身。2001年日本女子体育大学(体育学科/芸術スポーツコース)卒業。高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得。慶應義塾大学アート・センター主催「アート・マネジメント・エキスパート・セミナー」修了。文化庁インターンシップ国内研修員として、新国立劇場、日本芸能実演家団体協議会などで研修。トヨタ自動車株式会社主催「トヨタコレオグラフィアワード」の立上げ及び事務局運営に携わる。2004年より世田谷パブリックシアターに勤務。企画・制作スタッフとして公演事業、教育普及事業、フェスティバル運営やアーティストの支援などに多数携わる。2014年より京都に移住し、街や劇場・大学など既存の空間や組織と協働しながら、様々な事業を企画・運営。文化芸術振興と創造環境のデザインをテーマに活動を行う。

平成 27 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／平成 28 年 6 月